白馬村第５次総合計画

基本構想

2016 － 2025

基本計画

2016 － 2020

白馬の豊かさとは何か

―多様であることから交流し学びあい成長する村―

白馬村村民憲章（昭和54年11月1日制定）

わたくしたちは、北アルプスの山なみにいだかれて生きる、白馬村民です。
白馬岳、姫川に象徴される 豊かな自然風土は、わたくしたち白馬村民のいのちです。
わたくしたちは、村の歴史をとうとび、未来を語り、さらにすばらしい村にする願いをこめて、ここに村民憲章を制定します。

一　自然に学び風雪に耐えて　力強く生きましょう

一　先祖の遺産を受け継ぎ　地域に根ざした文化を築きましょう

一　あたたかい心を育て　明日をつくる喜びをわかちましょう

一　美しい山河を守り　住みよい村をつくりましょう

一　白馬の土と人を愛し　来訪者をあたたかく迎えましょう

村長あいさつ

本村には、国内外から移住された方や、定期的に来訪される方も含め、この地域を愛する多くの人々が生活・滞在しています。平成28年度から10年間の村づくりの方針を示す「白馬村第5次総合計画」では、策定の過程で多くの村民や白馬ファンなどからご意見を伺う中で、「多様性」と「学びあい」をテーマに、白馬村にとっての「豊かさ」を問い続けることで、成長し続けることを基本理念としています。

平成26年11月に発生した長野県神城断層地震では、「地域の絆」による共助の防災・減災モデルとなり、全国から注目を集めました。地域コミュニティの重要さを改めて認識すると同時に、人口減少・高齢化社会を迎え、経済的・物的規模が縮小していく時代において、地域コミュニティをどのように維持し、村民と行政との「協働のまちづくり」をどのように推進するのか、真剣に向き合って考える時期を迎えています。

幸いにも白馬村には、世界中の人を惹きつける山岳景観や自然環境があり、その土地の暮らしに根付いた多様な歴史や文化も各地区に残っています。第4次総合計画の基本理念である「むらごと自然公園」の考えを踏襲し、それらの貴重な資源を守り受け継ぐとともに、国内外からの移住者や来訪者など白馬村を愛する多様な立場の人々との交流から「学びあう」ことを意識し、様々な分野で「白馬の豊かさ」を発見しながら成長していく必要があります。

村制施行60周年という節目を迎え、70周年に向けての10年間は、村民一人ひとりが「豊かさ」を感じるとともに、あたたかいおもてなしの心を持つことで、国際的な観光地としての地位を確立できるよう村づくりを進めてまいります。

本計画の策定にあたり、計画審議会委員の皆様や、アンケートやインタビューに応えていただいた皆様、さらに度重なるワークショップにご参加いただいた村内外の皆様など、多くの方々にご協力いただきましたことに心から感謝いたします。

計画は策定することが目的ではありません。村民の皆様や関係機関・関係団体等とともに、各事業が確実に遂行できるよう取り組んでまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

白馬村長　下川　正剛

目　次

第１章　策定趣旨

1. 計画策定の意義 …… 2
2. 総合計画の構成 …… 3
3. 総合計画の策定の流れ …… 4
4. 白馬村を取り巻く状況 …… 5

第２章　基本構想

1. 基本理念と基本目標 …… 14
2. 総合計画の計画期間 …… 21
3. 総合計画の推進 …… 21

第３章　基本計画

1. 暮らし　ー　安心してみんなが暮らせる村 …… 25

(1) 多様性を尊重し、住民が主体的に協働・共生する村づくり …… 25

住民参画と協働 …… 25

開かれた行政運営 …… 26

多様な人々の交流・共生 …… 26

(2) 安心・安全の生活を支える村づくり …… 28

防災・減災の強化 …… 28

日常の住みよさの確保 …… 30

(3) 支え合う福祉と健康の村づくり …… 32

子育て支援 …… 32

障がい者支援 …… 35

高齢者福祉 …… 37

健康づくりと地域医療の充実 …… 38

(4) 自立的・効率的で健全な行財政の村づくり …… 40

情報通信技術の活用 …… 40

行財政改革の推進 …… 41

2. 産業　ー　新しい仕事をつくりだす村 …… 43
(1) 「世界水準」を意識した観光の村づくり …… 43
競争力と持続可能性を高める観光地経営 …… 43
(2) 農地と森を守り地産を活かす村づくり …… 46
優良農地の保全 …… 46
農産物のブランド化と特産品の生産・販売の推進 …… 49
森林の整備と活用 …… 50
(3) 商工業の振興により雇用を生みだす村づくり …… 51
商工振興・創業支援 …… 51
(4) 民間活力を活かす村づくり …… 52
産官学金労言連携 …… 52

3. ひと　ー　一人ひとりが成長し活躍できる村 …… 53
(1) 学びあい育てあう村づくり …… 53
次代を担う子どもたちの学習支援 …… 53
生涯学習と青少年育成 …… 54
(2) 生涯にわたりスポーツに親しむ村づくり …… 56
スポーツによる健康づくりと活力の創造 …… 56
(3) 一人ひとりに活躍の場がある村づくり …… 58
人のつながりによる活力の創出 …… 58
男女共同参画社会の推進 …… 59

4. 自然　ー　魅力ある自然を守る村 …… 60
(1) かけがえのない山岳自然環境を守る村づくり …… 60
天恵の自然との共生 …… 60
自然エネルギーの利活用 …… 61
(2) 自然との生き方を受け継ぐ村づくり …… 61
守るべきふるさとの歴史と文化の継承 …… 61
(3) 美しい景観を守り育む村づくり …… 62
自然環境に調和したまちづくりの推進 …… 62
(4) きれいな水と空気に囲まれる村づくり …… 64
ごみ処理広域化への対応とごみ減量化 …… 64
きれいで安心・安全な水環境 …… 65

第1章

策定趣旨

1. 計画策定の意義

美しい自然と山岳景観に恵まれた私たちの白馬村は、1956年（昭和31年）に神城村と北城村の合併によって誕生し、2016年（平成28年）に合併60周年を迎えました。

これまで、豊かな自然を活用し、スキーや登山といった観光業と農業を中心に、国際的な山岳リゾートとして発展してきた本村ですが、バブル崩壊後の「失われた20年」と呼ばれる長期不況のあおりにより、基幹産業である観光業は大きな影響を受け、立ち直っていくための再構築の段階にあります。そのために、他に主要な産業を持たない本村の経済環境を様々な施策を実施して、再浮上の機運を醸成してきました。

また、昭和50年代から多くの移住者を受け入れ、増加を続けていた村の人口も、全国的に急速に進む少子高齢化の影響により、2005年（平成17年）をピークに減少に転じ、2015年（平成27年）の国勢調査結果によれば8,929人と9,000人を割り込み、これより約30年後には、昭和50年代の水準に落ち込むと推計されています。

本村においても進む少子高齢化は、地域住民の連帯感を希薄なものにさせ、これまで地域の活動の担い手であった行政区など、地域コミュニティの維持が困難になってきています。また、地域コミュニティの崩壊は、地域経済の低迷と相まって、地域で「活動できる人材」の減少を招いています。

そのような中、2014年（平成26年）11月22日に発生した「長野県神城断層地震」は、本村の過去に例の無い多大な被害を与えました。しかしながら、多数の家屋が倒壊し、社会インフラが寸断されるような被害に遭ったにも関わらず、この震災による直接的な死者はなく、全国からは「白馬の奇跡」と呼ばれました。これは、地域住民が真に「共助」の精神によってお互いに助け合った結果であり、住民同士の「絆」や地域コミュニティの重要さを再認識させるきっかけとなりました。

国は、地域の疲弊を打開する重要政策として「地方創生」を推進し、地方が活力を取り戻し、人口減少に歯止めをかけ、地方からの日本再生を目指しています。地方の活力の源泉は、そこにいる住民であり、地域のコミュニティです。これからの10年は、いかに地域住民が幸せに充実して地域で暮らせるか、そして地域のコミュニティをいかに再生していくかが重要な課題となってきます。

今回の白馬村第５次総合計画では、第４次総合計画の基本理念である「住民と行政との協働」を更に一歩進め、住民が主役となった地域づくりを目指します。そのために、画一的な取り組みではなく、地域の実情に合った取り組み（施策）を地域住民と一緒になって検討しました。

この総合計画を中心に、白馬村総合戦略など他の行政計画と連動しながら、地域住民一人ひとりが輝きながら活躍できるように施策を展開し、10年後においても本村に住民が誇りを持って住み続けられる村づくりを目指せるようにします。

2. 総合計画の構成

第5次総合計画は、長期間を展望した白馬村の将来の姿を示す「基本構想」、取り組みの内容を示した「基本計画」、これらを実現するための具体的な事業を示した「実施計画」、によって構成されています。この計画を通じて村づくりを進めていくための基本的な考え方やお互いの役割を共有します。

白馬村　第５次総合計画

基本構想
H 28 (2016) ～ H 37 (2025)

村づくりの将来像と基本となる考え方を明らかにしたもの

「基本構想」に書かれていること
- 白馬村の基本理念
- 基本目標
- 総合計画の計画期間
- 総合計画の推進

＋

基本計画
前期： H 28 (2016) ～ H 32 (2020)
後期： H 33 (2021) ～ H 37 (2025)

村づくりの理想像を実現するため、基本目標や事業を分野別に整理して体系的に示したもの

「基本計画」に書かれていること
- 基本計画の体系
- 基本計画

実施計画
（３年間）

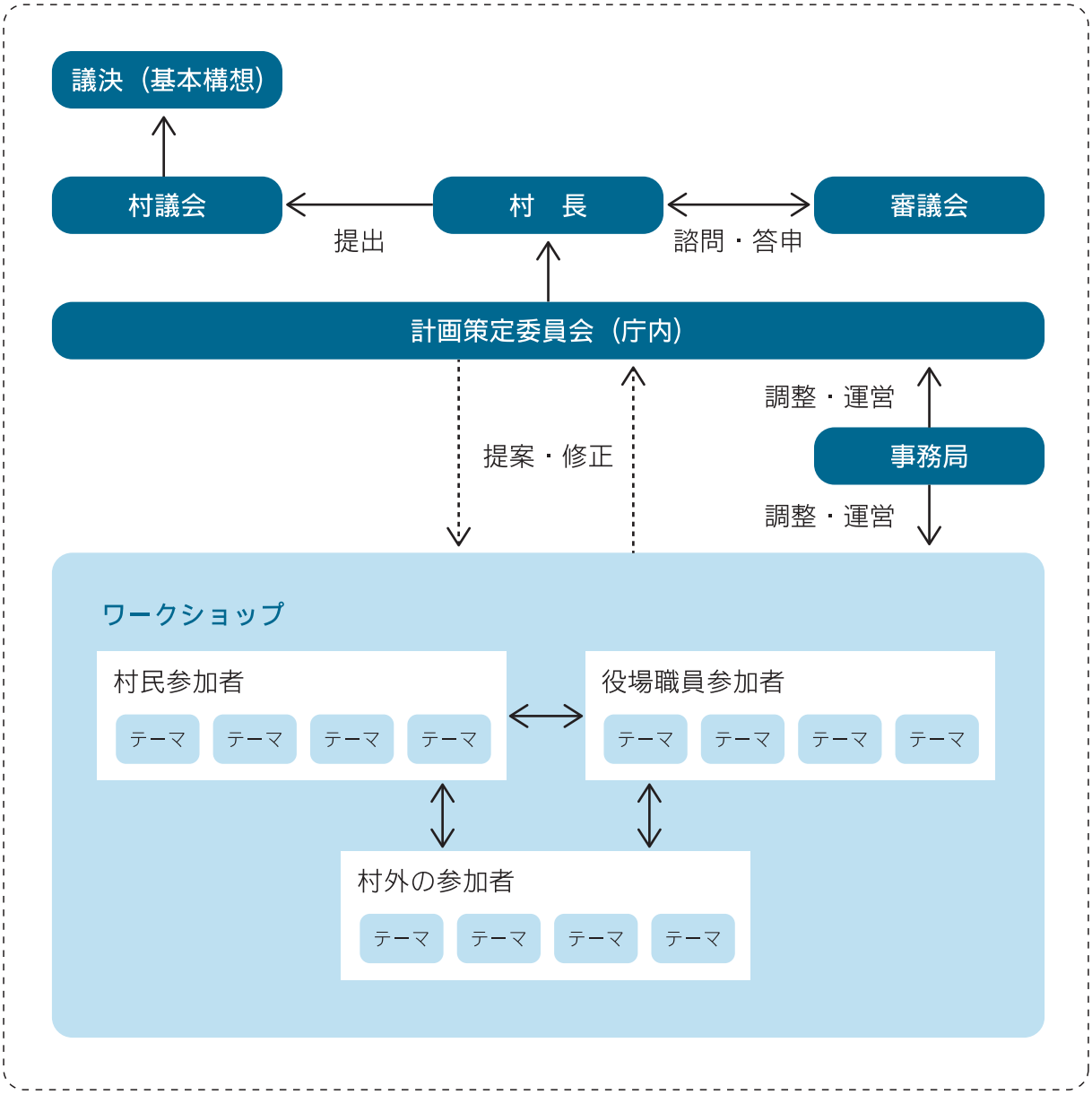
毎年度向こう３か年を期間とするローリング方式

3. 総合計画の策定の流れ

第５次総合計画は、公募等による住民と役場の職員で構成された話し合いの場（白馬村アイデアキャンプ等のワークショップ）で出された意見や提案が計画に反映されたものとなっています。

提案された意見や提案は、計画策定委員会で第4次総合計画の基本構想部分の検証とあわせ検討･調整され、村議会での議決を得ます。また、具体的な計画部分については、住民、行政、村外の方々と一緒になって、ワークショップ形式で実施内容としてまとめました。

◆第５次総合計画の策定推進体制



4．白馬村を取り巻く状況

第５次総合計画を策定するにあたって、白馬村を取り巻く状況を各種データに基づいて整理します。

①白馬村の人口推移と将来人口推計

白馬村の人口は、全国的なスキーブームとも相まって昭和50年代から大きく増加し、2005年（平成17年）の国勢調査でピークの9,500人に達しました。その後、全国的な景気低迷、少子高齢化の影響から減少に転じ、2015年（平成27年）国勢調査では8,929人となりました。

国立社会保障･人口問題研究所の推計によれば、2040年（平成54年）には、昭和50年代と同水準の人口規模まで落ち込むと予想されています。

◆人口と世帯数の推移

単位：人

年　次	世帯数	人　口			一世帯当人口数	人口密度（1㎢当り）
		総　数	男	女		
1970 (S45)	1, 548	6, 292	3, 080	3, 212	4. 1	34
1975 (S50)	1, 687	6, 495	3, 193	3, 302	3. 9	35
1980 (S55)	1, 995	7, 131	3, 549	3, 582	3. 6	39
1985 (S60)	2, 300	7, 919	3, 892	4, 027	3. 4	43
1990 (H 2)	2, 544	8, 356	4, 146	4, 210	3. 3	46
1995 (H 7)	2, 964	8, 906	4, 449	4, 457	3. 0	48
2000 (H12)	3, 339	9, 492	4, 671	4, 821	2. 8	52
2005 (H17)	3, 542	9, 500	4, 687	4, 813	2. 7	50
2010 (H22)	3, 239	9, 205	4, 522	4, 683	2. 8	49
2015 (H27)	3, 477	8, 929	4, 427	4, 502	2. 6	47

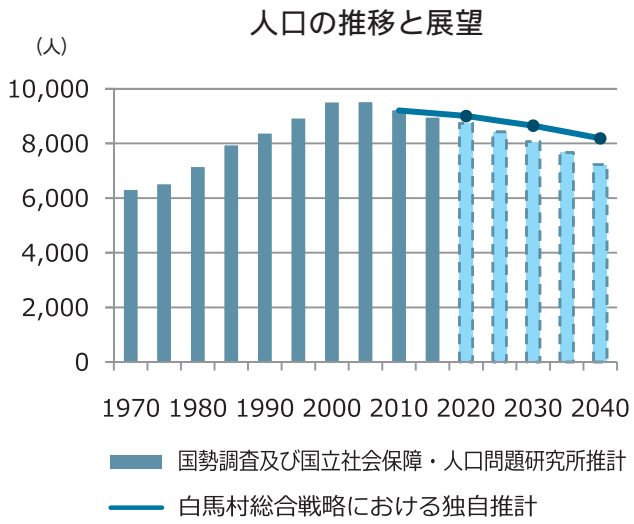
出典：国勢調査より集計

◆人口の将来推移の推計

単位：人

年　次	人　口		
	総　数	男	女
2020 (H32)	8, 738	4, 228	4, 510
2025 (H37)	8, 424	4, 043	4, 381
2030 (H42)	8, 071	3, 830	4, 241
2035 (H47)	7, 670	3, 594	4, 076
2040 (H52)	7, 226	3, 348	3, 878

出典：国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口」より集計



②高齢化率・若者比率・年齢区分別人口

白馬村の高齢化率は全国平均と比べ比較的低位で推移してきましたが、人口の減少傾向と相まって加速度的に上昇することが予想されます。特に、男性に比べて女性の高齢化率の上昇が顕著になっていきます。

一方で、生産年齢人口は、現在の６割程度から30年後には５割を切ることが予想されます。20～39歳の若者世代についても、30年後には現在の20％前半から15％強にまで落ち込むことが予想され、将来的に「消滅可能性都市」となる可能性が高いとされています。

◆高齢化率（65歳以上人口比率）

単位：％

年次	1975	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
総数	12.0	12.9	14.8	16.7	18.6	21.4	23.5	29.0	32.9	35.5	38.0	40.4	43.8
男	11.2	10.3	11.9	13.8	15.8	18.7	21.2	27.0	31.1	33.5	35.3	36.9	39.2
女	12.9	15.4	17.6	19.5	21.3	24.0	25.8	31.0	34.5	37.3	40.3	43.5	47.7

出典：国勢調査（S50～H22）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（H27～）より集計

◆生産年齢人口比率（15～64歳人口比率）

単位：％

年次	1975	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
総数	66.9	66.8	63.8	63.0	62.6	63.0	61.7	60.0	57.2	55.5	53.7	51.7	48.3
男	67.0	65.9	65.4	65.5	65.2	64.2	64.1	61.3	58.2	56.7	55.6	54.4	52.0
女	67.0	68.1	67.8	68.5	67.3	66.7	65.8	58.7	56.2	54.3	52.0	49.3	45.2

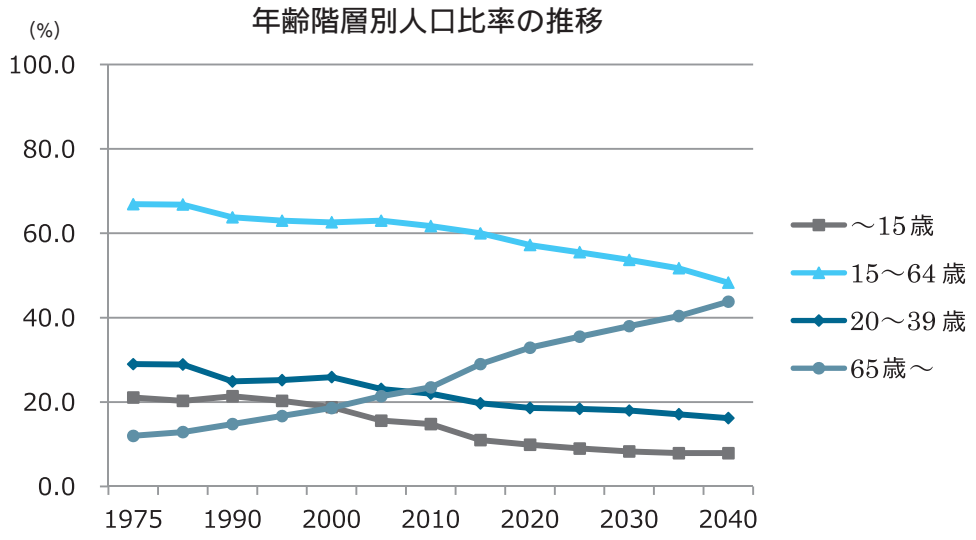
出典：国勢調査（S50～H22）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（H27～）より集計

◆若者比率（20～39歳人口比率）

単位：％

年次	1975	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
総数	29.0	28.9	24.9	25.2	25.9	23.1	22.0	19.7	18.6	18.4	18.0	17.1	16.2
男	30.6	30.3	25.6	26.0	26.1	23.6	22.7	20.5	20.0	20.2	19.7	19.4	18.6
女	27.5	27.6	24.1	24.4	25.7	22.6	21.4	18.8	17.4	16.8	16.5	15.2	14.2

出典：国勢調査（S50～H22）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（H27～）より集計



③人口の自然増減・社会増減の推移

白馬村の人口の自然増減を過去10年間で比較すると、2005年（平成17年）から死亡数が出生数を上回り、減少が続いています。この傾向は、ますます増加していくことが予想されますが、出生数の中には、外国人転入者の子どもの割合が増加していくことを想定しておく必要があります。

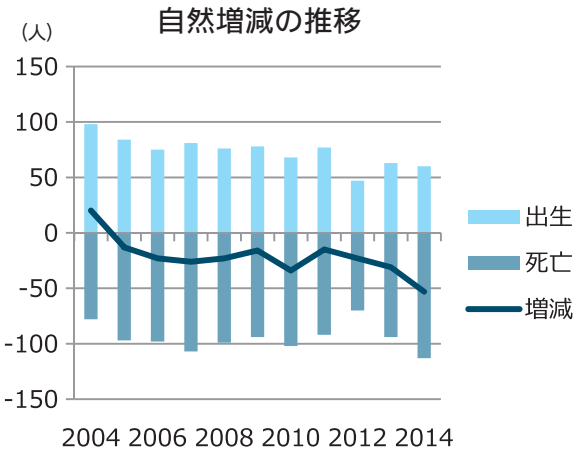
一方で、移住などによる社会増減については、景気低迷などの影響から、2012年度（平成24年度）まで転出が転入を上回る減少傾向となっていましたが、外国人観光客誘致などの進展により、外国人転入者が大幅に増加したことから、ここ数年は増加に転じています。ただ、景気の動向に左右されやすい職業の生産年齢人口層は、今後の日本の経済状況によって変動してしまう部分も考慮しておく必要があります。

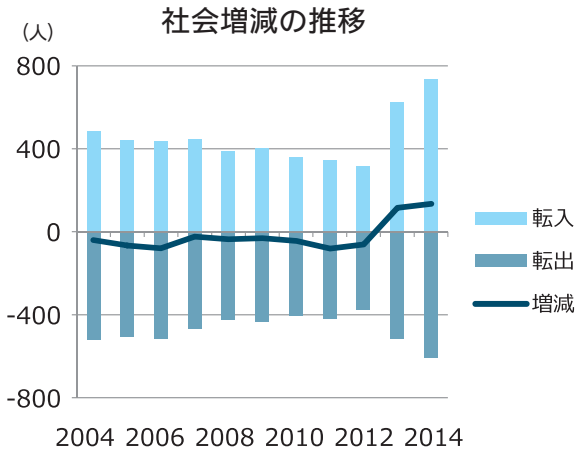
◆人口の自然増減・社会増減の推移

単位：人

年　次	自然増減			社会増減		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減
2004 (H16)	98	78	20	483	522	△39
2005 (H17)	84	97	△13	440	504	△64
2006 (H18)	75	98	△23	438	515	△77
2007 (H19)	81	107	△26	446	469	△23
2008 (H20)	76	99	△23	388	423	△35
2009 (H21)	78	94	△16	401	431	△30
2010 (H22)	68	102	△34	360	403	△43
2011 (H23)	77	92	△15	343	421	△78
2012 (H24)	47	70	△23	314	373	△59
2013 (H25)	63	94	△31	625	514	111
2014 (H26)	60	113	△53	735	606	129

出典：人口動態より集計





④合計特殊出生率

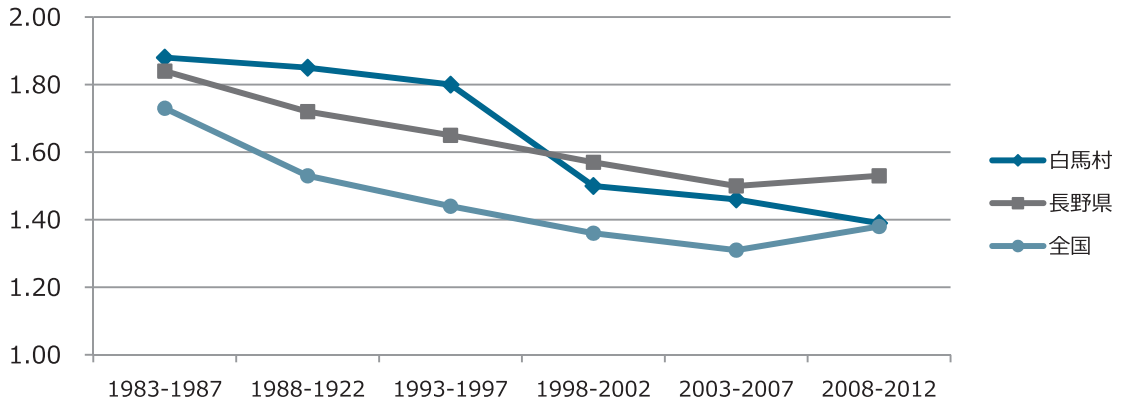
1900年代後半には全国平均、長野県平均を上回っていましたが、2000年代に入り急激に率が低下し、長野県平均を下回り、全国平均とほぼ同等となってきています。

◆合計特殊出生率の推移

年　次	白馬村	【参考】長野県平均	【参考】全国平均
1983−1987	1.88	1.84	1.73
1988−1922	1.85	1.72	1.53
1993−1997	1.80	1.65	1.44
1998−2002	1.50	1.57	1.36
2003−2007	1.46	1.50	1.31
2008−2012	1.39	1.53	1.38

出典：厚生労働省人口動態調査より集計

合計特殊出生率の推移



⑤外国人登録者数の推移

外国人観光客が増加し、それに伴って主に観光業に携わる外国人の転入が増加しています。特に平成20年度頃から大幅な増加となっています。しかし、その構成は、冬期（12月～３月）に一時滞在する者が多く、通年で定住している外国人数は概ね200人弱で推移しています。

◆外国人登録者数の推移（9月1日現在）

単位：人

年　次	外国人登録者数		
	男	女	合計
2005 (H17)	38	80	118
2006 (H18)	46	61	107
2007 (H19)	51	62	113
2008 (H20)	67	67	134
2009 (H21)	97	86	183
2010 (H22)	107	92	199
2011 (H23)	126	94	220
2012 (H24)	106	74	180
2013 (H25)	111	76	187
2014 (H26)	99	75	174

出典：住民課より集計（2004年度から2011年度は外国人登録法、2012年度以降は住民基本台帳法による登録者数）

⑥産業別就業人口の推移

昭和50年代は、第一次産業従事者と第三次産業従事者がほぼ同数でしたが、スキーブームの到来とともに観光業を中心に第三次産業従事者が急激に増加し、全体の70％以上を占めるようになりました。

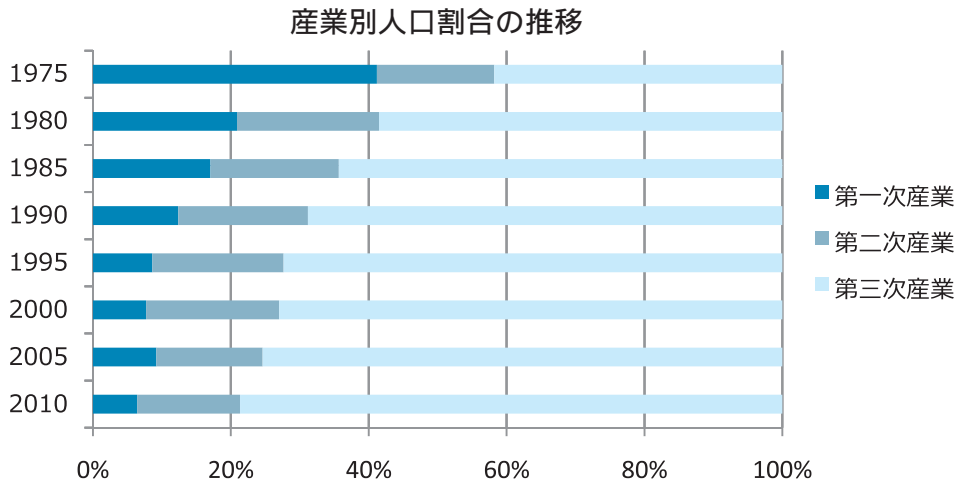
一方で、農業を中心とした第一次産業は、後継者不足などから就業者数が減少し、就業率は10％を切る状況が続いています。

第二次産業については、長野オリンピック冬季競技大会が開催された1998年（平成10年）前後に就業者数が増加しましたが、その後現在まで緩やかに減少に転じています。

◆産業別就業人口の推移

年　次		1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010
総　数		3, 874	4, 059	4, 619	4, 783	5, 267	5, 400	5, 280	4, 854
第一次産業	人数	1, 595	849	786	586	454	416	484	311
	%	41. 2	20. 9	17. 0	12. 3	8. 6	7. 7	9. 2	6. 4
第二次産業	人数	658	837	860	896	1, 001	1, 041	814	724
	%	17. 0	20. 6	18. 6	18. 7	19. 0	19. 3	15. 4	14. 9
第三次産業	人数	1, 618	2, 373	2, 966	3, 273	3, 805	3, 940	3, 979	3, 810
	%	41. 8	58. 5	64. 2	68. 4	72. 2	73. 0	75. 4	78. 5
分類不能	人数	3	0	7	28	7	3	3	9

出典：国勢調査より集計



⑦観光客入込数の推移

白馬村への観光客の入込数については、1992年度（平成4年度）の387万人をピークに減少傾向に転じ、2014年度（平成26年度）はピーク時の６割弱となる224万人にまで落ち込んでいます。特に、本村の観光の中心であったスキーと登山を目的とした観光客数が、ピーク時の２分の１未満にまで落ち込んだことが大きい理由となっています。

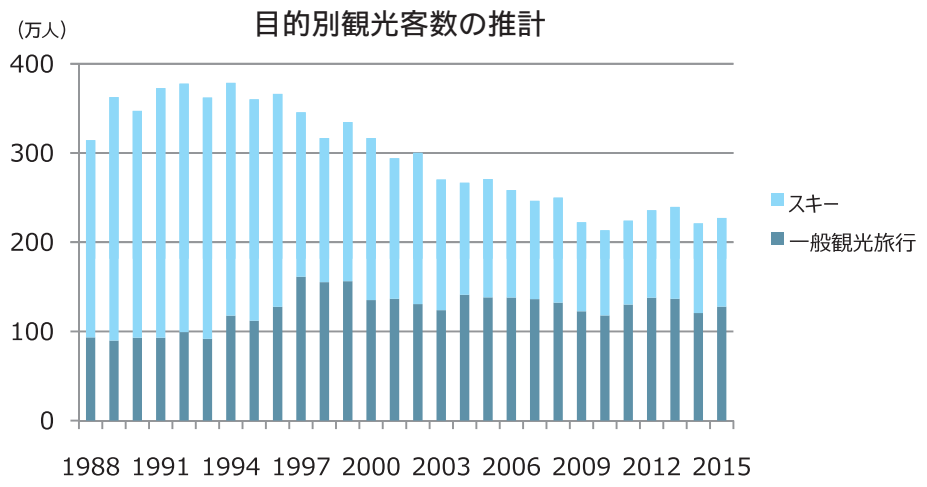
一方で外国人観光客の誘致は順調に進み、2014年度（平成26年度）には外国人宿泊客数が８万人に迫るまでに急速に伸びています。

◆目的別観光客入込数の推移

単位：人

年　次	1989 (H 1)	1990 (H 2)	1991 (H 3)	1992 (H 4)	1993 (H 5)	1994 (H 6)	1995 (H 7)	1996 (H 8)	1997 (H 9)
登　山	78, 000	86, 000	87, 000	81, 600	66, 400	71, 700	51, 900	73, 500	76, 400
スキー	2, 729, 000	2, 542, 200	2, 798, 000	2, 784, 500	2, 705, 400	2, 609, 200	2, 482, 600	2, 386, 700	1, 842, 900
その他平地観光	923, 300	955, 500	945, 900	1, 005, 300	929, 300	1, 188, 600	1, 119, 000	1, 276, 300	1, 613, 900
合　計	3, 730, 300	3, 583, 700	3, 830, 900	3, 871, 400	3, 701, 100	3, 869, 500	3, 653, 500	3, 736, 500	3, 533, 200
うち外国人宿泊者									
年　次	1998 (H10)	1999 (H11)	2000 (H12)	2001 (H13)	2002 (H14)	2003 (H15)	2004 (H16)	2005 (H17)	2006 (H18)
登　山	68, 200	74, 400	91, 300	94, 000	78, 600	69, 800	63, 800	54, 700	42, 400
スキー	1, 616, 200	1, 784, 027	1, 815, 179	1, 576, 534	1, 695, 039	1, 463, 989	1, 256, 351	1, 326, 881	1, 204, 604
その他平地観光	1, 551, 900	1, 562, 473	1, 351, 921	1, 365, 166	1, 306, 961	1, 238, 411	1, 410, 649	1, 380, 919	1, 379, 096
合　計	3, 236, 300	3, 420, 900	3, 258, 400	3, 035, 700	3, 080, 600	2, 772, 200	2, 730, 800	2, 762, 500	2, 626, 100
うち外国人宿泊者					2, 930	9, 391	10, 156	32, 482	33, 492
年　次	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	
登　山	42, 300	37, 700	33, 500	33, 700	34, 300	41, 300	40, 000	35, 100	
スキー	1, 100, 702	1, 175, 966	997, 135	953, 274	941, 039	979, 073	1, 029, 849	1, 005, 196	
その他平地観光	1, 362, 598	1, 323, 334	1, 225, 665	1, 179, 526	1, 300, 961	1, 378, 227	1, 365, 681	1, 205, 304	
合　計	2, 505, 600	2, 537, 000	2, 256, 300	2, 166, 500	2, 276, 300	2, 398, 600	2, 435, 530	2, 245, 600	
うち外国人宿泊者	40, 967	49, 664	42, 695	43, 510	56, 024	44, 819	60, 556	77, 724	

出典：観光課より集計



⑧要介護認定者数の推移

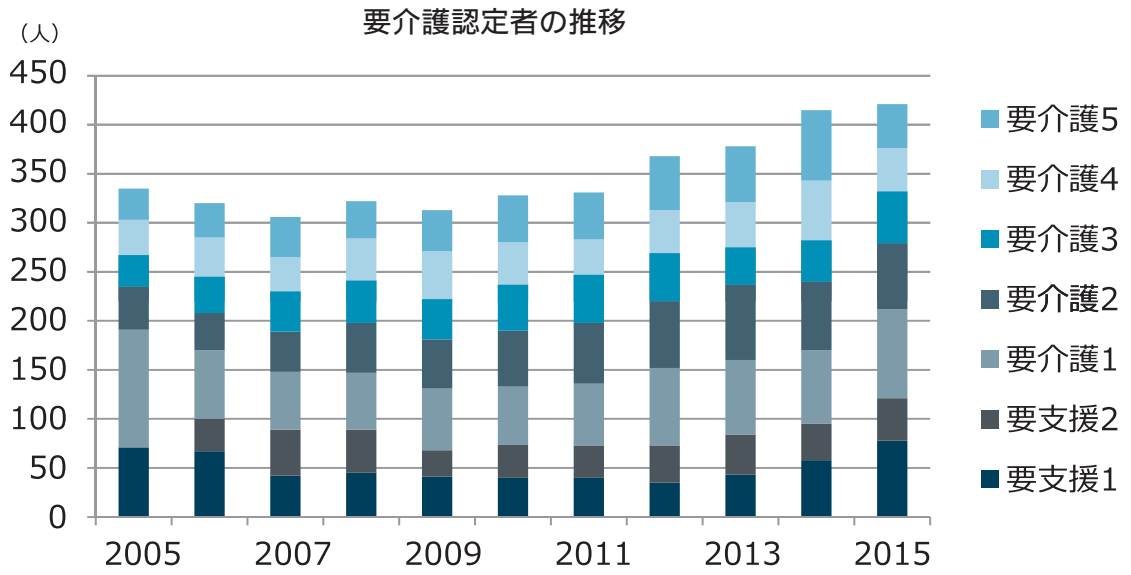
白馬村においても高齢化は進展し、要介護状態にある高齢者の数も10年前より約25％増加しています。今後、本村の高齢者層の急速な増加に伴い、要介護認定者数は急増することが予想され、対応する社会資源の整備が急務です。

◆要介護認定者数の推移

単位：人

年　次	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合　計
2005 (H17)	71		120	44	32	36	32	335
2006 (H18)	67	33	70	38	37	40	35	320
2007 (H19)	42	47	59	41	41	35	41	306
2008 (H20)	45	44	58	51	43	43	38	322
2009 (H21)	41	27	63	50	41	49	42	313
2010 (H22)	40	34	59	57	47	43	48	328
2011 (H23)	40	33	63	62	49	36	48	331
2012 (H24)	35	38	79	68	49	44	55	368
2013 (H25)	43	41	76	77	38	46	57	378
2014 (H26)	58	37	75	70	42	61	72	415
2015 (H27)	78	43	91	67	53	44	45	421

出典：北アルプス広域連合より集計



⑨障がい者の推移

白馬村では、高齢化の進展に伴い、身体に障がいを持つ住民が増加しています。また、厳しさを増す社会環境の影響から精神障がい者も増えています。今後もさらに、障がい者が地域で安心して暮らすための社会資源や支援体制の整備が必要です。

◆障がい者手帳所持者の推移

単位：人

年　次	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)
身体障がい	294	300	313	316	321	336	346	350	350	384
知的障がい	41	49	51	54	52	51	52	52	49	47
精神障がい	25	34	39	39	42	41	47	53	61	58

出典：健康福祉課より集計

⑩財政健全化判断比率

長野オリンピック冬季競技大会時の借入金の返済が、長く白馬村の財政を苦しめてきましたが、平成20年代に多くの借入金の返済が終了し、全体に公債費比率は下がってきています。

しかしながら、なかなか上向かない村内の景気のため、税収は思うように伸びず、また、300年に一度と言われる神城断層地震の復興にかかる経費負担もあり、今後も厳しい財政運営が予想されます。

◆財政健全化判断比率

年次	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	早期健全化基準
実質赤字比率	—	—	—	—	—	—	—	—	15
連結赤字比率	—	—	—	—	—	—	—	—	20
実質公債費比率	21.6	21.8	21.3	19.2	16.7	14.4	13.2	11.8	25
将来負担比率	159.1	82.7	107.1	64.4	37.2	21.9	17.2	22.9	350

出典：総務課より集計

第2章

基本構想

1．基本理念と基本目標

①　白馬村の基本理念

白馬の豊かさとは何か
―多様であることから交流し学びあい成長する村―

白馬村には、世界中の人を惹きつける多様な価値を持つ自然環境があります。その土地の暮らしに根付いた多様な歴史や文化も各地区に残っています。そして、移住者や来訪者も含めた白馬を愛する多様な立場の人たちがいます。社会変化の影響を受けやすく、これまでも多くの変化に対応してきた白馬村だからこそ、村内外からの「多様性」から「学びあう」ことを意識し、様々な分野で「白馬の豊かさ」を発見しながら成長していく必要があります。これからの10年間、白馬に集うみなさんが「白馬の豊かさとは何か」を問いつづけることによって、激しい社会変化にもお互いに知恵を出し合い、手を携えながら乗り越える、そして、一人ひとりが「豊かさ」を感じながら成長することができる白馬村を目指していきます。

白馬村は、雄大な北アルプス白馬連峰の麓にあり、豊かな山岳自然環境、里山環境をはじめ姫川源流など豊かで美しい自然と景観に恵まれています。これからも本村の豊かな地域資源を活用して、暮らしやすい村を築いていく必要があります。そのためには、これらの資源を大切に守り、積極的に活かし、その価値を高めていくことが求められます。

本村の大きな方向性を整理したものが、新たに策定する第5次総合計画です。本村の総合計画は、1976年（昭和51年）に第１次計画が策定されました。その後、10年間を計画期間として計画を見直してきています。2015年度（平成27年度）末で第４次計画の計画期間が終了するのを機に策定される本計画は、次の10年間（2016年度<平成28年度>～2025年度<平成37年度>）の村づくりの大きな指針となる計画です。

1998年（平成10年）の長野オリンピック冬季競技大会以降、日本の社会環境は大きく変貌を遂げました。これまでの産業構造の転換から日本人の暮らし方も、より効率的な形が求められるようになりました。また、さらなるグローバル化を背景に、政府の外国人観光客の積極的誘致によって、日本への観光客数が増加しています。そんな中、本村の観光産業はオリンピック時の先行集中投資とスキー人口の減少もあって、ここ10数年は、村内の資源・魅力を再整理する時期となっていました。

このように本村を取り巻く状況は、外部環境によって大きく変化してきました。これからも村内外の環境変化に対応していくためには、10年先、20年先の本村の理想の姿を住民自らが想

い描くことが必要です。そして、これまでのように、住民一人ひとりが主体的に行動するだけでなく、変化に対応するために多様な人々と交流し、学び続ける姿勢が求められます。具体的には、村外から本村へ移住してきた人たちとより積極的に交流することで、知識・経験などを吸収し、より社会環境の変化に対応できる住民になっていくことです。また、新旧住民や、村に訪れる観光客がお互い知り合うことで、これから起こりうる新しい課題の解決策を一緒に導き出せる関係性を構築していくことが必要です。そのように対応していくことで、これからの本村で予想されている人口減少と高齢化社会において、外国人を含め子どもから高齢者までが、住み慣れた地域で安心して暮らせる教育、福祉、医療など社会基盤の構築を推進していきます。そこに暮らす者同士が認め合い、お互いが支えあう関係をつくっていくことが重要です。

このように住民が一緒になって、より良い豊かな暮らしを実現していくために、共通のテーマとして掲げたのが「白馬の豊かさとは何か」です。本村は、これまでも様々な人たちが国内外から流入してきた歴史があります。その変遷の中で、「神城断層地震」でも発揮された地域コミュニティの「共助」の精神による豊かな暮らし、雄大な自然環境・資源を活かした観光・農業、各集落に受け継がれている祭りや日本登山の先駆けとなった民宿などの伝統文化が形成され、世界的にもまれにみる山岳景観を有しています。これらの白馬にある有形無形の資源を、今後の10年を考えるタイミングで、もう一度「白馬村の豊かさを」というテーマで問い直す必要があると考えました。そして、今後も変わりゆく時代背景の中で、繰り返し問い続けなければならないと捉え、この理念を設定しました。

テーマを補完する方針として「多様であることから交流し学びあい成長する村」を加えました。多様な価値観、背景を持っている住民がお互いを理解し、課題に対して一緒に向き合う。そして、学びあい成長しながら暮らしていくという考え方を示しています。本村は、これまでも外部環境によって、産業、暮らし方を変えることを余儀なくされてきました。過去の知見を活かし、住民同士がより密接にコミュニケーションをとれる関係性を構築するとともに、その時々の本村の豊かさを一緒に考えていくことで、村全体に一体感を醸成していきたいという想いをこの方針に含めています。

世界情勢が大きく変わりつつある状況にあっても、村を支える次の世代の育成も重要なこととして取り組んでいかなければなりません。本村で育った子どもたちが帰ってきたい、村で暮らしたいと思える産業体制の発展と教育体制を住民一人ひとりが構築することも必要です。これからも、観光地・白馬村に暮らすことへの理解や故郷への愛着を醸成していきます。

そして今後、本村が将来も存続するために、第４次総合計画で掲げた「むらごと自然公園」の理念を踏襲します。本村に住む人、本村に訪れる人が共に、この素晴らしい自然環境やお互いの文化・価値観を守り、尊重し、他に類を見ない村をつくり上げていきます。そうすることで、10年後に住民、観光客など白馬に集う全ての人が「住んで良かった」「生まれて良かった」「来て良かった」と思える白馬村の新しい暮らし方を育んでいくことを目指します。

②基本目標

白馬村の基本理念『白馬の豊かさとは何か　―多様であることから交流し学びあい成長する村―』を実現させるための基本目標は以下の４つです。

視　点	４つの基本目標
暮らし	**『安心してみんなが暮せる村』** 住んでいる全ての人が助け合いながら、安心して心豊かに暮らせる村を目指します。
産　業	**『新しい仕事をつくりだす村』** 村の豊かな自然環境を有効に活用しながら、環境の変化に対応できる仕事をつくりだせる村を目指します。
ひ　と	**『一人ひとりが成長し活躍できる村』** ひとの出入りが流動的でも、お互い知り合う努力をして、学びあい成長し活躍できる村を目指します。
自　然	**『魅力ある自然を守る村』** 世界的に有数な自然環境を後世にも引き継げるように、大切に維持できる村を目指します。

③基本目標の4本柱

■安心してみんなが暮らせる村

＜現状と課題＞

白馬村でも少子高齢化の進展、地域のつながりの希薄化により、地域コミュニティでの活動が困難になってきています。特に、地域における外国人居住者などが増加していることから、外国人を含む移住者との地域での新しい共生のあり方について再構築する必要性が出てきています。そのような中、2014年度（平成26年度）に発生した「長野県神城断層地震」では、地域住民が支えあう仕組みの重要性が再認識されました。さらに、大雨、大雪など異常気象を起因とする災害や地震災害は近年、本村でも発生していることから、防災対策を含めた道路・河川・橋梁等の社会インフラの整備と、防災活動の最前線に立つ消防団員の確保も同時に進めていくことが求められています。

一方で、大北圏域内の市町村、福祉施設、医療機関、地域、住民と連携しながら、村内の医療体制の充実と、高齢者や障がい者を支援する仕組みづくりを整えていく必要があります。特に今後、高齢者人口のさらなる増加が予測されることから、関係機関がそれぞれの役割を担いながら、地域住民の自助、互助の連携のもと、高齢者・障がい者支援を推進していくことが重要です。

そして、行政としても財源や人的資源に限りがある中で、多様化する行政課題や住民ニーズに的確に対応していくために、行政改革をさらに進め、自立的な行政運営を確立する必要があります。そのためには、健全財政を維持し、重点的に取り組む分野には戦略的に必要な行政サービスを提供していくことが求められています。同時に、サービスの目的や成果を明確にするために、評価する仕組みを構築し、実際に運用していくことが大変重要です。

＜暮らしの目標＞

本村は、時代に則した新たなコミュニティのあり方を地域の皆さんと共に考えます。そして、外国人を含めた移住者と在来の住民との共生や、介護の必要な方、障がいのある方も共に関わりをもって暮らせる地域づくりを目指します。

そして、長野県神城断層地震から得た教訓から防災対策を強化し、社会インフラ等の積極的な整備を進め、住民が安心して暮らせる安全な村を創ります。

■新しい仕事をつくりだす村

＜現状と課題＞

白馬村においては、豊かな自然環境や山岳景観から、冬期のスキーを中心とした観光関連の第三次産業を従来から発展させてきました。特に、観光関連産業については、長野オリンピック冬季競技大会以降からの景気低迷やレジャーの多様化、少子高齢化の影響により国内観光客数が大きく減少してきました。しかし、国の施策でもある外国人観光客の誘致事業の進展から国外から本村は大きく注目され、外国からの観光客数が増加している状況にあります。このように激しい社会環境の変化の中にあって、その変化に対応できている事業者は決して多いとは言えず、小規模家族経営の民宿・ペンションなどは、後継者不足などから廃業するところが増加し、本村の産業の衰退につながっています。また、将来にわたって住民が安心して暮らすためには、年間を通じて安定した雇用があることが条件となっており、特に、若者の雇用が喫緊の課題として挙がっています。

一方で、もう一つの基幹産業である農業についても高齢化・後継者不足が深刻であり、小規模兼業農家の離農者が増えています。その受け皿として農業法人などの認定農業者への農地集積が進んでいますが、その許容量も上限になりつつあります。新たな担い手の確保や、生産効率の高い農地の確保、小規模兼業農家への継続した支援、遊休農地を村内外の利用希望者に紹介するなど、農地の活用を目的とした新たな取り組みが必要となっています。また、久しく特産品開発の必要性が言われており、近年新たな特産品を開発、生産する団体が誕生しています。まだ雇用の創出に直結する規模にはなっていませんが、有望な特産農産物として期待されており、今後の生産拡大や販路開拓、観光産業との連携を支援していきます。

このように、本村の基幹産業である観光、農業ともに厳しい経済環境ですが、ここ数年増加している外国人観光客の旺盛な消費の取り込みなど、社会・経済環境の変化に柔軟に対応していくことが重要です。ただ、これからも変わっていく観光客の価値観、滞在スタイルに対応した食事、交通、宿泊滞在環境の整備、サービスの拡充が求められています。また、年間を通して観光来客者数の平準化・分散化を図るために、観光と農業が一体となった農業体験や、スポーツ体験と連動したグリーンシーズンの観光プログラムを企画し、その情報発信を積極的に行っていくことが求められます。

そのために、これらの本村を担う次世代の人材を育成し、産業の新陳代謝による地域経済の活性化を図ります。具体的には、本村で新たな創業または就業を希望する村内外の希望者に必要な知識や情報、手法などを習得する機会を提供していきます。このような施策によりビジネス環境を整備し、本村で生まれた子どもたちが村内で仕事に就けるような、また、村に魅力を感じ、移住してきた人たちが安心して定住できるような仕組みを整えることが必要です。

＜産業の目標＞

本村は、基幹産業である観光業と農業を中心に、あらゆる施策を展開し、地域産業の活性化と新しい就労環境の整備に努め、年間を通じて安定した雇用を創出し、住民が永続的に定住できる村を目指します。

また、本村の産業を担う新たな人材の育成を支援するとともに、安心して新たな創業、就業ができる環境を整えます。

■一人ひとりが成長し活躍できる村

＜現状と課題＞

白馬村においても長引く景気低迷の影響などから、観光関連産業を中心として安定した雇用の場が不足し、若者世代の定住につながらないことが少子化の進行に大きく影響しています。本村の合計特殊出生率は1.39人で、長野県の平均を下回る状況となっています。また、社会の価値観や生活意識の多様化、地域のつながりの希薄化が進んでいます。家庭や地域における世帯構成や生活環境も大きく変化し、共働き家庭やひとり親家庭など子育て環境も多様化しています。

このような状況下で、本村の人口を維持していくためには、若者が本村で安心して子どもを産み、育てることができる環境を整備し、少子化の流れを食い止めることが重要となってきます。そして、若い世代の結婚から出産、子育てまでの一連の流れを、切れ目なく行政や地域社会全体で支援し、本村の将来を担う子どもの成長を見守っていく体制・サービスの構築が求められています。

一方で、本村で生まれ育った若者に村の魅力を伝え、本村の将来を背負って立つ人材を早くから育成していく必要があります。その一つの施策として、全国からの生徒募集を開始した白馬高校への支援があります。村外からも若者を呼び込む取り組みも実施していくことにより、将来のＵターン・Ｉターンにつなげていくことが可能になると考えています。また、若い世代には国際感覚を養う教育体制・プログラムや、スポーツ教育機会を拡充し、世界の様々な分野で活躍できる人材の育成を目指します。

同時に、村の魅力を伝えるためには、住民自身が白馬の歴史文化を継続的に学んでいく必要があります。稲作・養蚕・麻などの農文化、登山者やスキーヤーを受け入れた民宿・観光業の歴史などを、地域全体で学び、次世代に受け継いでいかなければなりません。

また、本村が活力ある村を実現するためには、地域住民の活力が必要です。多様な人材が地域で精力的に活動しており、その個人の力を結びつけることによって、村を動かす力に発展させていきます。特に、地域における女性の活躍が重要です。本村では、婦人会など従来からの女性組織の維持が困難になってきていますが、現状の女性の人口や属性に則した体制の再構築が、地域の活性化にとっても必要になってきています。

＜ひとの目標＞

本村は、結婚から出産、子育てに至る切れ目ない支援を強化し、少子化対策を推進していきます。そして、村の伝統文化を継承し、本村の文化の素晴らしさを地域全体で学ぶための取り組みや、地域全体で将来を担う若者を育成する地域づくりを進めていきます。

また、本村において活躍している人の力を結集し、これからの本村の発展につなげる仕組みを作り上げていきます。

■魅力ある自然を守る村

＜現状と課題＞

白馬村の美しい自然・山岳を中心とした景観はかけがえのない財産であり、将来に引き継いでいかなければなりません。ただ、安定した生活の維持や観光産業を中心とした経済発展のためには、自然の開発や活用も必要となり、いかに自然や景観保全と調和した開発を行うかが課題となってきます。近年では、様々な資本の流入による開発の動きが活発化しており、より現状に則した開発のルール作りが早急に求められています。白馬連峰をはじめとする自然資源はスポーツ体験・活動のフィールドとして活用されていますが、同時に、本村の各集落に残っている歴史文化や、これまで連綿と受け継がれてきた田園風景や里山についても村の貴重な資源となっているので、両者のバランスをとりながら保全していく必要があります。

そして、自然景観の保全・維持の観点でもう一つ考慮しなければならないのが、ごみの処理、汚水の処理など環境汚染対策です。ごみ処理については、大町市に建設予定の新たなごみ焼却場が稼働する計画で準備が進められていますが、一層のごみ減量化と資源化を進めていくことが必要となっていきます。また、ごみの収集体制も早急に整備・効率化していくことも喫緊の課題となっています。汚水の処理については、下水道施設の老朽化が進み、耐震化などの防災対策・整備や人口減少に伴う料金収入の減少傾向が見受けられるので、上水道事業とあわせて将来にわたって安定的な運営を継続していくために経営基盤の再整理や健全化が求められています。

＜自然の目標＞

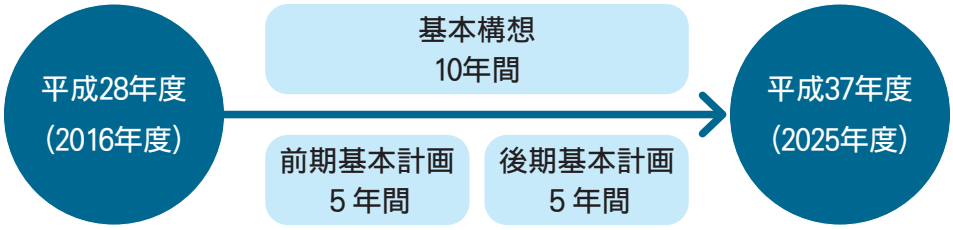
本村は、環境と調和した開発のルールづくりと、環境の整備によって、この恵まれた自然、景観、伝統文化を保全し、将来世代に引き継いでいきます。

また、ごみ処理、汚水処理事業の安定した運用を目指し、環境汚染防止に積極的に努めます。

2. 総合計画の計画期間

第5次総合計画の基本構想は、2016年度（平成28年度）を初年度として、2025年度（平成37年度）を目標年次とする10年計画とします。

また、基本計画は、前期５年間･後期５年間とし、前期の成果を検証しながら後期計画につなげていきます。また、社会情勢の急激な変化により変更が必要となった場合は、随時計画を見直します。

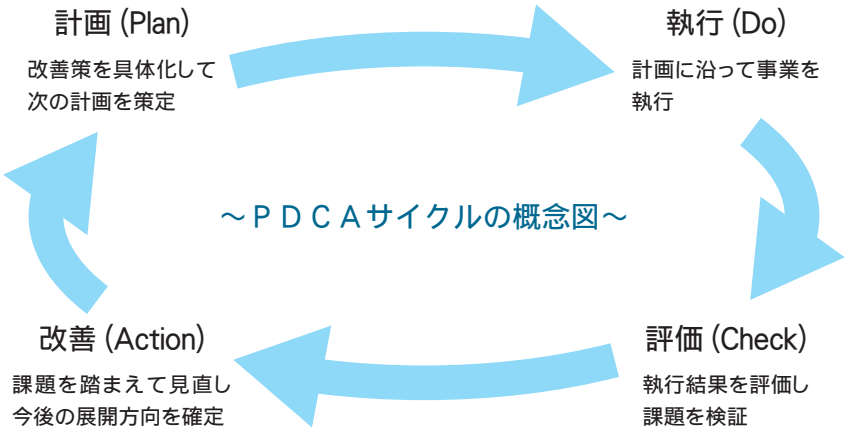


3. 総合計画の推進

開かれた村政と住民参画の推進を村政運営の基本とします。計画期間中は、事業の達成度や時代潮流の変化を確認するために、計画が進捗しているかの検証を行うための組織の設置、コーディネーター役の配置、PDCAサイクル仕組みの構築などを行い、随時点検と見直しを行います。

※「PDCAサイクル」とは

事業の管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の４段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する仕組みを言います。



第3章

基本計画

体系図

基本目標	大　分　類	中　分　類	頁
暮らし 安心してみんなが暮らせる村	多様性を尊重し、住民が主体的に協働・共生する村づくり	住民参画と協働	25
		開かれた行政運営	26
		多様な人々の交流・共生	26
	安心・安全の生活を支える村づくり	防災・減災の強化	28
		日常の住みよさの確保	30
	支え合う福祉と健康の村づくり	子育て支援	32
		障がい者支援	35
		高齢者福祉	37
		健康づくりと地域医療の充実	38
	自立的・効率的で健全な行財政の村づくり	情報通信技術の活用	40
		行財政改革の推進	41
産　業 新しい仕事をつくりだす村	「世界水準」を意識した観光の村づくり	競争力と持続可能性を高める観光地経営	43
	農地と森を守り地産を活かす村づくり	優良農地の保全	46
		農産物のブランド化と特産品の生産・販売の推進	49
		森林の整備と活用	50
	商工業の振興により雇用を生みだす村づくり	商工振興・創業支援	51
	民間活力を活かす村づくり	産官学金労言連携	52
ひ　と 一人ひとりが成長し活躍できる村	学びあい育てあう村づくり	次代を担う子どもたちの学習支援	53
		生涯学習と青少年育成	54
	生涯にわたりスポーツに親しむ村づくり	スポーツによる健康づくりと活力の創造	56
	一人ひとりに活躍の場がある村づくり	人のつながりによる活力の創出	58
		男女共同参画社会の推進	59
自　然 魅力ある自然を守る村	かけがえのない山岳自然環境を守る村づくり	天恵の自然との共生	60
		自然エネルギーの利活用	61
	自然との生き方を受け継ぐ村づくり	守るべきふるさとの歴史と文化の継承	61
	美しい景観を守り育む村づくり	自然環境に調和したまちづくりの推進	62
	きれいな水と空気に囲まれる村づくり	ごみ処理広域化への対応とごみ減量化	64
		きれいで安心・安全な水環境の保全	65

暮らし　安心してみんなが暮らせる村

多様性を尊重し、住民が主体的に協働・共生する村づくり

住民参画と協働

少子高齢･人口減少社会においては、地域に暮らす人々が地域の中で主体的に村づくりに参画していくことが重要となります。行政運営への理解と参加を促すため、様々な媒体を活用して行政情報を住民に提供するとともに、住民生活や各地域の課題に関する意見交換の場を設けながら、住民、企業、NPO法人、ボランティア団体等が行うまちづくり活動に対して積極的に情報提供や支援を行い、活動しやすい環境づくりを目指します。

行政区の主体的な取り組みの支援

本村では、古くから行政区を中心としたコミュニティを形成し、各行政区で伝統行事や各種作業、施設の維持管理など相互扶助による住民自治が行われ、信頼と協力関係を築いてきました。しかしながら、少子高齢化や人口減少、住民の多様化、「個」を尊重する社会的変化により、行政区の加入率は低下しています。これからの行政区の意義やあり方を再定義し、地区担当職員制度を活用して各行政区の運営や事業を支援することで、行政と住民が協働する村づくりを推進します。（総務課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
行政区加入率※	52％	80％
地域づくり事業補助金	全地区	全地区

※広報の配布数を住民基本台帳上の世帯数で除しているので、実際の加入率とは異なります。

行政区の継続的な活動の支援

小規模行政区に集落支援員を配置し、農業・移動・除雪・祭り・若者定住など様々な活動を支援することで、コミュニティの維持・活性化を図ります。（総務課・農政課・健康福祉課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
集落支援員数	0人	2人

住民活動・NPO等の支援

住民や白馬ファンの村づくり活動やNPO等の組織を積極的に支援するとともに、村づくり活動人口を増やし、多様な人が交流･参加する活力ある村づくりを推進します。（総務課）

開かれた行政運営

住民の村づくりに対する関心を高め、住民と行政が同じ目線で問題意識や当事者意識を持って意見交換や活動ができるよう、行政情報を積極的に公開します。

行政情報の発信

広報紙、Webサイト、SNS、ケーブルテレビなど様々な媒体を活用して、村政情報を村内外にわかりやすく発信することで、住民に身近で親しみのある行政を目指します。(総務課)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
白馬村行政ホームページ 月間ページビュー数	60,000PV	70,000PV
行政Facebook 「いいね！」数	―	1,000いいね!
ケーブルテレビ白馬加入件数	1,906件	2,100件

意見交換の場づくり

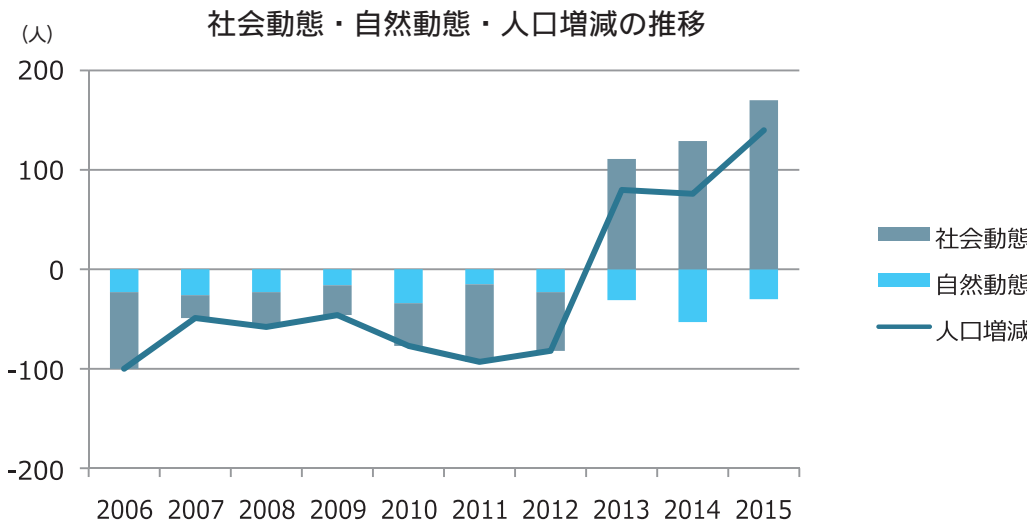
地区役員懇談会や各種団体との懇談会など、既に実施している機会に加え、住民や村外の白馬ファンも含めて提案･提言しやすい仕組みについて、インターネットの活用も含めて研究します。(総務課)

多様な人々の交流・共生

本村は、自然環境に魅了された国内外からの移住者が多く居住しています。文化や国籍の違いを尊重し合い、誰もが地域社会の一員として活躍できる環境を整備するとともに、多様であるからこそ実現できる国際的な村づくりを進めます。

移住・定住の促進

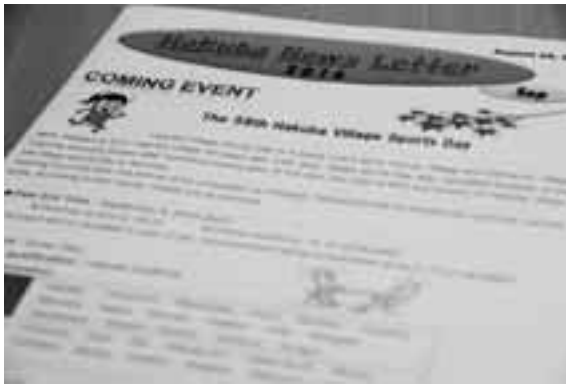
少子高齢化と人口減少による地域の衰退を防ぐため、積極的に移住者を受け入れ、住民との交流やつながりを深めたり、移住者の経験や技術を活用したりすることで地域の活力を維持します。また、地域おこし協力隊の制度を積極的に活用し、まちづくりに必要となる実行者を外部から積極的に呼び込みます。(総務課)



指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
人口	9, 120人	9, 000人 (推計値＋262人) ＜白馬村総合戦略と同数＞
人口の社会増数 (転入者－転出者)	111人	111人
地域おこし協力隊員数	3人	10人
移住定住イベント 出展・開催回数	0回／年	2回／年

多文化共生

増加する定住外国人と共生･共創するため、外国人住民との意見交換会を定期的に開催し、生活上の課題解決を図るとともに、定住外国人の地域参加･相互理解を促します。住民向けの情報提供に関して、英訳する媒体を増やすとともに、英語以外の言語への翻訳についても研究を進めることで、教育や福祉等の行政サービスが行き届くよう体制を整えます。(総務課)



指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
外国人住民との 意見交換会開催回数	1回／年	2回／年

村外の白馬ファンの活用

村外に居住している白馬村出身者や縁故者、定期的に白馬を訪れる人や二地域居住者など、本村に想い入れのある人々を「ふるさと白馬応援し隊」の隊員として委嘱し、まちづくり活動や白馬村のPR活動を支援します。また、ふるさと白馬村を応援する寄附（個人･法人）により、重点事業の財源を確保するとともに、村の事業や特産品を広く伝えることで、白馬ファンの拡大にも努めます。（総務課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
ふるさと白馬応援し隊 隊員数	50名	70名
ふるさと白馬応援し隊 隊員主催イベント開催回数	―	1回／年

安心・安全の生活を支える村づくり

防災・減災の強化

平成26年の長野県神城断層地震、平成7年の豪雨災害、昭和56年・平成18年の豪雪など、これまでに複数の災害に襲われている本村においては、位置・地勢・気候等を踏まえたうえで、多様な災害に備えることが求められています。特に長野県神城断層地震では、多くの家屋が倒壊する被害があったものの、住民の助け合いや消防団の活動により死者を出さなかったことが大きく取り上げられました。日常的な付き合いから生まれるコミュニティの強さは、震災のみならず風水害や土砂災害など災害の種類にかかわらず減災の効果が期待されています。過去の災害の記憶を風化させず、消防団や自主防災組織の活動を支援することで、地域防災力の維持・強化を図ります。

地域支え合い支援

白馬村避難支援プランに基づく「災害時住民支え合いマップ」は、平成26年の長野県神城断層地震においても住民の共助を支えるツールとなりました。今後も各行政区の作成･更新を支援するとともに、地区サロン等の地域活動を推進し、有事の際に発揮される地域力を育みます。また、災害時に速やかな初期活動にあたれるよう、関係団体等との体制づくりを進めます。（健康福祉課・総務課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
災害時住民支え合い マップ作成地区	17地区	30地区（全地区）

防災・災害情報の伝達

全国瞬時警報システム（J-ALERT）による初期情報の伝達に加え、避難施設や避難経路、災害状況等を多言語で住民･観光客に伝達する防災アプリを構築し、災害時の情報発信を強化します。また、「自らの身は自ら守る」という自助意識の向上も目的にハザードマップの作成と配布を行います。（総務課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
防災アプリ構築	0件	1件

消防団活動

住民の生命・財産を守る使命を果たすため、平常時から訓練・予防活動・防災意識啓発に努め、非常時には組織的な消防力を発揮できる消防団づくりを推進します。車両や設備・機器等の計画的な更新や自然水利の周知･管理に努めるとともに、消防団活動に対する住民・事業所の理解と協力を促進し、団員の確保や防火意識の普及・啓発に努めます。（総務課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
消防団協力事業所数	6事業所	10事業所
信州消防団員応援ショップ登録店舗数	－	20店舗

自主防災組織

避難訓練や初期消火訓練など各行政区の自主防災組織の防災・減災活動を支援し、「自分たちの地域は自分たちで守る」という共助意識を高めることで地域防災力を強化します。（総務課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
自主防災組織設立地区数	26地区	30地区（全地区）

村全体の防災への取組み

白馬村の現状に合った地域防災計画への見直しを行うとともに、災害に備えて防災資機材と非常用食料の計画的備蓄を進めます。また、既存住宅の耐震化改修を補助するとともに、寄合所・避難所としての機能を強化するため、公共施設や各地域の公民館等の耐震性を確保します。雪崩防止に関して索道事業者等と協議しながら、スキー場の安全確保に努めます。（総務課･観光課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
地震総合防災訓練等参加者数	120名	240名

治山治水

急傾斜地や土砂災害警戒区域の指定地を中心に治山･治水事業を進めながら、親水性を保ち自然景観に調和した改良を国や県に働きかけます。（建設課・農政課）

日常の住みよさの確保

平成16年に制定した「白馬村安全なまちづくり条例」や、平成27年に制定した「美しい村と快適な生活環境を守る条例」に基づき、誰もが他人を思いやり、快適で安心･安全な地域社会の実現を目指します。

もてなしの村づくり

「美しい村と快適な生活環境を守る条例」の啓発に努め、「自分たちの村は自分たちの手で美しくすること」や「来訪者がうらやむライフスタイル･コミュニティ」を常に意識して、全ての人々が快適に過ごせる村づくりを目指します。（総務課）

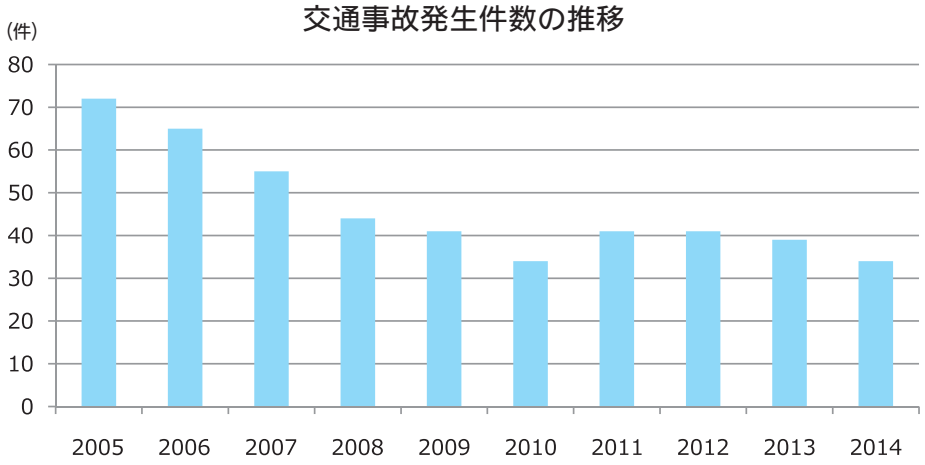
地域防犯力の向上

各地域における自主的な防犯活動を支援して、住民の連帯意識を強化することで犯罪の抑止力を高めます。また、悪徳商法や振り込め詐欺等の被害防止や消費生活相談について、関係機関と連携しながら広報啓発活動等を行います。（総務課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
刑法犯罪認知件数	79件	50件

交通安全の推進

警察署や交通安全協会、住民と協力しながら交通安全教室を開催するなど、交通安全意識の高揚に努めます。また、通学路の安全確保を進めるとともに、ガードレール･カーブミラー等の交通安全施設の適切な維持管理や計画的な整備を進めます。円滑な除雪作業により冬期間の交通を確保します。（建設課・総務課）



指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
交通事故発生件数	34件	25件

村内の移動手段の確保

現行のデマンド型乗合タクシーとナイトシャトルバスの運行を継続しながら、子どもや高齢者などの移動支援や観光客の二次交通を含めた村内の公共交通について、自動運転システム等の可能性も含めて交通事業者や関係団体と協議･研究し、高齢者や子どもの交通事故防止、環境保全、利便性向上を目指します。(総務課・健康福祉課・観光課・教育委員会)

生活と観光と医療のための道路整備

地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」の建設を推進するとともに、国道148号、国道406号、県道白馬美麻線、県道白馬岳線、県道千国北城線等の改良を国や県に働きかけます。また、優先度や緊急度を考慮したうえで、新規村道改良路線による基盤整備や、村道･林道･農道の計画的な改良･舗装及び橋梁等の点検･データベース化を進め、計画的に修繕を実施して長寿命化を図ります。(建設課・農政課)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
インフラ長寿命化点検 実施済み橋梁・トンネル等	12か所	113か所

安全な住宅の提供

震災復興のための村営住宅を建設するとともに、既存の村営住宅の長寿命化を進めます。また、定住者への住宅施策として、民間の資金や活力の有効活用について検討します。(建設課･総務課)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
村営住宅戸数	16戸	34戸
長寿命化が必要な村営住宅戸数	16戸	0戸

まちづくりマスタープランによる土地利用計画

平成15年３月に策定された現在のマスタープランは、現状に合わせて内容を検討することが求められていますが、地域高規格道路のルートが与える生活への影響は少なくないことから、地域高規格道路のルート決定を待って見直しを行います。（建設課）

地籍調査の推進

早期完了を目指して地籍調査事業を推進し、適正な賦課徴収や境界紛争の防止、円滑な土地取引・相続に寄与するとともに、土地の有効活用を促進します。原則として第6次十箇年計画（平成22年～平成31年）に沿って事業を進めていきますが、過去の計画にとらわれることなく、地域等から地籍調査事業の要望があった場合は、柔軟に調査計画の見直しを検討していきます（農政課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
地籍調査済面積	765ha	848ha

支え合う福祉と健康の村づくり

子育て支援

生まれて良かった、育てて良かったと思えるような安心・安全の子育て環境づくりを進め、子育てにおける負担や不安を和らげることで少子化の進行を抑えるとともに、未来を創る地域の宝である子どもたちの健やかな育ちを地域全体で支援していきます。

白馬村子ども・子育て支援事業計画　2015年度～2019年度（平成27年度～平成31年度）

基本理念

子どもたちの幸せ育てる白馬村

基本的施策

・すべての子どもが尊重され、健やかにより良く育つための「子どもの最善の利益」が実現されるよう配慮します。

・すべての親（保護者）が、子育てに喜びや生きがいを感じられ、安心して子育てができるような取組みを進めます。

・子育ての第一義的な責任は保護者にあるという基本的認識のもとに、家庭、学校、地域社会、企業、行政がそれぞれの役割のもとで協働して子ども・子育て支援を進めるための仕組みづくりを推進します。
・子育て世代の男性の長時間労働や出産に伴う女性の厳しい就労継続の現状を踏まえ、働く男女の職業生活と家庭生活との両立に向けた取組みを進めます。
・白馬村の恵まれた自然環境や社会資源を効果的に活用できるよう取組みます。

安全な妊娠・出産への支援

子どもの健やかな成長と父母に安心をもたらすケアなどの支援を行うとともに、経済的負担を軽減するために、妊婦・乳児一般健診の補助券発行や不妊治療費助成等を行い、安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりを行います。（健康福祉課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
合計特殊出生率	1.19	1.30
妊婦基本健診受診率	97.1%	100%
不妊治療費助成件数	4件／年	4件／年

安心して産み育てることができる医療体制の維持・充実

大北圏域の出産環境の維持・充実に向けて周辺自治体と連携するとともに、平日夜間小児科・内科急病センターの医療体制を維持します。また、子どもの医療費負担軽減を図るため、高校卒業までを対象としている福祉医療給付を継続します。（健康福祉課・住民課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
平日夜間救急医療事業	1か所	1か所
大北圏域産科数	1か所	1か所

子育てに関する交流や相談の場づくり

子育て支援ルームのなかよし広場や自由利用等により、育児中の親子が安心して集える場所を提供します。子育て相談支援センターでは個別相談や療育の充実を図り、一人ひとりの力が発揮されるよう子どもの個性や特性を大切にしながら、健やかな成長を支援します。

また、ひとり親家庭の生活の安定と自立を促進し、子どもの福祉増進を図るため、児童扶養手当や福祉医療費等の給付のほか、相談体制を強化します。（健康福祉課・住民課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
“なかよし広場”利用者数	延べ1,764人／年	延べ1,850人／年
“自由利用”利用者数	延べ1,119人／年	延べ1,200人／年
子育て相談支援センター相談件数	44件	60件

子育て家庭への経済的支援

多子世帯の保育料減免、児童手当・児童扶養手当の給付、インフルエンザワクチン助成、福祉医療費給付、私立幼稚園就園奨励補助制度等により、子育てに対する経済的支援を行うことで、子育て世代の経済的負担軽減を図り、少子化の進行を抑制します。また、ながの子育て家庭優待パスポート事業協賛店の拡充など、子どもと子育てを応援する地域づくりを進めます。(健康福祉課・住民課)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
小児インフルエンザワクチン助成	―	985件
ながの子育て家庭優待パスポート事業協賛店舗数	20店舗	24店舗

子育てと仕事の両立支援

保育園や子育て支援ルーム、放課後児童クラブの充実、白馬幼稚園との連携により、仕事を持つ親が安心して働ける支援体制を整備します。また、短時間や緊急時に活用できるファミリーサポート制度の活用も含め、病児・病後児保育への対応を進めます。(健康福祉課)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
休日保育利用者数	213人	250人
放課後児童クラブ利用者数	351人	470人

障がい児支援

乳幼児健診スクリーニング等により障がいの早期発見・早期対応に努め、各専門家の相談・支援体制により子ども一人ひとりの個性や特性を大切にしながら、0～18歳までの成長を切れ目なく適切に支援します。また、障がい児家族の交流や日中一時支援・放課後等デイサービス・通所訓練等の充実を図ります。(健康福祉課)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
自立支援給付利用件数	90件	100件

障がい者支援

障がいのある人の高齢化、重度化、多様化に対応しながらそれぞれの自立や社会参加を促し、誰もが地域でいきいきと安心して暮らすための総合的な支援の充実を図ります。

白馬村障害者計画・白馬村障害者福祉計画
2015年度～2019年度（平成28年度～平成29年度）

基本理念

地域でいきいきと安心して暮らせる自立と共生のまちづくり

・障がいの有無にかかわらず、主体性、自立性を持って社会に参加し、一人の個人として人格と個性が尊重され、誇りを持って暮らしていくことができる。

・自分らしく生きていくために必要な支援を、地域全体の理解・協力のもと受けることができる。

基本的視点

・地域における自立生活の支援

・社会参加の促進と就労支援

・人にやさしいまちづくり

地域における自立生活の支援

障がい者やその家族が住み慣れた地域で自立した生活を送るために、日中活動の場やグループホーム等の支援サービスの充実、ライフステージに応じた適切な相談支援、関係機関やボランティア、相談支援事業所、地域移行コーディネーターとの連携強化に努めます。また、公的年金制度や各種手当等の生活安定制度に関する周知･広報の強化、健診等による健康づくり、療育支援、地域の見守り支援体制の整備を進めます。（健康福祉課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
障害福祉サービス利用者数	40人	55人
共同生活援護支給決定者数	7人	17人
地域移行支援利用者数	0人	1人
日常生活支援用具給付件数	延べ160件	延べ180件
日中一時支援事業利用件数	延べ209件	延べ300件

社会参加の促進と就労支援

地域行事やレクリエーション、文化活動等に障がい者が気軽に参加しやすい環境をつくります。また、障害者雇用促進法に基づき、大北障害保健福祉圏域自立支援協議会、大北圏域障害者総合支援センター「スクラム・ネット」、ハローワーク等の関係機関と連携し、企業・雇用先に対して法定雇用率の達成への理解と協力要請を行います。また、障害者優先調達推進法に基づき、調達のメニューを拡充し施設就労者、在宅就業者の自立促進を図ります。（健康福祉課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
村内の法定雇用率 達成企業数	0社	1社
障害者優先調達推進法 調達実績	360, 960円	400, 000円

権利擁護の体制づくり

障害者差別解消法、障害者虐待防止法に基づき、障がい者の人権尊重に関する啓発活動を行うとともに、判断能力が不十分な人の権利や生活を守るため、広域連携により成年後見支援センターの活用、成年後見制度利用支援事業による負担の軽減により、適切な相談・支援体制を築きます。（健康福祉課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
成年後見制度利用支援事業	0件	1件

人にやさしいまちづくりの推進

ユニバーサルデザインの視点に立った環境整備、障がい者の生活基盤である住宅改修補助の推進、情報支援体制の充実により、公共施設・住宅・移動・情報など、様々な面で人にやさしいまちづくりを実現します。（健康福祉課・建設課・総務課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
居宅生活動作 補助用具支給件数	1件	3件
地域福祉総合助成事業 住宅改修件数	2件	3件
意思疎通支援事業 （通訳者派遣）利用回数	10回	17回

高齢者福祉

高齢者一人ひとりが、可能な限り住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるよう、地域全体で住民同士が支え合い、住民と行政の協働による地域福祉の村づくりを進めます。

白馬村高齢者福祉計画「いきいきプラン長寿白馬21」
2015年度～2017年度（平成27年度～平成29年度）

基本理念

認め合い　ともに支え合う　あたたかい村づくり

基本目標

・住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるしくみ
・健康で生きがいを以って暮らせるしくみ
・誇りを持って暮らし続けるしくみ
・介護保険制度の適切な運営

地域包括ケアシステムの構築

介護予防事業による生活機能の維持・向上、地域ケア会議による問題の把握・解決、訪問介護・訪問看護等の在宅医療の充実により、在宅生活を支援します。（健康福祉課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
介護予防取組みグループ数	19グループ	24グループ
介護予防事業参加者数	延べ5,839人／年	延べ7,000人／年
地域ケア会議開催回数	6回／年	6回／年

生活支援サービスの体制整備

介護保険制度による事業者と連携し、地域での生活を継続できるよう生活支援サービスの体制整備を図ります。また、高齢者が必要とする支援内容を調査しながら、現行のファミリーサポートやシルバー人材センター等の制度に加え、行政区単位でのボランティアとのマッチングや、生活支援コーディネーターの設置を検討します。乗合タクシーについては、利用者アンケートを実施し、運行計画の見直し等利便性の向上に努めます。（健康福祉課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
配食サービス食数	1,693食／年	2,000食／年
乗合タクシー利用者数	延べ7,729人／年	延べ8,100人／年

高齢者の生きがいづくり

それぞれのライフスタイルに合った生きがいを持ちながら活動できるように、「やる事」、「行く場所」、「なじみの人」、「役割」など、地域での社会参加のきっかけづくりを支援します。（健康福祉課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
白馬シニアクラブ会員数	964人	1,000人
シルバー人材センター登録者数	639人	700人

認知症対策・権利擁護の推進

増加が見込まれる認知症の方と家族が安心して地域で暮らし続けられるよう、相談体制の充実や居場所づくりを推進します。また、認知症や高齢者虐待に関する啓発や研修等を実施し、地域全体での理解と関心を深めます。（健康福祉課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
認知症サポーター数	638人	1,000人

健康づくりと地域医療の充実

子どもから大人まで住民みんなが健康で笑顔で暮らせる村を目指します。また、自然の恵みや生産に携わる人々に感謝するとともに、先人の知恵を大切にしながら郷土愛を育み、白馬の食文化を次世代に継承していきます。

白馬村健康増進計画「元気プラン健やか白馬21」
2014年度～2023年度（平成26年度～平成35年度）

基本的な方向

乳幼児から高齢者まで～ライフステージに応じた計画を考える

・健康寿命の延伸と健康格差の縮小
・生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底
・社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上
・栄養・食生活、身体活動・運動、休養、喫煙、飲酒及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

白馬村食育推進計画　2012年度～2016年度（平成24年度～平成28年度）

基本理念

豊かな自然と農ある暮らしに感謝し、健やかな心と体を育み、笑顔かがやき、未来をつなぐ食文化のむら

基本目標

・規則正しい生活リズムと望ましい食習慣づくり
・地産地消をすすめる体制づくりと、白馬ならではの食づくり
・食を通じた健やかで心豊かな人づくり

生活習慣病予防の推進

特定健診のリピーター増加や未受診者の受診を促す取り組みを推進することで受診率の向上を図り、疾病の早期発見･早期指導につなげます。糖尿病有病者の増加の抑制、脂質異常症の減少、高血圧の改善を図り、生活習慣病の重症化を予防します。（健康福祉課･住民課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
特定健診受診率	47.1%	60.0%
特定保健指導率	73.3%	75.0%

食育の推進

家庭や保育園・幼稚園・各学校と連携しながら食に関する知識や適切な判断力を養い、望ましい食習慣づくりに取り組みます。また、ボランティア団体等とも連携して、本村の豊かな自然･風土に育まれた四季折々の新鮮な地場産食材の活用や、地域の行事食や伝統料理の継承などを通じて、地産地消を推進します。（健康福祉課・教育課・農政課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
食育ボランティア登録者数	22人	30人

地域医療体制の確保

平日･休日にかかわらず住民が安心して医療が受けられるよう、歯科や薬局も含めた地域医療体制を確保します。また、平日夜間急病センター（小児科･内科）や冬季のスキー傷害診療を継続するとともに、耳鼻科や眼科等の地域に不足している診療科目についても関係医療機関に対して設置を働きかけます。村内及び大北圏域よりもさらに広域的な視野で二次救急医療についても充実を図ります。（健康福祉課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
平日夜間救急医療事業	実施日数289日 患者数522件	維持
在宅当番医制事業実施日数	285日(内科3・外科1)	維持
在宅歯科当番医事業 実施日数	75日	維持
スキー傷害診療	実施日数42日 患者数1,274件	維持

自立的・効率的で健全な行財政の村づくり

情報通信技術の活用

情報通信技術(ICT)の著しい発展と普及は社会や生活環境に大きな変化をもたらしています。村づくりにおいても、福祉、教育、防災、産業、環境など様々な面で活用の可能性があることから、セキュリティ対策を講じながら情報リテラシーの向上を促進し、住民の利便性向上や効率的な行政運営に資する活用を進めます。

個人番号カードの普及及び活用による住民サービス向上

個人番号カードを活用した証明書等のコンビニ交付サービスの実施を検討し、個人番号カードの普及促進を図ります。(住民課)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
個人番号カード交付率	―	20%

広域ネットワークの構築

大町市と接続する光回線を敷設し、広域ネットワークを構築することで、各種システムの共同化による業務効率化を図ります。(総務課)

情報通信環境の整備・活用

村内全域に敷設した光ケーブルやケーブルテレビ白馬の放送設備を計画的に更新し、インターネットを活用したまちづくりを推進します。(総務課)

行財政改革の推進

地方分権化の進行に対応し、社会情勢や地域性に合った組織機構のあり方を常に検討するとともに、中長期的な視点に立って効率的で健全な行財政運営に努めます。PDCAサイクルにより事業の効果や優先度を検討しながら、住民に信頼される組織づくりを目指します。

魅力ある人材の確保と計画的・効果的な職員研修

人材育成においては、採用の時点で、資質の優れた者をいかに確保するかということが重要であることから、本村が求める職員像としての資質を見極め、行政需要の複雑化・高度化に対応できる人材を確保できるよう、試験制度にも改善を加えながら積極的な採用活動を実施します。

職員研修は、個々の能力開発を踏まえた人材育成の一環であるという観点に立ち、各階層に求められる役割と資質を踏まえた研修を実施します。また、大北圏域内の市町村職員が連携し互いに能力の向上を図るため、研修会の相互乗り入れなど、広域的な取り組みを推進します。（総務課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
長野県市町村職員研修センターが開催する研修の受講者数	32人	60人
大北圏域で相互乗入できる研修の実施回数	－	15回

財政計画の策定と財政状況の分析

限られた財源を活かしつつ、多様化する住民要望に応えるために、事業の重点化や順序化を図りながら、実施計画策定に合わせて将来を見据えた財政計画を策定します。

固定資産台帳の整備及び新公会計システムを導入し、財政状況を適正に把握・財政分析します。（総務課）

財政健全化

健全化判断比率を適正数値に保ち、健全な財政運営を継続していきます。（総務課・税務課）

＜歳入＞

村税の適正な課税や受益者負担の適正化、不要な公有財産の売却などに努めるとともに、コンビニ収納の導入やクレジット収納の拡充など社会環境や生活スタイルに見合った納付方法の多様化及び徴収対策の強化を図り、税・料金などの収納率の向上を図ります。

国・県・民間の補助金や交付金、ふるさと納税制度を活用した寄附金等の外部資金を効果的に活用します。また、インターネットオークション等を活用した公有財産の売却や、

Webサイト・広報紙・封筒等への広告掲載により自主財源の確保に努めます。

＜歳出＞

業務の見直しや合理化により経費削減に努めるとともに、実施計画などを基に事業の優先順位を明確にし、費用対効果などにより事業を見直します。

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
実質公債費比率 (収入に対する借金返済額の割合 早期健全化基準25%)	11.8%	12.0%未満
将来負担比率 (年間収入に対する将来的に負担する可能性のある借金の総額の割合。早期健全化基準350%)	22.9%	30.0%未満

公有財産管理

公共施設等総合管理計画を策定し、その計画に基づく施設の適正配置や活用、長寿命化・効率化・維持管理コストの削減・指定管理者制度の活用・施設の統廃合などによる総合的かつ計画的な施設管理を推進します。公有財産（土地・建物）の売却や譲渡・貸付などによる未利用財産の活用や処分を進めます。(全課共通)

産業　新しい仕事をつくりだす村

「世界水準」を意識した観光の村づくり

競争力と持続可能性を高める観光地経営

白馬村観光局、白馬村振興公社、各地区の観光協会や観光事業者と連携しながら、「自分たちの生活の場として次世代に自信を持って引き継ぐことのできる白馬村」、「高い誇りを持って世界中から来訪者を迎えることのできる白馬村」を実現します。また、自然環境や多様なアクティビティに加え、国際観光地である白馬の「豊かな暮らし」を積極的に発信することで、国内外から人々を呼び込みます。

白馬村観光地経営計画

基本理念

恵まれた自然、山と雪が育む生活･文化を未来に残す　マウンテンリゾート･Hakuba

基本方針

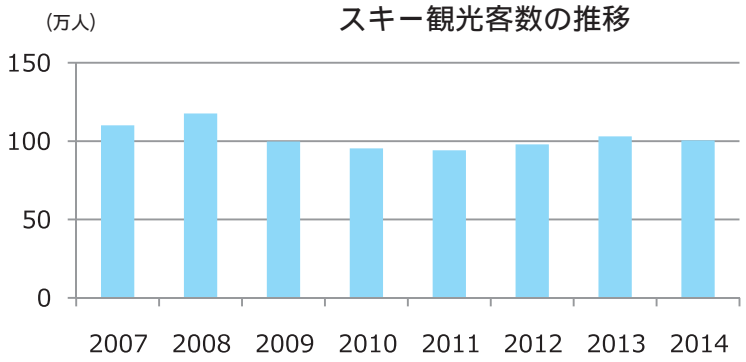
- 白馬村全体、さらには他地域との広域連携により観光の効果の最大化を視野に入れ、産業間・地区間・取組主体間の連携を進めます。
- 白馬連峰を核に、地域に根差した自然・歴史・文化の多面的な活用と、それらを支える人材の育成・活用を進めます。
- 「スキー目的＋グリーンシーズン周遊」型から「オールシーズン×滞在」型への転換を図ります。
- 客観的な数値データによる現況の把握と成果の評価、検証に取り組みます。

白馬連峰への眺望の魅力最大化

白馬駅前やサンサンパーク白馬周辺など白馬連峰への眺望が得られる象徴的なエリアについて、景観を生かした滞在空間の魅力向上を図ります。（観光課・建設課・総務課）

核となるスキー場と宿泊拠点の再生

宿泊施設とスキー場が一体となった地区について戦略的な将来ビジョンを検討し、宿泊施設とスキー場のサービス共通化による効率化や競争力強化を図り、利用者の利便性を高めます。また、宿泊環境の整備として、サービスの質や収容力の向上を目指します。（観光課）



指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
ウィンターシーズン観光客入込数(12月～3月)	111万人／年	130万人／年

国際リゾートに相応しい受入環境整備

「世界水準」を意識した国際リゾートとして、国内外からの来訪者が安心して訪れることができる環境整備を推進します。HAKUBA VALLEY共通ゲートシステムの利用拡大、公衆無線LANの整備、一目でわかるシャトルバスの運行、冬場のタクシー不足解消、案内看板の多言語化・統一化、インバウンド受入サポート体制整備等を進めます。(観光課・総務課)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
HAKUBA VALLEY Free Wi-Fi 整備箇所	0か所	8か所

魅力の多様化に向けたコンテンツ創出

降雪量など気象条件や世界経済など社会条件のリスク回避も考慮し、来訪時期や来訪形態の多様化を図ります。夏季・冬季それぞれ屋内外でのアクティビティを積極的に展開するとともに、オリンピック開催経験に裏付けされたブランドイメージを活かしたスポーツ関連プログラムや、地元食文化と温泉を組み合わせた魅力を強化し、歴史・文化・芸術系の資源を観光に活用することで、雨天時も多様な楽しみ方ができる村づくりを進めます。また、地元食材と観光施設が経済的・有機的に流通するシステムを構築します。(観光課)

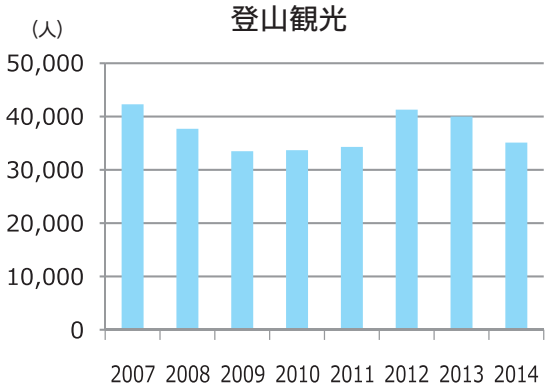
指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
グリーンシーズン観光客入込数(4月～11月)	113万人／年	120万人／年

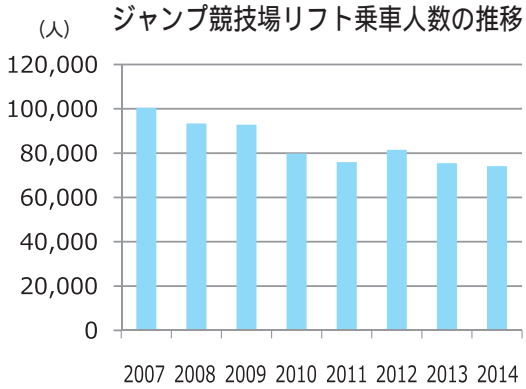
観光業の活性化・平準化による安定的な雇用創出

環境整備や情報発信による観光産業の活性化とともに、夏･冬と春･秋の季節変動を平準化することで、通年で安定した雇用の創出を図ります。（観光課）

地域特性を活かしたスポーツツーリズムの推進

山岳環境やオリンピック施設等を活用しながら、スポーツ合宿の誘致や村外者を対象としたスポーツイベントを開催することで、交流人口の拡大や地域経済への波及効果を目指します。（観光課・教育委員会）

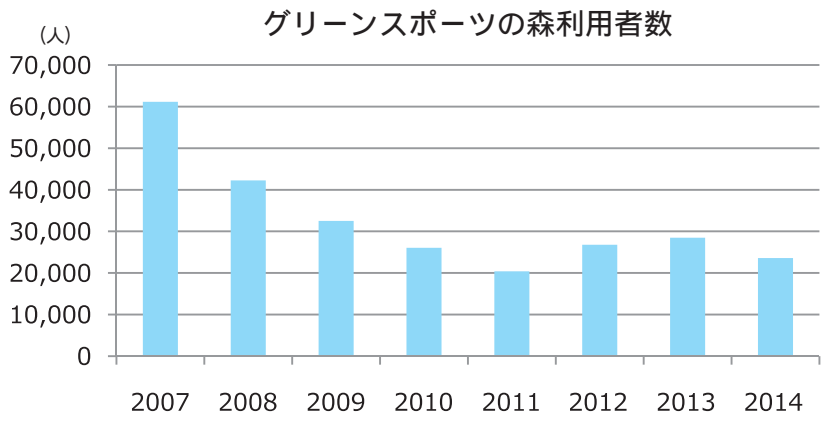




指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
スポーツ観光客数 (スキー観光＋山岳観光)	1, 015千人	1, 136千人以上
白馬ジャンプ競技場 リフト乗車人数	74, 061人	83, 000人以上
白馬スノーハープ クロスカントリー大会 出場者数	2, 121人	2, 300人以上
FISサマーグランプリ ジャンプ白馬大会 来場者数	6, 580人	7, 300人以上
スノーハープを活用した マウンテンバイク大会 参加者数	280人	310人

観光施設の維持管理

グリーンスポーツの森、山小屋、登山道、塩の道、きこりの道等の観光施設を適正に維持管理し、安全で快適に利用できる環境を整えます。（観光課・教育委員会）



広域観光の取り組み

長野県が目指す「世界水準の滞在型観光地づくり構想」の重点支援地域として、大町市・小谷村との「北アルプス三市村観光連絡会」によるシャトルバスの運行やプロモーション、エリアブランディング等を推進し、他地域との差別化・差異化を図ることでエリアのファン獲得を目指し、広域的な観光施策を展開します。（観光課）

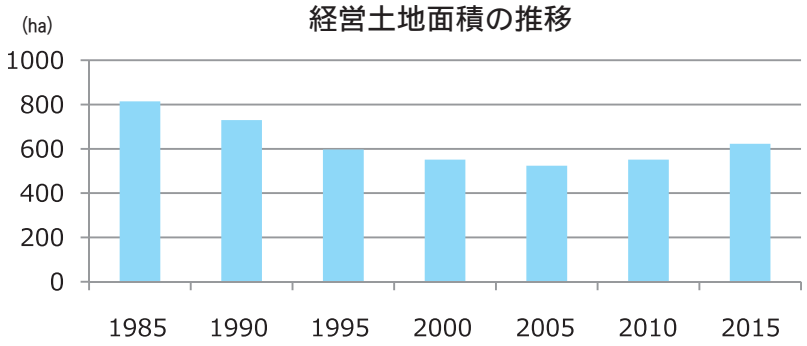
農地と森を守り地産を活かす村づくり

優良農地の保全

農業従事者の高齢化や後継者不足による耕作放棄地の増加を抑止するため農家を支援するとともに、農地の生産効率を高めるために、ほ場整備を推進し、農産物等の生産に加え、自然環境の保全や景観の形成、水源の涵養や災害の予防など多面的な機能の保持に努めます。

里山環境の保全

山岳景観の麓に広がる田園風景は白馬村の特徴として大切に守っていく必要があります。農業振興地域総合整備計画を見直すとともに、多面的機能支払交付金等を活用することで優良農地の保全や耕作放棄地の減少に努め、農山村集落の田園風景を守ります。（農政課）



指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
耕作放棄地面積	15.8ha	10ha
多面的機能支払交付金 取組面積(農地維持)	404.64ha	410ha

農業施設の維持管理

農業生産性の向上のため、既存の水路、頭首工、農道等の施設を適正に維持管理し、必要に応じ、改修等を行います。そのために、施設整備の取組みである多面的機能支払交付金事業（長寿命化）を活用します。(農政課)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
多面的機能支払交付金 対象面積(長寿命化)	315.09ha	400ha

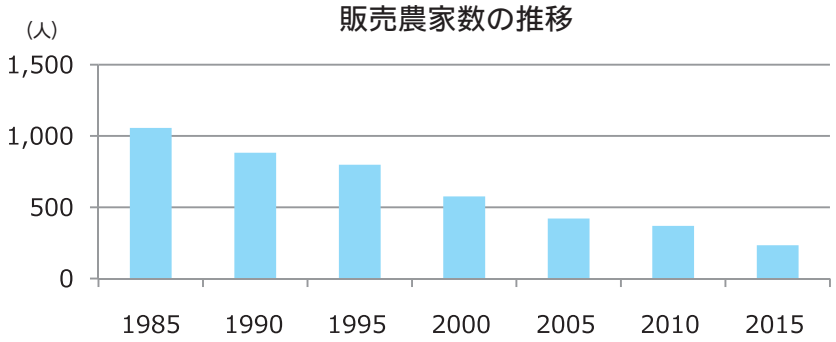
ほ場整備の推進

担い手農家や地主から要望のある地域について、ほ場整備を推進することで農地を集積し、農地の生産効率向上や耕作放棄地の減少に努めます。(農政課)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
新規地区(北城)	―	30ha

認定農業者への支援

今後の村の農業を支えていく認定農家への支援に努めます。平成30年度に予定されている米政策の転換に際し、国の動向を注視し、農家への的確な情報提供に努め、農家支援を行っていきます。(農政課)



指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
農業機械等導入補助件数	ー	累計30件
認定農業者への 農地利用集積面積	359ha	400ha
認定農業者数	24人	28人

就農体験の機会づくり

ふれあい農園（アグリスクール）や市民農園の貸出し等により就農の機会を設け、自家用野菜の栽培や直売所等での販売のきっかけを作ることで、農業後継者の育成を図ります。（農政課）

有害鳥獣対策

有害鳥獣との境界確保のため、里山や農地の草刈りを行うとともに、電気柵の設置や鳥獣駆除により農作物への被害防止に努めます。（農政課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
農産物被害額	104万8千円	78万円

農産物のブランド化と特産品の生産・販売の推進

白馬産米は、個々の農家の努力により、評価が高まりつつあります。食味コンテストでの上位入賞やふるさと納税寄附者からの高い評価を踏まえ、ブランド化に向けて村基準による「おいしい米づくり」に試験的に取り組み、白馬産米の美味しさを村内外に発信します。米以外の作物については、これまでに紫米やそば、大豆の特産品化を推進してきました。また、特産品づくりに関心のある団体等を支援し、ブルーベリー、食用ほおずき、陸わさび、トマト等の栽培･販売を推進しています。これらの事業により農地の荒廃化防止や農業所得の向上にもつなげるとともに、観光と農業の連携によるグリーンシーズンの魅力を創出することで地域振興を図ります。

米の品質向上・ブランド化

白馬産米の品質向上を図り、ブランド化することで農業所得の向上を図ります。(農政課)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
白馬産ブランド米 生産農家数	－	10者

特産品の生産・販売強化

紫米の消費量･出荷量の向上を図るとともに、ブルーベリー･食用ほおずき･陸わさび･トマト等の生産を拡大し、特産品開発や６次産業に取組む団体を支援します。(農政課)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
紫米消費量	6t／年	8t／年
特産品栽培面積	7ha	10ha

地産地消の推進

新鮮な地場産品を提供する直売所の充実に努めるとともに、地産地消認定制度（仮称）を創設し、地場産品を村内で提供している観光・宿泊施設等を支援します。（農政課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
地場産品売上高	2,041万円	2,500万円
地産地消認定者	―	25者

道の駅建設と地域経済循環システムの構築

総合観光情報発信基地としての役割に加え、特産品・農産物・林産物の集中管理機能を持たせた地域循環経済の中心的機能を備える道の駅の建設を進めます。（農政課・観光課・総務課・建設課）

指　　標	現状値　（H 26 2014）	目標値　（H 32 2020）
新しい道の駅	―	1

森林の整備と活用

中信森林管理署、長野県、白馬村、森林所有者、森林組合等林業関係者及び木材産業関係者の間で相互に合意形成を図りつつ、地域一体となって森林の集約化を進めるとともに、集約化した森林において森林経営計画を立てたうえで持続的な森林経営を推進します。また、林業従事者及び後継者の育成・確保、作業路網の整備など林業関係者等が一体となって、長期目標に立った諸施策を計画的に実行します。

白馬村森林整備計画　2016年度～2026年度（平成28年度～平成38年度）

森林整備地域活動支援

間伐や除伐、下草刈り等の森林整備事業を推進し、森林を保全しながら有害鳥獣による被害を抑止するとともに、美しい景観で訪れる人々をもてなします。（農政課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
森林整備面積 （公共造林事業）	5.1ha	60ha

森林資源とふれあう機会の創出

住民参加による森林整備を進めるとともに、既存の「白馬きこりの道」等の活用や、子ども向けの自然体験教室の開催等により、住民や観光客が森林資源に親しむ機会を設けます。また、利用されていない里道を調査し、観光資源としての活用について研究します。（農政課・観光課）

商工業の振興により雇用を生みだす村づくり

商工振興・創業支援

近年増加している外国人の移住者や旅行者により需要が高まる外食産業や、豊かな自然環境を活かし多様化するアウトドアレジャー産業など事業化の機会が増えつつある状況に対し、白馬商工会と連携して創業支援や融資制度の拡充に取り組みます。

商工振興

設備投資等に要する資金の利子補給を実施します。（観光課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
小規模事業者経営改善資金利子補給補助金額	108万円	162万円

創業支援と空き店舗活用、後継者育成支援

商工会と連携して創業支援を行うことで新たな雇用の受け皿をつくるとともに、空き店舗の調査･台帳整備を行い、新規創業者への空き店舗斡旋や後継者育成へつながる支援を実施します。（観光課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
空き店舗の斡旋と活用件数	－	5件
創業支援者数	3人	累計10人

新しいしごとの創出

恵まれた自然環境や山岳景観、避暑地としての優位性を活かし、インターネット環境があれば場所に捉われず仕事ができるICT等の業種を中心に、サテライトオフィスやコワーキングスペース等の働く環境を整備することで、通年で安定して働けるしごとをつくります。また、自宅やコワーキングスペースなど職場以外の場所で働く「テレワーク」

や、同時に複数の仕事に携わる「マルチワーク（多業）」をしやすい環境について研究します。（総務課）

指　　標	現状値　(H 26　2014)	目標値　(H 32　2020)
サテライトオフィス企業数	－	1

民間活力を活かす村づくり

産官学金労言連携

大学や企業等との連携により、観光・福祉・教育・農業・環境・防災・人材育成など、様々な分野でまちづくりを協働で推進します。

大学・企業等との連携

既に連携協定を締結している大学や企業との連携事業について推進・見直しを図るとともに、新たな連携先も模索し、先進的な暮らし方やまちづくりを目指します。（総務課・観光課・健康福祉課・農政課・教育課）

指　　標	現状値　(H26　2014)	目標値　(H32　2020)
連携協定に基づき進行中の事業	－	5事業

ひと　一人ひとりが成長し活躍できる村

学びあい育てあう村づくり

次代を担う子どもたちの学習支援

国際化する社会に生きる子どもたちが、白馬の自然と風土の中で人間性豊かに成長し、個性と創造性を伸ばしながら社会の変化に主体的に対応して未来を切り開く力を育めるよう、家庭・学校・地域がそれぞれの役割のもとに相互に連携・協力する環境をつくります。

白馬村教育大綱　2015年度～2019年度（平成27年度～平成31年度）

基本目標

- 人権教育の推進
- 個性と創造性を伸ばす教育の推進
- 家庭、学校、地域の連携体制づくりの推進
- あらゆる機会に学習できる社会の実現の推進
- 多様な文化交流活動の推進

「自ら学び、自ら考える力」と「生きる力」の育成

確かな学力として知識や技能の習得とともに、思考力、判断力などを重視し、社会において必要となる力を身につけることができる環境をつくります。小中学校間の連携を強化し、学力向上対策委員会における横断的・具体的な検討を行いながら、協同的・対話的な学びを充実させるとともに、教育相談や就学相談などの支援体制を整え、各学校における学校目標が達成できるよう支援します。また、時代に即した学習環境として、タブレット端末や電子黒板、実物投影機などのICT機器を計画的に導入・更新するとともに、ネットワーク環境を整備しながら必要な教育コンテンツを導入することでICT教育を推進します。（教育課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
中学校情報端末活用生徒数	0人	延べ900人
小学校情報端末活用児童数	0人	延べ690人

地域に開かれた学校づくり

信州型コミニュティスクールの小中学校への導入により、保護者や住民の学校運営への参画を進め、地域に開かれた学校づくりを実現します。子どもたちの健やかな成長を社会全体で支える観点から、家庭・地域の教育力向上を支援し、学校との連携と協力を推進

します。英語力の向上や郷土の魅力を知るための地域学習などの各学校の取組みを支援します。また、地域で見守る防犯、交通安全体制により子どもたちの安全を確保します。（教育委員会）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
信州型コミュニティスクール※設置校数	0校	3校

※学校の運営、支援、評価に地域がボランティア活動などを通じて参加する仕組みを持った学校

安心・安全な学習環境づくり

計画的に小中学校の建物耐震化、設備更新や防災・防犯対策等を進め、学校の安全確保を進めます。

新しい共同調理場の建設に向けて住民と連携し事業を進めるとともに、安心・安全な学校給食を提供し、生きた教材として活用できる施設として食育の推進を図ります。（教育委員会）

地域を担う人材の育成

「白馬高校の経営・運営に参加する地域案」に基づき、小谷村と共同で白馬高校に積極的に支援を行います。また、公営塾や職業体験、英語学習などを通じ、国際山岳観光地である本村を担う人材の育成を目指します。（教育委員会）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
しろうま學舎塾生数	ー人	60人

生涯学習と青少年育成

幅広い年代において、生きがいづくりや生活の質の向上のために学び続けることができる環境づくりを推進します。各種講座や活動により住民の交流を促進するとともに、「知」の拠点となる図書館施設の整備を進めます。

限りない向上心を支える生涯学習

公民館が地域コミュニティの核となり、生涯学習と地域学習を推進できるよう分館活動を支援するとともに、住民のニーズや地域の実情に応じた多様な学習機会を提供します。また、生涯学習の発表の場として文化祭を開催します。（教育委員会）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
平均講座受講者数	15人	22人

図書館の充実

住民の暮らしと文化振興の活力となるよう、公共図書館の運営を充実させるとともに、地域おこしやまちづくり、人づくりに役立つ魅力ある図書館を目指します。また、図書館としての機能･役割を充足できる施設とは言いがたい現在の図書館について、スペースの面でも限界であることから、収納スペースの見直しを行うとともに、施設の増改築や新図書館の建設について調査・検討を行います。(教育委員会)

白馬村図書館基本計画　2016年度～2020年度（平成28年度～平成32年度）

運営理念

村民のくらしを支援し、まちづくりに役立つ図書館を目指します

運営方針

・子どもたちの成長に役立つ図書館
・人づくりに役立つ図書館
・暮らしに役立つ図書館
・地域おこし、まちづくりに役立つ図書館
・文化振興に役立つ図書館

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
図書館来場者数	延べ12,800人／年	延べ25,000人／年

人権教育の推進

あらゆる偏見や差別をなくし、全ての住民が自他の人権について考え、責任を自覚し、ルールを守り、安心して学校や社会で生活できるよう、学習機会を充実させることで人権教育を推進します。(教育委員会・住民課)

青少年健全育成事業の推進

青少年を取り巻く状況の厳しさを踏まえ、白馬村青少年健全育成村民会議等と連携し、安全でよりよい社会環境を確保するためのパトロールや啓発事業を中心に青少年健全育成に関する取り組みを推進します。また、各行政区の子ども会育成会との連携により、子ども会行事を実施することで、子ども同士で助け合い健全な心を育てる交流の機会をつくります。(教育委員会)

文化・芸術の振興

文化活動の活性化は、住民の生活に潤いを与え、豊かな心を育てます。社会文化振興団体の活動支援を行うとともに、ウイング21ホールを中心とした芸術鑑賞会等を実施し、既存の施設を活用した展示会を開催するなど文化・芸術に触れる機会を提供します。（教育委員会）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
コンサート等の実施における入場者数	延べ340人／年	延べ500人／年

生涯にわたりスポーツに親しむ村づくり

スポーツによる健康づくりと活力の創造

住民の健康維持や増進、体力の維持や向上を図り、白馬村体育協会や白馬村総合型地域スポーツクラブのほか、観光･教育部門とも連携しながら、村民一人ひとりが生涯にわたってスポーツを楽しむことができる環境を整備します。

白馬村スポーツ推進計画　2015年度～2019年度（平成27年度～平成31年度）

基本理念

スポーツの力で未来を拓く

～スポーツを通じて、白馬の活力と、村民の健康を願って～

基本方針

- スポーツによる健康増進
- 子どもが日常的に楽しくスポーツに取り組むことができる環境づくり
- スポーツ競技者の競技力向上
- 地域の特性を活かしたスポーツ環境の整備
- スポーツ施設の整備及び充実

スポーツによる健康増進

幼少期から成人まで住民の誰もが生涯を通じてスポーツに親しむよう、スポーツイベントやスポーツ教室の開催を推進します。特に初心者や未経験者、高齢者や障がい者が気軽に参加できる機会をつくるとともに、スポーツを通じたコミュニティづくりを推進します。（教育委員会）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
週１日以上スポーツをする人の割合	40.0%	46.0%以上
白馬村体育協会・白馬村総合型地域スポーツクラブ主催教室の参加者数	延べ4,166人	延べ4,700人以上

子どもが日常的に楽しくスポーツに取り組むことができる環境づくり

生涯にわたって健康で豊かな生活を送れるよう、幼少期から「運動あそびプログラム」等を取り入れ、スポーツの習慣化を図るとともに、体力づくりの基礎を養う環境を整備します。子どものスポーツ活動の充実として、村内の保育園・幼稚園・小中学校や関係団体と連携したスポーツ機会の提供に取り組むとともに、子どもの体力向上の推進として、村内の小中学校への体力づくり支援や保護者への研修会等を開催します。(教育委員会)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
子どものスポーツ実施率	中学生 73.0% 小学生 67.8%	中学生 83.0%以上 小学生 77.0%以上

スポーツ競技者の競技力向上

住民の協力を得ながら継続的な指導者の確保に努め、選手のレベルに応じた指導体制を確立し、全国や世界で活躍できるトップレベルの競技者の育成を目指します。指導者の育成及び支援として、研修会や指導者間ミーティングを開催するほか、白馬村体育協会や白馬村スキークラブへの支援、競技会の開催や誘致、本村出身のトップ選手による指導環境の構築等を進めます。(教育委員会)

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
白馬村スポーツ功労賞等受賞者数	22人	25人
白馬村スポーツ少年団登録者数	362人	410人以上
白馬村体育協会加盟団体登録者数	1,149人	1,280人以上
白馬村スキークラブ競技登録者数	62人	70人以上
白馬村総合型地域スポーツクラブ登録者数	209人	230人以上

スポーツ施設の整備及び充実

ナショナルトレーニングセンターに指定されたクロスカントリー競技場「スノーハープ」やジャンプ競技場、ウイング21等のオリンピック施設や他の公共スポーツ施設について、計画的な修繕や更新を検討します。また、利用者のルールを徹底し、施設の適正かつ有効な利用を図りながら、村内外の利用者のニーズに応えます。（教育委員会）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
社会体育施設等 利用者数	延べ86, 935人/年	延べ96, 000人以上/年
ウイング21利用者数	延べ53, 946人/年	延べ60, 400人以上/年
クロスカントリー競技場 利用者数	延べ12, 121人/年	延べ13, 500人以上/年

一人ひとりに活躍の場がある村づくり

人のつながりによる活力の創出

本村は移住者や交流人口が多い状況にありながら、それらの人が集う場が少なく、村内外の若者交流の場が求められています。多様な人が交流する場を設けることで個々の知識や技能を繋ぎ合わせ、地域の活力を創出します。

多様な人々が交流する機会の創出

住民や村外の人が気軽に集いつながれる場所やきっかけづくりに努め、村内外の人材が積極的に活用できる環境や仕組みづくりを進めます。（総務課）

若者交流・結婚支援

晩婚化や未婚率の増加による人口減少･少子高齢化対策として、若者が交流できる場を提供することで地域を活性化するとともに、結婚支援につなげます。大北圏域でも連携して交流事業に取り組むとともに、しあわせ信州結婚支援センター等と連携し、出会いの機会拡大や情報提供体制の充実を図ります。（総務課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
村内の若者交流 イベント開催回数	－	1回／年
広域連携による若者交流 イベント開催回数	－	1回／年

男女共同参画社会の推進

すべての住民の人権を尊重し、性差に関係なくお互い支え合う心を持ち、平等な参画機会が確保される村づくりを目指します。また、労働条件や固定体役割を見直し、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の充実を図るために、関係機関と連携して啓発活動・意識づくりに取り組みます。

白馬村第二次男女共同参画社会づくり計画
2013年度～2017年度（平成25年度～平成29年度）

基本理念

～ちっちゃなことから始めよう～　会話・参加・行動から生まれる自分らしさを生かせる社会づくり

基本目標

・男女共同参画社会実現のための意識づくり
・男女共同参画社会実現のための社会環境づくり

女性活躍の促進

啓発・広報活動に積極的に取り組み、各行政区の役員への参画促進や村の職員の女性の割合を高めることで、女性の活躍・社会参加を促進します。（総務課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
講演会の開催回数	1回／年	2回／年
白馬村役場の 女性職員の採用割合	0%	30%

自然　魅力ある自然を守る村

かけがえのない山岳自然環境を守る村づくり

天恵の自然との共生

環境保全を推進するうえで、第４次総合計画の基本理念である「白馬の里にひと集い　くらし健やか　むらごと自然公園」の考え方を踏襲し、世界に誇る山岳環境とその景観を守り受け継ぐことが大切です。住民一人ひとりの環境保護意識の向上を促し、観光客への啓発にも取り組むことで、美しい自然環境に囲まれた豊かな暮らしを守ります。

自然環境保護

雄大な山岳自然環境を財産として認識し、グリーンパトロール活動等を実施することで、白馬連山高山植物帯や八方尾根高山植物帯、親海湿原や名水百選に選ばれている姫川源流等の貴重な自然環境を保護します。また、山小屋や平地の公共観光施設において、環境配慮型トイレへの改修を順次進めます。（観光課・教育委員会）

指　　標	現状値　（H26　2014）	目標値　（H32　2020）
環境配慮型トイレへの改修	1か所	2か所

自然エネルギーの利活用

地球温暖化や化石燃料の枯渇等の地球環境問題には、新エネルギーの導入が有効な対策となります。恵まれた本村の自然環境を今後も守り続けるため、環境への負荷が少ない循環型社会を目指し、積極的に自然エネルギーを活用します。

クリーンエネルギー・自然エネルギーの利活用

農業用水路を活用した小水力発電、ペレットストーブの購入助成、ペレット流通システム等を推進するとともに、バイオマス等の再生可能エネルギーや、雪･温泉といった地域特有の資源の活用について研究します。また、計画的に電気自動車等の低公害公用車両を導入します。（農政課・総務課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
小水力発電量	―	140万Kwh／年
ペレットストーブ購入補助件数	5件	累計30件
ペレット販売数量	689袋	1, 200袋
低公害公用車両数	4台	6台

自然との生き方を受け継ぐ村づくり

守るべきふるさとの歴史と文化の継承

先人が守り抜いた歴史や文化に誇りを持ち、暮らしの中で次世代に継承しながら地域資源としての活用を図ります。登山･スキー･民宿といった本村の伝統を尊重し、自然と共に過ごす豊かな暮らしを永続的に受け継ぎます。

先人が築いた有形・無形文化の継承

伝統と文化を尊重する精神を育み、村に伝わる有形･無形の文化を継承するとともに、国、県、村指定の文化財の保護と活用を図ります。子どもから大人まで幅広い住民が郷土を学ぶ機会を提供し、郷土を愛する気持ちを育てます。（教育委員会）

登山・スキーの歴史・文化の継承

100年以上の歴史を有する山小屋やスキーは、本村の発展の礎となりました。先人が切り拓いた山岳の歴史・文化を次世代に継承するため、関係機関と連携し、子どもから高齢者まで幅広い住民が登山やスキーなどに親しむ機会を増やします。（教育委員会）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
週1～2回スキーをする住民の割合	小学生29.0% 中学生20.8% 成人　8.7%	小学生33.0% 中学生24.0% 成人 10.0%
白馬村体育協会スキー教室参加者数	81人	90人以上

美しい景観を守り育む村づくり

自然環境に調和したまちづくりの推進

白馬岳を中心とした雄大な北アルプスの山岳資産の恩恵を受け山岳観光地として発展してきた本村にとって、世界に誇る山岳景観美を守ることは最も重要な使命です。「世界水準の滞在型観光地」を目指す白馬村にとって、山岳景観に調和した景観形成・開発が課題となっており、守るべきものは守るというスタンスは基本にしながら、今後の開発のあり方を考える必要があります。また、山岳景観の麓に広がる田園風景も守るべき貴重な資源であり、一人ひとりが「美しい村づくり」を意識することで、住む人も訪れる人も魅了するまちづくりに努めます。

白馬村まちづくり環境色彩計画

基本コンセプト

もてなしの万博理想都（リゾート）・白馬

色彩景観のコンセプト

もてなしのしつらえ～景観でもてなす～

世界水準の観光地に相応しい開発基準

国内外の資本による大規模開発等に対応するため、世界水準の観光地に相応しい開発基準について環境審議会とともに研究します。（総務課）

美しい風景を守るための景観形成

景観形成重点地域指導基準･屋外広告物設置基準を守り、白馬村まちづくり環境色彩計画や住民協定による景観形成を推進します。また、山岳景観に調和したまちづくりのため電線の裏配線・埋設など無電柱化を推進します。（総務課・建設課）

空き家・廃屋対策

空き家台帳を整備し、定住促進への有効活用や除却を促すことで景観を保全します。また、廃屋化した建物については、所有者による除却を促すとともに、廃屋対策事業を継続します。（総務課）

不法投棄・野外焼却の防止

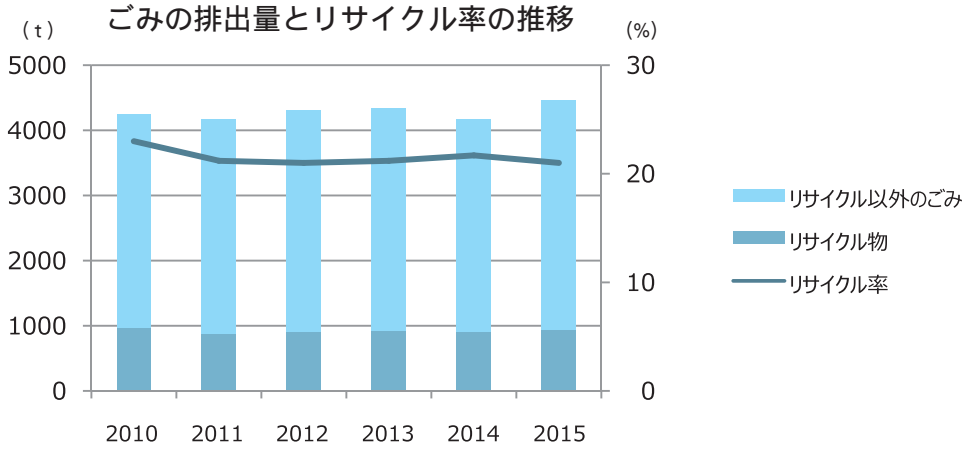
不法投棄監視パトロール等の実施により、不法投棄と野外焼却の防止を図ります。また、「美しい村と快適な生活環境を守る条例」に基づき、空き缶等の投げ捨て、飼い犬等のフンの放置、廃自動車の放置等の防止を図ります。（住民課・総務課）

きれいな水と空気に囲まれる村づくり

ごみ処理広域化への対応とごみ減量化

大町市に建設される新しいごみ処理施設が平成30年度から稼働することになり、大町市・白馬村・小谷村の1市2村のごみ処理が広域化され、現在の白馬山麓清掃センターは平成30年度中に稼働を停止します。今後は北アルプス広域連合において策定される一般廃棄物処理基本計画に基づいて、ごみ収集体制の整備、ごみ減量化の推進を図ります。また、ごみの減量化に向けては、村民一人ひとりが適正なごみの分別や出し方に積極的に取り組むことも重要です。

新ごみ焼却施設完成予想図（大町市源汲地区）



ごみ収集・運搬体制の強化

現在、白馬山麓清掃センターへのごみの直接持込量は、全体の約半分を占めていますが、広域化後は直接の持込みが困難になるため、各地区の地区集積場を拡充・整備する必要があります。今後は、行政区が行うごみ集積場の整備を積極的に支援し、ごみの収集体制を強化します。また、村民が円滑かつ適切にごみを出せるような収集方法を検討し、ごみ処理がスムーズに実施できる体制を整備します。（住民課）

指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
地区集積場箇所数	52	57

ごみの削減と分別の徹底

ごみ処理広域化に伴い焼却ごみを減らす必要があります。そしてそのためには、焼却ごみの約半分を占める生ごみの削減が重要となることから、今後も、家庭用生ごみ処理機の購入に対する補助事業等により、生ごみの自家処理の普及促進を図るとともに、生ごみ処理施設の建設について研究を進めます。（住民課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
生ごみ処理機利用世帯数	150世帯	300世帯
焼却ごみの量	3,000t／年	2,900t／年

北アルプス広域連合との連携によるリサイクルセンターの活用とリサイクル率の向上

北アルプス広域連合において新たに村内に建設されるリサイクルセンターの活用と、ごみの分別指導の強化により、４Ｒ＊（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）を進め、リサイクル率の向上を図ります。（住民課）

指　　標	現状値　（H26 2014）	目標値　（H32 2020）
リサイクル率	21.7%	30.0%

＊４Ｒとは…リフューズ：不要な物を買わない、リデュース：ごみを減らす、リユース：繰り返し使う、リサイクル：再資源化する

きれいで安心・安全な水環境の保全

豊かな水源を後世のために維持･保全し、住民や観光客のためにきれいでおいしい水道水を安定的に供給することはもちろん、水の大切さに関する啓発に取り組みます。また、中長期を見据えて計画的に施設を更新するとともに、経営財政状況を分析し、効率的な経営と事業運営に努めます。

白馬村水道事業ビジョン　2016年度～2025年度（平成28年度～平成37年度）

基本理念

自然の恵みをそのままに。おいしい白馬の水道水

基本目標

- 安全な水道－誰もが安心しておいしく水が飲める安全な白馬村の水道
- 強靭な水道－本当に必要な時に常に備え、災害時を想定しどんな状況でも利用できる強靭な水道
- 水道サービスの持続－使用者の満足度と安定した経営による持続可能な水道

上水道の安定供給

安心･安全な水道水を安定的に供給するために、アセットマネジメント（資産管理）による将来予測に基づき、水道施設更新計画を平成29年度に策定します。また、長期的な視点から本村における適切な水道料金を研究します。（上下水道課）

水質保全

水質保全の意識啓発と、定期的な美化清掃などの保全活動を推進して、水環境や生態系を守ります。また、水源涵養の役割を果たし、土砂浸食などの災害を未然に防止している自然林の保全に努めるため、関係機関と協力・連携していきます。（上下水道課）

浄化センター長寿命化

平成30年度までの4年間を計画期間とした長寿命化計画（ストックマネジメント計画）に基づき、更新事業を実施します。また、平成32年度からの第2期長寿命化計画の策定を平成31年度に実施します。（上下水道課）

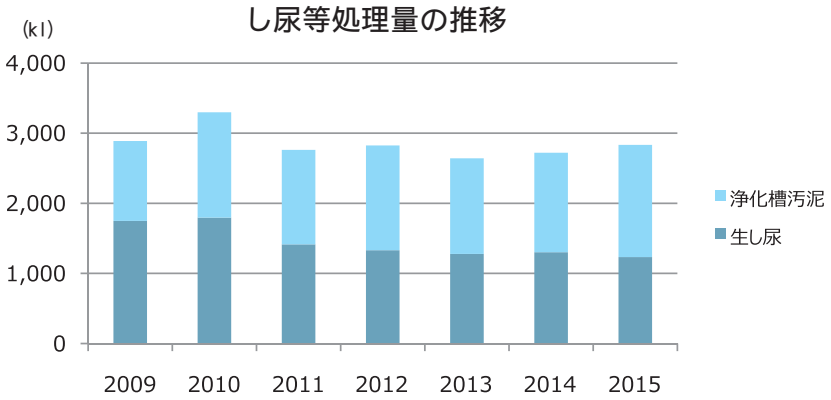
指　　標	現状値　(H26 2014)	目標値　(H32 2020)
機械・電気設備の更新	29%	100%

公営企業会計導入

国の方針である「下水道事業の公営企業会計適用」への対応を進めます。（上下水道課）

効率的なし尿処理方法の確立

現在、白馬山麓環境施設組合の処理施設「クリーンコスモ姫川」で行っているし尿処理について、今後処理量の減少や施設の老朽化による維持費用の増加が見込まれることから、より経済的で効率的な処理方法を研究し、新たなし尿処理方針を決定します。また、浄化槽の維持管理の適正化を促進して水質汚濁の防止を図ります。（住民課）



付 属 資 料

白 総 第 ３ ２ ２ 号
平成２７年８月２４日

白馬村計画審議会長　殿

白馬村長　下　川　正　剛

白馬村第５次総合計画並びに白馬村総合戦略の策定について（諮問）

白馬村第５次総合計画（計画期間：平成２８年度～平成３７年度）並びに白馬村総合戦略（計画期間：平成２７年度～平成３１年度）を策定したいので、白馬村計画審議会条例第２条の規定により、貴審議会の意見を求める。

平成２８年３月１５日

白馬村長　下川　正剛　様

白馬村計画審議会
会長　伊藤　公一

白馬村第５次総合計画基本構想の策定について（答申）

平成２７年８月２４日付け白総第３２２号で本審議会に諮問のあった、「白馬村第５次総合計画基本構想」の策定について、全９回の審議会を通じ審議を重ねた結果、別添白馬村第５次総合計画基本構想（案）のとおり答申します。

記

１　本構想は、白馬村の特色である人、文化、自然などの多様性を、本村のさらなる発展につなげることを基本理念としている。白馬に集う全ての者が、その能力や価値観を互いに尊重し、学び続け、支え合うことができれば、今後も激しく変化するであろう社会環境にも対応し、あらゆる分野で「豊かさ」にあふれた白馬村を実現できるものと考える。

１０年後に、誰もが「住んでよかった」「訪れてよかった」と実感できる、他に類を見ない素晴らしい村を創りあげるため、この基本理念を軸として、村政運営にあたっていただきたい。

２　本構想は、基本理念を実現するために「暮らし」「産業」「ひと」「自然」の視点から４つの基本目標を定めた。これは、住民からの意見聴取などから見えてきた、白馬村の抱える課題を中心に取りまとめ、施策の方向性を定めたものである。

平成２８年度からは、基本計画の策定に入る訳であるが、この基本目標が示す方向性に従い、時代と地域の特性に合った、効果的な施策の展開を期待する。また、基本計画の策定にあたっては、本構想の策定時と同じく、地域住民の声に積極的に耳を傾け、その意見等を反映するよう努力していただきたい。

白馬村計画審議会委員名簿

	区　分	役職名	氏　名	備考
1	教育委員	白馬村教育委員会委員	塩島　弘之	
2	教育委員	白馬村教育委員会委員	伊藤　公一	会　長
3	農業委員	白馬村農業委員会会長	松沢　正猛	
4	公共的団体の役職員	白馬村民生児童委員	矢口　　緑	
5	公共的団体の役職員	白馬商工会長	杉山　茂実	
6	公共的団体の役職員	白馬村体育協会会長	山岸　　忠	副会長
7	公共的団体の役職員	区長会会長	山岸　弘明	～H28. 3. 31
	公共的団体の役職員	区長会会長	平塚　茂雄	H28. 4. 1～
8	公共的団体の役職員	白馬村消防団団長	横山　義彦	～H28. 3. 31
	公共的団体の役職員	白馬村消防団団長	丸山　義行	H28. 4. 1～
9	学識経験者	まちづくり白馬友の会会長	松澤　悳也	
10	学識経験者	神城婦人会会長	田中みつる	
11	学識経験者	北城婦人会会長	眞島　宣子	
12	学識経験者	白馬村スキークラブ会長	太谷　陽一	
13	学識経験者	白馬村シニアクラブ会長	吉澤　豪俊	～H28. 3. 31
	学識経験者	白馬村シニアクラブ会長	下川　辰男	H28. 4. 1～
14	学識経験者	大北農協白馬支所長	内川　武文	
15	学識経験者	白馬村索道事業者協議会会長	駒谷　嘉宏	
16	学識経験者	白馬村観光局長	北村　興二	～H28. 5. 31
	学識経験者	白馬村観光局事務局長	福島洋次郎	H28. 6. 1～
17	学識経験者	白馬村ボランティア連絡協議会会長	太田　洋子	
18	学識経験者	特別養護老人ホーム白嶺所長	南沢　裕子	～H28. 3. 31
	学識経験者	特別養護老人ホーム白嶺所長	竹本登美子	H28. 4. 1～
19	学識経験者	白馬村金融団幹事長野銀行白馬支店長	宮島　賢次	
20	学識経験者	白馬村建設業組合長	塩島　　正	
21	学識経験者	観光地経営計画委員	ケビン　モラード	
22	一般公募	公募委員	宮脇　哲也	
23	一般公募	公募委員	藤田　直子	
24	一般公募	公募委員	冨山　正明	
25	一般公募	公募委員	髙田　愛史	

白馬村総合計画策定のための

村民アンケート

調査結果報告

目　次

調査の概要	2
調査結果集計	3
記述回答	40

平成27年6月

長野県白馬村

【調査の概要】

1　調査の目的

本調査は、白馬村民の村政に対する意識を把握し、第５次総合計画策定の際の基礎資料とし、白馬村の将来像に役立てることを目的とします。

2　調査項目

本調査は、次の事項について、意識、意向調査を実施します。

①　白馬村の施策に対する満足度と課題について
②　白馬村の将来像について
③　白馬村の開発規制について
④　地域活動や協働への参加について
⑤　防災対策について
⑥　その他、村に対する希望、意見等について

3　調査方法

①　調査対象　20歳以上の村民2,000人（男女各1,000人）を無作為抽出
②　郵送により調査票を配布、郵送により回収
③　調査期間　平成27年３月～４月
③　配布票数2,000／回収票数959／回収率48.0%

4　集計上の留意点

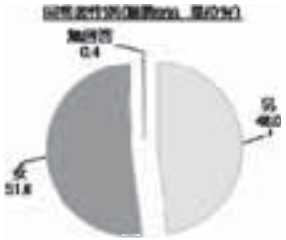
①　特に注記してない回答は単回答（1つに○）です。
②　複数回答については、（総数959、３つまで複数回答、単位%）などのように注記しました。
③　百分率（%）は小数点第二位を四捨五入して小数点第一位までを表記しました。したがって、単回答の設問では、百分率の合計が100にならないことがあります。
③　複数回答において、百分率の分母（%ベース）は回答者数としました。したがって、回答数の合計が回答者数を超えることがあります。また、百分率の合計が100を超えることがあります。

【調査結果集計】

Ⅰ　あなたご自身に関する質問

問1　あなたの性別は？

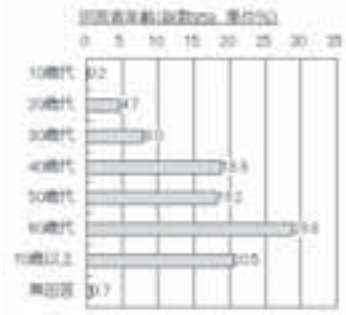
	回答数	割合（%）
男	460	48.0
女	495	51.6
無回答	4	0.4
回答者総数（%ベース）	959	100



○回答者総数959人の内訳は、男性48.0%（460人）、女性51.6%（495人）、「無回答」が0.4%（4人）です。

問2　あなたの年齢は？

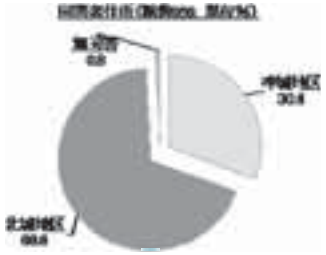
	回答数	割合（%）
10歳代	2	0.2
20歳代	45	4.7
30歳代	77	8.0
40歳代	180	18.8
50歳代	175	18.2
60歳代	276	28.8
70歳以上	197	20.5
無回答	7	0.7
回答者総数（%ベース）	959	100



○年齢別では、「60歳代」が28.8%（276人）と最も多く、次いで「70歳以上」20.5%（197人）、「40歳代」18.8%（180人）、「50歳代」18.2%（175人）です。

問3　あなたのお住まいは？

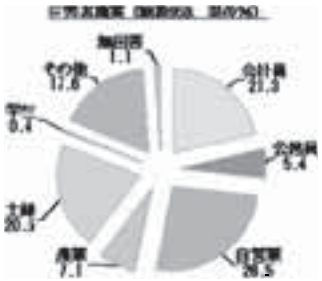
	回答数	割合（%）
神城地区	293	30.6
北城地区	658	68.6
無回答	8	0.8
回答者総数（%ベース）	959	100



○「北城地区」が68.6%（658人）、「神城地区」が30.6%（293人）です。

問4　あなたの職業は？（兼業の場合は主たる職業についてお答えください。）

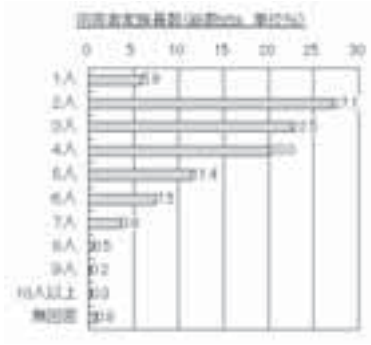
	回答数	割合（%）
会社員	204	21.3
公務員	52	5.4
自営業	254	26.5
農業	68	7.1
主婦	197	20.5
学生	4	0.4
その他	169	17.6
無回答	11	1.1
回答者総数（%ベース）	959	100



○「自営業」が26.5%（254人）と最も多く、次いで「会社員」21.3%（204人）、「主婦」20.5%（197人）などとなっています。

問5　あなたの家族は？　ご自身を含めて何人ですか？

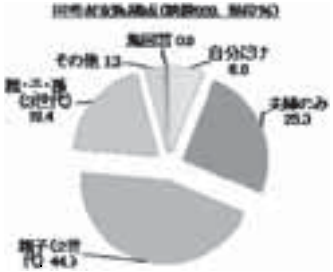
	回答数	割合（%）
1人	57	5.9
2人	260	27.1
3人	216	22.5
4人	192	20.0
5人	109	11.4
6人	72	7.5
7人	35	3.6
8人	5	0.5
9人	2	0.2
10人以上	3	0.3
無回答	8	0.8
回答者総数（%ベース）	959	100



○「2人」が27.1%（260人）と最も多く、次いで「3人」22.5%（216人）、「4人」20.0%（192人）などとなっています。

問6　家族構成は？

	回答数	割合（%）
自分だけ	58	6.0
夫婦のみ	243	25.3
親子（2世代）	431	44.9
親・子・孫（3世代）	186	19.4
その他	32	3.3
無回答	9	0.9
回答者総数（%ベース）	959	100



○「親子（2世代）」が44.9%（431人）と最も多く、次いで「夫婦のみ」25.3%（243人）、「親・子・孫（3世代）」19.4%（186人）などとなっています。「自分だけ」も6.0%（58人）見られます。

問7　あなたは白馬村にどのくらいお暮らしですか？（お住まいの経歴）

	回答数	割合（%）
白馬村に生まれて、ずっと住んでいる	248	25.9
白馬村に生まれたが、5年以上の期間、村外に住んでいたことがある	143	14.9
白馬村以外で生まれて、白馬村に転入してきた	559	58.3
無回答	9	0.9
回答者総数（%ベース）	959	100

○「白馬村以外で生まれて、白馬村に転入してきた」とする人が58.3%（559人）と半数を超えています。「白馬村に生まれて、ずっと住んでいる」人が25.9%（248人）、「白馬村に生まれたが、5年以上の期間、村外に住んでいたことがある」人が14.9%（143人）です。

問8　転入された方は、白馬村に住んで何年になりますか？（累計で結構です）

	回答数	割合（%）
0～4年	36	6.4
5～9年	54	9.7
10～19年	124	22.2
20年以上	343	61.4
無回答	2	0.4
回答者総数（%ベース）	559	100

○転入者のうち、「20年以上」居住している人が61.4%（343人）と半数を超え、次いで「10～19年」が22.2%（124人）、「5～9年」が9.7%（54人）となっています。

Ⅱ　現在の白馬村の住みごこち

問9　あなたが感じている白馬村の「満足度」についてお答えください。各項目について、該当する番号を1つずつ選んでください。

分野	項目	満足度（上段：回答数／下段：割合（%））					
		不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	満足	無回答
環境保全	ア. 自然環境や景観の保全	68	156	266	339	121	9
	（総数959）	7.1	16.3	27.7	35.3	12.6	0.9
	イ. 美化運動の推進	61	214	424	214	34	12
	（総数959）	6.4	22.3	44.2	22.3	3.5	1.3
	ウ. 環境浄化対策（屋外広告、案内板、自販機設置規制等）	75	190	443	197	39	15
	（総数959）	7.8	19.8	46.2	20.5	4.1	1.6
	エ. 緑化事業の推進	63	175	510	159	35	17
	（総数959）	6.6	18.2	53.2	16.6	3.6	1.8
	オ. 青少年への自然保護教室	73	202	543	99	20	22
	（総数959）	7.6	21.1	56.6	10.3	2.1	2.3
	カ. 里山の保全	91	248	426	150	28	16
	（総数959）	9.5	25.9	44.4	15.6	2.9	1.7
	キ. 地球温暖化対策	97	222	521	78	16	25
	（総数959）	10.1	23.1	54.3	8.1	1.7	2.6

○満足度高い「自然環境や景観の保全」

全体として、「どちらともいえない」が40～50%台を占め、これに「やや不満」が20%台で続いています。これに対し、「ア. 自然環境や景観の保全」では、「やや満足」35.3%（339人）が最も多く、これに「どちらともいえない」が27.7%（266人）と続き、「満足」も12.6%（121人）と比較的高い値を示しています。また、「ウ. 環境浄化対策（屋外広告、案内板、自販機設置規制等）」は、「どちらともいえない」が46.2%（443人）で最も多く、「やや満足」が20.5%（197人）でこれに次ぎ、ともに全体として満足度が高いことが分かります。

年代別●「ア. 自然環境や景観の保全」に対する満足度

上段:回答数 下段: %	合計	不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	満足	無回答
全体	959	68	156	266	339	121	9
	100.0	7.1	16.3	27.7	35.3	12.6	0.9
10歳代	2	−	2	−	−	−	−
	100.0	−	100.0	−	−	−	−
20歳代	45	−	7	9	21	8	−
	100.0	−	15.6	20.0	46.7	17.8	−
30歳代	77	6	9	23	24	15	−
	100.0	7.8	11.7	29.9	31.2	19.5	−
40歳代	180	10	28	54	59	29	−
	100.0	5.6	15.6	30.0	32.8	16.1	−
50歳代	175	14	31	45	68	17	−
	100.0	8.0	17.7	25.7	38.9	9.7	−
60歳代	276	24	45	79	99	26	3
	100.0	8.7	16.3	28.6	35.9	9.4	1.1
70歳以上	197	13	33	55	67	25	4
	100.0	6.6	16.8	27.9	34.0	12.7	2.0
無回答	7	1	1	1	1	1	2
	100.0	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6

○「20歳代」で特に高い「ア. 自然環境や景観の保全」に対する満足度

「ア. 自然環境や景観の保全」に対する満足度を年代別に見ると、いずれも「やや満足」が30～40%台ですが、特に「20歳代」が46.7%（21人）と高く、さらに「やや満足」と「満足」を合わせると64.5%（29人）で、20歳代の半数を超える人が満足と答えています。

分野	項目	満足度（上段:回答数／下段:割合（%））					
		不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	満足	無回答
基盤整備・生活環境	ク. 身近な生活道路の整備	187	288	221	219	29	15
	（総数959）	19.5	30.0	23.0	22.8	3.0	1.6
	ケ. 下水道の整備	93	129	325	270	131	11
	（総数959）	9.7	13.5	33.9	28.2	13.7	1.1
	コ. 河川環境の整備	71	171	398	250	55	14
	（総数959）	7.4	17.8	41.5	26.1	5.7	1.5
	サ. 除雪・融雪など雪対策の充実	88	179	227	343	111	11
	（総数959）	9.2	18.7	23.7	35.8	11.6	1.1
	シ. 消防・防災対策の充実	42	117	391	329	67	13
	（総数959）	4.4	12.2	40.8	34.3	7.0	1.4
	ス. 防犯灯など防犯対策	89	236	366	214	44	10
	（総数959）	9.3	24.6	38.2	22.3	4.6	1.0
	セ. ごみの分別、リサイクル活動の推進	71	201	358	261	53	15
	（総数959）	7.4	21.0	37.3	27.2	5.5	1.6

○「ク. 身近な生活道路の整備」で高い不満度

全体的に「どちらともいえない」が30～40%台で最も多くなっていますが、「ク. 身近な生活道路の整備」では「やや不満」が30.0%（288人）と最も高く、また「サ. 除雪・融雪など雪対策の充実」では「やや満足」が35.8%（343人）と最も高くなっています。

地域別●「ク. 身近な生活道路の整備」に対する満足度

上段:回答数 下段: %	合計	不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	満足	無回答
全体	959	187	288	221	219	29	15
	100.0	19.5	30.0	23.0	22.8	3.0	1.6
神城地区	293	57	89	64	67	13	3
	100.0	19.5	30.4	21.8	22.9	4.4	1.0
北城地区	658	129	196	156	150	16	11
	100.0	19.6	29.8	23.7	22.8	2.4	1.7
無回答	8	1	3	1	2	−	1
	100.0	12.5	37.5	12.5	25.0	−	12.5

○いずれの地区も「身近な生活道路の整備」に対する満足度は低い

「ク. 身近な生活道路の整備」について地区別に見ると、神城地区で30.4%（89人）、北城地区で29.8%（196人）がともに「やや不満」と答えており、これらに「不満」を合わせると、地区を問わずともに約半数の人が不満としています。

分野	項目	満足度（上段：回答数／下段：割合（%））					
		不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	満足	無回答
健康・福祉・医療	ソ．高齢者のための施設や制度の充実	102	230	421	165	28	13
	（総数959）	10.6	24.0	43.9	17.2	2.9	1.4
	タ．障がいのある方のための施設や制度の充実	95	245	515	78	12	14
	（総数959）	9.9	25.5	53.7	8.1	1.3	1.5
	チ．子育て支援制度や施設の充実	77	189	496	151	28	18
	（総数959）	8.0	19.7	51.7	15.7	2.9	1.9
	ツ．保健・医療体制や施設の充実	96	269	402	159	22	11
	（総数959）	10.0	28.1	41.9	16.6	2.3	1.1
	テ．ボランティア活動の支援	39	149	614	115	24	18
	（総数959）	4.1	15.5	64.0	12.0	2.5	1.9
	ト．健康づくり制度	40	112	573	193	26	15
	（総数959）	4.2	117.0	59.7	20.1	2.7	1.6
	ナ．バリアフリー化	105	268	499	52	15	20
	（総数959）	10.9	27.9	52.0	5.4	1.6	2.1

○「健康づくり制度」で高い満足度

全体的に「どちらともいえない」が40～60%台、「やや不満」が20%台を占めていますが、このうち、「やや不満」の割合が高いのは「ツ．保健・医療体制や施設の充実」28.1%（269人）、「ナ．バリアフリー化」27.9%（268人）などです。一方、「ト．健康づくり制度」では20.1%（193人）が「やや満足」と答えています。

男女別●「健康づくり制度」に対する満足度

上段：回答数 下段：　　%	合計	不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	満足	無回答
全体	959	40	112	573	193	26	15
	100.0	4.2	11.7	59.7	20.1	2.7	1.6
男	460	14	58	282	86	13	7
	100.0	3.0	12.6	61.3	18.7	2.8	1.5
女	495	26	54	289	106	13	7
	100.0	5.3	10.9	58.4	21.4	2.6	1.4
無回答	4	－	－	2	1	－	1
	100.0	－	－	50.0	25.0	－	25.0

○女性で高い「健康づくり制度」に対する満足度

「健康づくり制度」に対する満足度を男女別で見ると、ともに「どちらともいえない」が60%前後と高くなっていますが、「やや満足」と答えた人は女性で21.4%（106人）、男性で18.7%（86人）と、評価に幾分差のあることが分かります。

年代別●「健康づくり制度」に対する満足度

上段：回答数 下段：　　%	合計	不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	満足	無回答
全体	959	40	112	573	193	26	15
	100.0	4.2	11.7	59.7	20.1	2.7	1.6
10歳代	2	－	1	1	－	－	－
	100.0	－	50.0	50.0	－	－	－
20歳代	45	1	－	32	10	2	－
	100.0	2.2	－	71.1	22.2	4.4	－
30歳代	77	6	8	41	16	5	1
	100.0	7.8	10.4	53.2	20.8	6.5	1.3
40歳代	180	5	22	112	36	4	1
	100.0	2.8	12.2	62.2	20.0	2.2	0.6
50歳代	175	7	21	113	30	4	－
	100.0	4.0	12.0	64.6	17.1	2.3	－
60歳代	276	16	34	164	51	7	4
	100.0	5.8	12.3	59.4	18.5	2.5	1.4
70歳以上	197	5	26	108	47	4	7
	100.0	2.5	13.2	54.8	23.9	2.0	3.6
無回答	7	－	－	2	3	－	2
	100.0	－	－	28.6	42.9	－	28.6

○「70歳代以上」で満足度が高い「健康づくり制度」

「健康づくり制度」に対する満足度を年代別に見ると、いずれも「どちらともいえない」が60%前後と最も高くなっていますが、「やや満足」では、「70歳以上」が23.9%（47人）、これに対し「50歳代」17.1%（30人）、「60歳代」18.5%（51人）と60歳代以上の層で評価にやや差が見られます。

分野	項目	満足度（上段：回答数／下段：割合（%））					
		不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	満足	無回答
教育・文化	ニ．義務教育の教育環境の充実	44	107	525	227	35	21
	（総数959）	4.6	11.2	54.7	23.7	3.6	2.2
	ヌ．生涯学習を支援する制度や施設の充実	52	198	521	147	17	24
	（総数959）	5.4	20.6	54.3	15.3	1.8	2.5
	ネ．スポーツ活動を支援する制度や施設の充実	68	199	424	218	30	20
	（総数959）	7.1	20.8	44.2	22.7	3.1	2.1
	ノ．文化活動、地域活動への支援	51	179	547	142	20	20
	（総数959）	5.3	18.7	57.0	14.8	2.1	2.1
	ハ．文化財の保護や保存	44	151	594	122	28	20
	（総数959）	4.6	15.7	61.9	12.7	2.9	2.1
	ヒ．家庭や地域内での子どもへの教育	49	171	585	110	21	23
	（総数959）	5.1	17.8	61.0	11.5	2.2	2.4

○「スポーツ活動を支援する制度や施設の充実」では評価が分かれる

全体的に「どちらともいえない」が半数を超えていますが、「やや満足」では「ニ．義務教育の教育環境の充実」が23.7%（227人）と高い半面、特に「ヌ．生涯学習を支援する制度や施設の充実」で「やや不満」が20.6%（198人）と高く、また、「ネ．スポーツ活動を支援する制度や施設の充実」では、「どちらともいえない」が44.2%（424人）が比較的低い半面、「やや満足」が22.7%（218人）、「やや不満」が20.8%（199人）と評価が大きく分かれる結果となっています。

男女別●「ヌ．生涯学習を支援する制度や施設の充実」に対する満足度

上段：回答数 下段：　　%	合計	不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	満足	無回答
全体	959	52	198	521	147	17	24
	100.0	5.4	20.6	54.3	15.3	1.8	2.5
男	460	23	113	229	76	9	10
	100.0	5.0	24.6	49.8	16.5	2.0	2.2
女	495	28	84	292	70	8	13
	100.0	5.7	17.0	59.0	14.1	1.6	2.6
無回答	4	1	1	－	1	－	1
	100.0	25.0	25.0	－	25.0	－	25.0

○男性に高い「生涯学習を支援する制度や施設の充実」に対する不満度

「ヌ．生涯学習を支援する制度や施設の充実」に対する満足度を男女別に見ると、特に男性において「やや不満」が24.6%（113人）と高くなっています。

男女別●「ネ．スポーツ活動を支援する制度や施設の充実」に対する満足度

上段：回答数 下段：　　%	合計	不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	満足	無回答
全体	959	68	199	424	218	30	20
	100.0	7.1	20.8	44.2	22.7	3.1	2.1
男	460	31	105	178	121	15	10
	100.0	6.7	22.8	38.7	26.3	3.3	2.2
女	495	37	94	245	95	15	9
	100.0	7.5	19.0	49.5	19.2	3.0	1.8
無回答	4	－	－	1	2	－	1
	100.0	－	－	25.0	50.0	－	25.0

○評価が分かれる「スポーツ活動を支援する制度や施設の充実」

「ネ．スポーツ活動を支援する制度や施設の充実」に対する満足度を男女別に見ると、特に男性では「どちらともいえない」が38.7%（178人）と女性より低く、これに対し「やや満足」が26.3%（121人）、「やや不満」が22.8%（105人）と評価が大きく分かれています。

分野	項目	満足度（上段：回答数／下段：割合（%））					
		不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	満足	無回答
産業・観光	フ．特産品開発と生産振興	133	305	381	110	13	17
	（総数959）	13.9	31.8	39.7	11.5	1.4	1.8
	ヘ．観光産業の振興	133	274	378	137	15	22
	（総数959）	13.9	28.6	39.4	14.3	1.6	2.3
	ホ．観光・レクリエーション等の拠点整備	150	297	370	110	11	21
	（総数959）	15.6	31.0	38.6	11.5	1.1	2.2
	マ．観光宣伝活動	114	223	427	153	22	20
	（総数959）	11.9	23.3	44.5	16.0	2.3	2.1
	ミ．インバウンド対策	61	167	555	120	21	35
	（総数959）	6.4	17.4	57.9	12.5	2.2	3.6
	ム．各種イベントの開催	80	169	520	145	24	21
	（総数959）	8.3	17.6	54.2	15.1	2.5	2.2

○不満度が高い「特産品開発と生産振興」と「観光・レクリエーション等の拠点整備」

全体的に「どちらともいえない」が40～50%を占め、これに「やや不満」が続いていますが、特に不満度が高いのが「フ．特産品開発と生産振興」と「ホ．観光・レクリエーション等の拠点整備」です。いずれも「不満」「やや不満」を合わせると約46%になります。同様に「観光産業の振興」も不満が40%を超えます。

分野	項目	満足度（上段：回答数／下段：割合（%））					
		不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	満足	無回答
行政・住民参加	メ. 男女が平等に参加できる社会づくり	54	159	560	136	27	23
	（総数959）	5.6	16.6	58.4	14.2	2.8	2.4
	モ. 情報化への対応	80	246	497	101	12	23
	（総数959）	8.3	25.7	51.8	10.5	1.3	2.4
	ヤ. 住民参加によるまちづくりの推進	74	238	533	80	11	23
	（総数959）	7.7	24.8	55.6	8.3	1.1	2.4
	ユ. 情報公開の推進	95	210	537	82	13	22
	（総数959）	9.9	21.9	56.0	8.6	1.4	2.3
	ヨ. 地区に対する支援制度	84	234	507	101	13	20
	（総数959）	8.8	24.4	52.9	10.5	1.4	2.1

○「情報化への対応」で不満度が高い

いずれも「どちらともいえない」が50%台で、これに「やや不満」が続いています。このうち、「不満」「やや不満」を合わせた割合が最も高いのが、「モ. 情報化への対応」34%（326人）です。

年代別●「モ. 情報化への対応」に対する満足度

上段：回答数 下段：　　%	合計	不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	満足	無回答
全体	959	80	246	497	101	12	23
	100.0	8.3	25.7	51.8	10.5	1.3	2.4
10歳代	2	−	1	1	−	−	−
	100.0	−	50.0	50.0	−	−	−
20歳代	45	2	15	16	11	1	−
	100.0	4.4	33.3	35.6	24.4	2.2	−
30歳代	77	7	31	34	2	3	−
	100.0	9.1	40.3	44.2	2.6	3.9	−
40歳代	180	20	51	83	22	3	1
	100.0	11.1	28.3	46.1	12.2	1.7	0.6
50歳代	175	12	41	98	22	2	−
	100.0	6.9	23.4	56.0	12.6	1.1	−
60歳代	276	25	67	152	22	2	8
	100.0	9.1	24.3	55.1	8.0	0.7	2.9
70歳以上	197	13	39	111	21	1	12
	100.0	6.6	19.8	56.3	10.7	0.5	6.1
無回答	7	1	1	2	1	−	2
	100.0	14.3	14.3	28.6	14.3	−	28.6

○30歳代が「情報化への対応」に大いに不満

「モ. 情報化への対応」に対する満足度を年代別に見ると、「30歳代」が「不満」「やや不満」合わせて49.4%（38人）と飛び抜けて高くなっています。

Ⅲ　白馬村の開発規制について

問10　白馬村は、自然環境や景観が村の財産であるという考えから、開発のルールや建築物・屋外広告物のルールを他の地域より厳しい内容で定めています。この村の環境行政についてどのように感じていますか？（該当するもの1つ）

	回答数	割合（%）
まだまだ甘く、さらに厳しい規制ルールが必要だと思う	293	30.6
環境の保全には適切な内容であるので、現状のとおりでよい	391	40.8
少し窮屈に感じており、部分的には緩和してよい	128	13.3
厳しすぎるので、大幅に緩和して、できるだけ開発を促したほうがよい	31	3.2
わからない	108	11.3
無回答	8	0.8
回答者総数（%ベース）	959	100

○「環境の保全には適切な内容であるので、現状のとおりでよい」が40.8%（391人）と最も多く、次いで、「まだまだ甘く、さらに厳しい規制ルールが必要だと思う」30.6%（293人）、「少し窮屈に感じており、部分的には緩和してよい」13.3%（128人）などとなっています。これに対し、「厳しすぎるので、大幅に緩和して、できるだけ開発を促したほうがよい」は3.2%（31人）と少数です。

男女別●村の環境行政に対して感じること

上段：回答数 下段：　　%	合計	まだまだ甘く、さらに厳しい規制ルールが必要だと思う	環境の保全には適切な内容であるので、現状のとおりでよい	少し窮屈に感じており、部分的には緩和してよい	厳しすぎるので、大幅に緩和して、できるだけ開発を促したほうがよい	わからない	無回答
全体	959	293	391	128	31	108	8
	100.0	30.6	40.8	13.3	3.2	11.3	0.8
男	460	145	181	70	23	36	5
	100.0	31.5	39.3	15.2	5.0	7.8	1.1
女	495	146	208	58	8	72	3
	100.0	29.5	42.0	11.7	1.6	14.5	0.6
無回答	4	2	2	−	−	−	−
	100.0	50.0	50.0	−	−	−	−

○部分的緩和あるいは大幅緩和を求める声は、男性が女性を上回る

男女別では、「少し窮屈に感じており、部分的には緩和してよい」で男性15.2%（70人）、「厳しすぎるので、大幅に緩和して、できるだけ開発を促したほうがよい」で男性5.0%（23人）と、いずれも女性を上回っている。

年代別●村の環境行政に対して感じること

上段：回答数 下段：　　％	合計	まだまだ甘く、さらに厳しい規制ルールが必要だと思う	環境の保全には適切な内容であるので、現状のとおりでよい	少し窮屈に感じており、部分的には緩和してよい	厳しすぎるので、大幅に緩和して、できるだけ開発を促したほうがよい	わからない	無回答
全体	959	293	391	128	31	108	8
	100.0	30.6	40.8	13.3	3.2	11.3	0.8
10歳代	2	2	－	－	－	－	－
	100.0	100.0	－	－	－	－	－
20歳代	45	5	28	6	－	6	－
	100.0	11.1	62.2	13.3	－	13.3	－
30歳代	77	20	29	10	6	12	－
	100.0	26.0	37.7	13.0	7.8	15.6	－
40歳代	180	51	80	30	5	13	1
	100.0	28.3	44.4	16.7	2.8	7.2	0.6
50歳代	175	47	70	31	7	19	1
	100.0	26.9	40.0	17.7	4.0	10.9	0.6
60歳代	276	101	101	32	9	30	3
	100.0	36.6	36.6	11.6	3.3	10.9	1.1
70歳以上	197	65	79	19	4	28	2
	100.0	33.0	40.1	9.6	2.0	14.2	1.0
無回答	7	2	4	－	－	－	1
	100.0	28.6	57.1	－	－	－	14.3

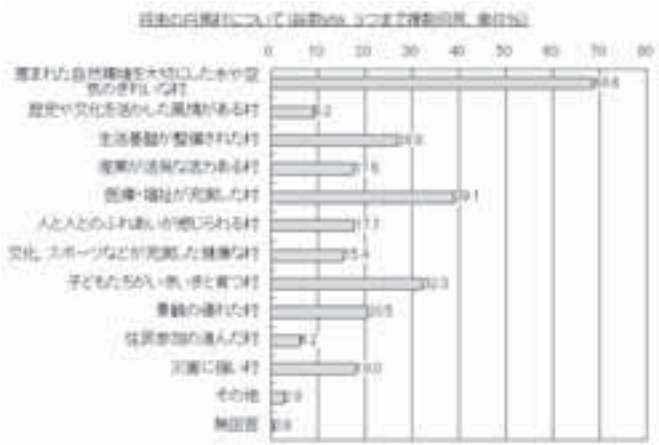
○「20歳代」で60％以上が「現状のとおりでよい」、60歳代以上で「もっと厳しく」

「環境の保全には適切な内容であるので、現状のとおりでよい」がほとんどの年代で30～40％を占め、これに「まだまだ甘く、さらに厳しい規制ルールが必要だと思う」が20～30％台で続いているが、「20歳代」のみ、「環境の保全には適切な内容であるので、現状のとおりでよい」が60％以上の高率を示しています。また、60歳代以上で、「まだまだ甘く、さらに厳しい規制ルールが必要だと思う」割合が高くなっています。

Ⅳ　これからのむらづくりについて

問11　あなたが望む将来の白馬村は、どのような村ですか？（該当するもの3つまで）

	回答数	割合（％）
恵まれた自然環境を大切にした水や空気のきれいな村	658	68.6
歴史や文化を活かした風情がある村	88	9.2
生活基盤が整備された村	258	26.9
産業が活発な活力ある村	169	17.6
医療・福祉が充実した村	375	39.1
人と人とのふれあいが感じられる村	170	17.7
文化、スポーツなどが充実した健康な村	148	15.4
子どもたちがいきいきと育つ村	310	32.3
景観の優れた村	197	20.5
住民参加の進んだ村	59	6.2
災害に強い村	173	18.0
その他	27	2.8
無回答	6	0.6
回答者総数（％ベース）	959	100



○圧倒的に「恵まれた自然環境を大切にした水や空気のきれいな村」

「恵まれた自然環境を大切にした水や空気のきれいな村」が圧倒的に高く68.6％（658人）、これに「医療・福祉が充実した村」39.1％（375人）、「子どもたちがいきいきと育つ村」32.3％（310人）、「生活基盤が整備された村」26.9％（258人）などが続いています。

男女別●あなたが望む白馬村の将来像

上段:回答数 下段:　　%	合計	恵まれた自然環境を大切にした水や空気のきれいな村	歴史や文化を活かした風情がある村	生活基盤が整備された村	産業が活発な活力ある村	医療・福祉が充実した村	人と人とのふれあいが感じられる村
全体	959	658	88	258	169	375	170
	100.0	68.6	9.2	26.9	17.6	39.1	17.7
男	460	304	48	112	93	162	77
	100.0	66.1	10.4	24.3	20.2	35.2	16.7
女	495	351	40	145	75	211	92
	100.0	70.9	8.1	29.3	15.2	42.6	18.6
無回答	4	3	−	1	1	2	1
	100.0	75.0	−	25.0	25.0	50.0	25.0

上段:回答数 下段:　　%	文化、スポーツなどが充実した健康な村	子どもたちがいきいきと育つ村	景観の優れた村	住民参加の進んだ村	災害に強い村	その他	無回答
全体	148	310	197	59	173	27	6
	15.4	32.3	20.5	6.2	18.0	2.8	0.6
男	88	134	102	28	72	12	4
	19.1	29.1	22.2	6.1	15.7	2.6	0.9
女	60	174	95	30	100	15	2
	12.1	35.2	19.2	6.1	20.2	3.0	0.4
無回答	−	2	−	1	1	−	−
	−	50.0	−	25.0	25.0	−	−

○自然環境・医療福祉・生活基盤などで女性が男性を上回る

上位の「恵まれた自然環境を大切にした水や空気のきれいな村」「医療・福祉が充実した村」「生活基盤が整備された村」いずれにおいても女性が男性を上回っています。男性の意見で女性を上回っているのは「産業が活発な活力ある村」「文化、スポーツなどが充実した健康な村」などです。

○40歳代以下と50歳代以上とで意識に大きな差（次ページ表）

年代別に見ると、「恵まれた自然環境を大切にした水や空気のきれいな村」「医療・福祉が充実した村」は「50歳代」「60歳代」「70歳以上」で高く、「生活基盤が整備された村」は「20歳代」「30歳代」「40歳代」で高くなっています。また、「子どもたちがいきいきと育つ村」は、「20歳代」「30歳代」「40歳代」で40%以上と高く、50歳代以上との意識の差が大きくなっています。

年代別●あなたが望む白馬村の将来像

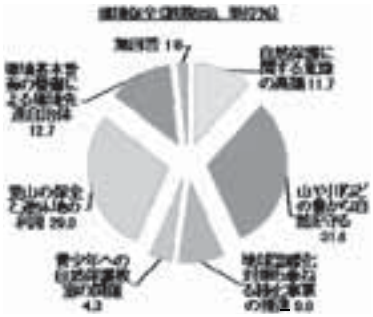
上段:回答数 下段:　　%	合計	恵まれた自然環境を大切にした水や空気のきれいな村	歴史や文化を活かした風情がある村	生活基盤が整備された村	産業が活発な活力ある村	医療・福祉が充実した村	人と人とのふれあいが感じられる村
全体	959	658	88	258	169	375	170
	100.0	68.6	9.2	26.9	17.6	39.1	17.7
10歳代	2	2	1	−	−	−	−
	100.0	100.0	50.0	−	−	−	−
20歳代	45	31	2	15	9	9	6
	100.0	68.9	4.4	33.3	20.0	20.0	13.3
30歳代	77	51	9	24	18	25	9
	100.0	66.2	11.7	31.2	23.4	32.5	11.7
40歳代	180	112	19	61	38	54	24
	100.0	62.2	10.6	33.9	21.1	30.0	13.3
50歳代	175	127	9	45	36	73	33
	100.0	72.6	5.1	25.7	20.6	41.7	18.9
60歳代	276	191	25	72	45	129	60
	100.0	69.2	9.1	26.1	16.3	46.7	21.7
70歳以上	197	139	23	40	22	82	37
	100.0	70.6	11.7	20.3	11.2	41.6	18.8
無回答	7	5	−	1	1	3	1
	100.0	71.4	−	14.3	14.3	42.9	14.3

上段:回答数 下段:　　%	文化、スポーツなどが充実した健康な村	子どもたちがいきいきと育つ村	景観の優れた村	住民参加の進んだ村	災害に強い村	その他	無回答
全体	148	310	197	59	173	27	6
	15.4	32.3	20.5	6.2	18.0	2.8	0.6
10歳代	2	−	1	−	−	−	−
	100.0	−	50.0	−	−	−	−
20歳代	14	18	14	3	7	1	−
	31.1	40.0	31.1	6.7	15.6	2.2	−
30歳代	14	37	15	−	10	4	−
	18.2	48.1	19.5	−	13.0	5.2	−
40歳代	31	82	38	11	23	8	1
	17.2	45.6	21.1	6.1	12.8	4.4	0.6
50歳代	36	48	38	12	32	4	3
	20.6	27.4	21.7	6.9	18.3	2.3	1.7
60歳代	30	79	60	13	55	6	1
	10.9	28.6	21.7	4.7	19.9	2.2	0.4
70歳以上	21	44	31	19	44	4	−
	10.7	22.3	15.7	9.6	22.3	2.0	−
無回答	−	2	−	1	2	−	1
	−	28.6	−	14.3	28.6	−	14.3

問12　あなたが望む白馬村となるためには、どのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか？

[環境保全]

	回答数	割合(%)
自然保護に関する意識の高揚	112	11.7
山や川などの豊かな自然を守る	303	31.6
地球温暖化対策も兼ねる緑化事業の推進	86	9.0
青少年への自然保護教室の開催	41	4.3
里山の保全と遊休地の利用	278	29.0
環境基本計画の整備による環境先進自治体	122	12.7
無回答	17	1.8
回答者総数(%ベース)	959	100

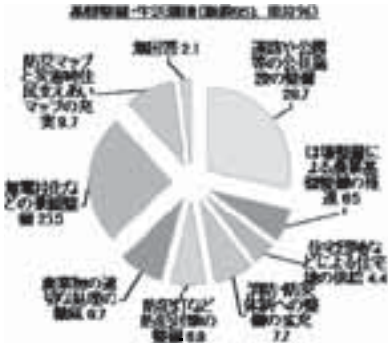


○豊かな自然を守り、かつ、遊休地を利用

「山や川などの豊かな自然を守る」が31.6%(303人)と「里山の保全と遊休地の利用」29.0%(278人)が拮抗し、これらに「環境基本計画の整備による環境先進自治体」12.7%(122人)、「自然保護に関する意識の高揚」11.7%(112人)などが続いています。

[基盤整備・生活環境]

	回答数	割合(%)
道路や公園等の公共施設の整備	275	28.7
ほ場整備による農業基盤整備の推進	62	6.5
住宅団地などによる住宅地の供給	42	4.4
消防・防災体制への整備の拡充	74	7.7
防犯灯など防犯対策の整備	65	6.8
廃棄物の適切な処理の徹底	83	8.7
無電柱化などの景観整備	245	25.5
防災マップと災害時住民支えあいマップの充実	93	9.7
無回答	20	2.1
回答者総数(%ベース)	959	100

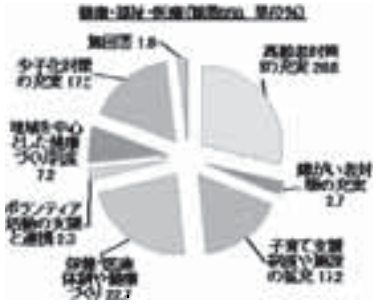


○道路・公園など公共施設の整備と景観整備

「道路や公園等の公共施設の整備」が28.7%(275人)と最も多く、次いで「無電柱化などの景観整備」25.5%(245人)、「防災マップと災害時住民支えあいマップの充実」9.7%(93人)などが続いています。

[健康・福祉・医療]

	回答数	割合(%)
高齢者対策の充実	274	28.6
障がい者対策の充実	26	2.7
子育て支援制度や施設の拡充	165	17.2
保健・医療体制や健康づくり	218	22.7
ボランティア活動の支援と連携	22	2.3
地域を中心とした健康づくり制度	69	7.2
少子化対策の充実	168	17.5
無回答	17	1.8
回答者総数(%ベース)	959	100

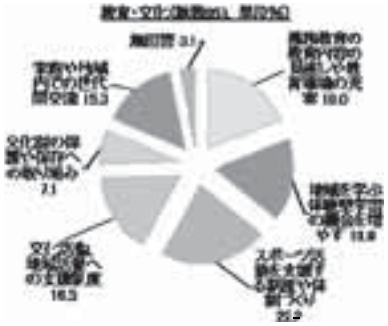


○高齢者対策と少子化対策・子育て支援

「高齢者対策の充実」が28.6%(274人)と最も多く、これに「保健・医療体制や健康づくり」22.7%(218人)、「少子化対策の充実」17.5%(168人)、「子育て支援制度や施設の拡充」17.2%(165人)などが続いています。

[教育・文化]

	回答数	割合(%)
義務教育の教育内容の見直しや教育環境の充実	182	19.0
地域を学ぶ体験型学習の機会を増やす	161	16.8
スポーツ活動を支援する制度や体制づくり	213	22.2
文化活動、地域活動への支援制度	158	16.5
文化財の保護や保存への取り組み	68	7.1
家庭や地域内での世代間交流	147	15.3
無回答	30	3.1
回答者総数(%ベース)	959	100



○全体に意見・要望が分散

全体に意見・要望が分散しています。「スポーツ活動を支援する制度や体制づくり」22.2%(213人)、「義務教育の教育内容の見直しや教育環境の充実」19.0%(182人)、「地域を学ぶ体験型学習の機会を増やす」16.8%(161人)、「文化活動、地域活動への支援制度」16.5%(158人)などが上位にあります。

年代別●特に力を入れたい分野[健康・福祉・医療]

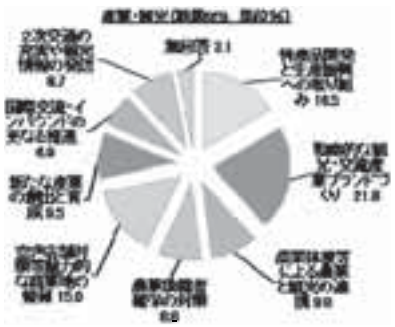
上段:回答数 下段:　　%	合計	高齢者対策の充実	障がい者対策の充実	子育て支援制度や施設の拡充	保健・医療体制や健康づくり	ボランティア活動の支援と連携	地域を中心とした健康づくり制度	少子化対策の充実	無回答
全体	959	274	26	165	218	22	69	168	17
	100.0	28.6	2.7	17.2	22.7	2.3	7.2	17.5	1.8
10歳代	2	−	−	−	−	−	1	1	−
	100.0	−	−	−	−	−	50.0	50.0	−
20歳代	45	7	2	16	5	−	5	10	−
	100.0	15.6	4.4	35.6	11.1	−	11.1	22.2	−
30歳代	77	11	4	30	12	1	3	16	−
	100.0	14.3	5.2	39.0	15.6	1.3	3.9	20.8	−
40歳代	180	37	5	47	42	1	7	40	1
	100.0	20.6	2.8	26.1	23.3	0.6	3.9	22.2	0.6
50歳代	175	55	5	22	57	3	10	21	2
	100.0	31.4	2.9	12.6	32.6	1.7	5.7	12.0	1.1
60歳代	276	98	7	31	59	12	17	48	4
	100.0	35.5	2.5	11.2	21.4	4.3	6.2	17.4	1.4
70歳以上	197	64	3	18	43	5	26	32	6
	100.0	32.5	1.5	9.1	21.8	2.5	13.2	16.2	3.0
無回答	7	2	−	1	−	−	−	−	4
	100.0	28.6	−	14.3	−	−	−	−	57.1

○高齢者対策か子育て支援か、年代により大きく分かれる要望・意見

年代により要望・意見が大きく分かれているのが特徴です。20歳代から40歳代では「子育て支援制度や施設の拡充」と「少子化対策」が最も多く、50歳代以上では「高齢者対策の充実」と「保健・医療体制や健康づくり」が多くなっています。

[産業・観光]

	回答数	割合(%)
特産品開発と生産振興への取り組み	158	16.5
戦略的な観光・交流産業ブランドづくり	209	21.8
農業体験等による農業と観光の連携	94	9.8
農業後継者確保の対策	84	8.8
空き店舗対策等魅力的な商業地の整備	144	15.0
新たな産業の創出と育成	91	9.5
国際交流・インバウンドの更なる推進	66	6.9
2次交通の充実や観光情報の発信	83	8.7
無回答	30	3.1
回答者総数(%ベース)	959	100

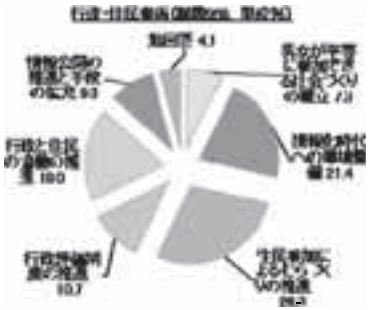


○戦略的なブランドづくりと特産品開発が重要

「戦略的な観光・交流産業ブランドづくり」が21.8%(209人)が最も多く、次いで「特産品開発と生産振興への取り組み」16.5%(158人)、「空き店舗対策等魅力的な商業地の整備」15.0%(144人)と続いています。

[行政・住民参画]

	回答数	割合(%)
男女が平等に参加できる社会づくりの確立	70	7.3
情報化時代への環境整備	205	21.4
住民参加によるむらづくりの推進	271	28.3
行政評価制度の推進	103	10.7
行政と住民の協働の推進	182	19.0
情報公開の推進と手段の拡充	89	9.3
無回答	39	4.1
回答者総数(%ベース)	959	100



○住民参加によるむらづくりを推進

「住民参加によるむらづくりの推進」が28.3%(271人)と最も多く、次いで「情報化時代への環境整備」21.4%(205人)、「行政と住民の協働の推進」19.0%(182人)と続いています。

年代別●特に力を入れたい分野[産業・観光]

上段:回答数 下段:　　%	合計	特産品開発と生産振興への取り組み	戦略的な観光・交流産業ブランドづくり	農業体験等による農業と観光の連携	農業後継者確保の対策	空き店舗対策等魅力的な商業地の整備	新たな産業の創出と育成	国際交流・インバウンドの更なる推進	2次交通の充実や観光情報の発信	無回答
全体	959	158	209	94	84	144	91	66	83	30
	100.0	16.5	21.8	9.8	8.8	15.0	9.5	6.9	8.7	3.1
10歳代	2	－	－	－	－	2	－	－	－	－
	100.0	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－
20歳代	45	4	10	8	6	8	2	3	4	－
	100.0	8.9	22.2	17.8	13.3	17.8	4.4	6.7	8.9	－
30歳代	77	7	24	3	8	15	2	8	9	1
	100.0	9.1	31.2	3.9	10.4	19.5	2.6	10.4	11.7	1.3
40歳代	180	31	38	12	9	41	15	15	15	4
	100.0	17.2	21.1	6.7	5.0	22.8	8.3	8.3	8.3	2.2
50歳代	175	27	41	19	12	22	22	7	20	5
	100.0	15.4	23.4	10.9	6.9	12.6	12.6	4.0	11.4	2.9
60歳代	276	52	66	22	20	34	35	17	23	7
	100.0	18.8	23.9	8.0	7.2	12.3	12.7	6.2	8.3	2.5
70歳以上	197	37	30	29	29	22	14	16	11	9
	100.0	18.8	15.2	14.7	14.7	11.2	7.1	8.1	5.6	4.6
無回答	7	－	－	1	－	－	1	－	1	4
	100.0	－	－	14.3	－	－	14.3	－	14.3	57.1

○50歳代以下では、空き店舗対策と魅力的な商業地の整備を要望

「戦略的な観光・交流産業ブランドづくり」への意見・要望が各年代とも高い一方、「10歳代」「30歳代」「40歳代」「50歳代」では「空き店舗対策等魅力的な商業地の整備」も高くなっています。

問13　住みよいむらづくりを進めていくために、あなたが協力できることは何ですか？（複数回答可）

	回答数	割合(%)
村政(村の計画等)に参加し、協力すること	216	22.5
地域活動や学校行事に参加、協力すること	289	30.1
ボランティア活動に参加すること	214	22.3
地域に住んでいる方とのふれあい、交流を深めること	322	33.6
日常生活の中で環境保全について努力すること	385	40.1
スポーツや文化など、生涯学習活動に進んで参加すること	238	24.8
身近な場所の緑化や花づくりに努めること	334	34.8
その他	11	1.1
無回答	12	1.3
回答者総数(%ベース)	959	100

○日常生活の中で環境保全について努力すること

「日常生活の中で環境保全について努力すること」が40.1%(385人)と最も高く、これに「身近な場所の緑化や花づくりに努めること」34.8%(334人)、「地域に住んでいる方とのふれあい、交流を深めること」33.6%(322人)、「地域活動や学校行事に参加、協力すること」30.1%(289人)などが続いています。

年代別●住みよい村づくりのために協力できること

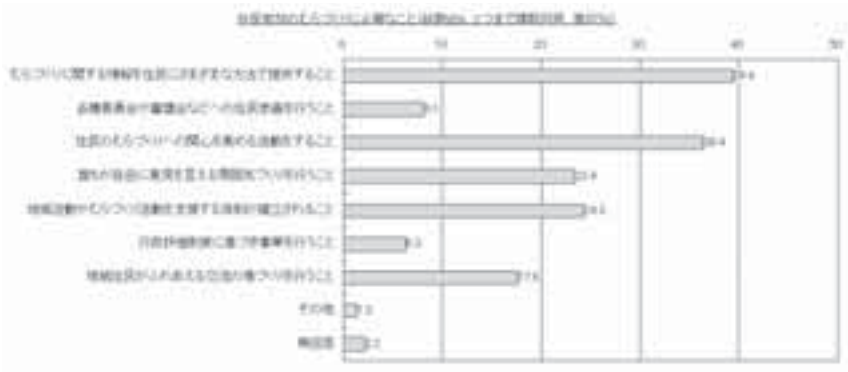
上段：回答数 下段：　　%	合計	村政（村の計画等）に参加し、協力すること	地域活動や学校行事に参加、協力すること	ボランティア活動に参加すること	地域に住んでいる方とのふれあい、交流を深めること	日常生活の中で環境保全について努力すること	スポーツや文化など、生涯学習活動に進んで参加すること	身近な場所の緑化や花づくりに努めること	その他	無回答
全体	959	216	289	214	322	385	238	334	11	12
	100.0	22.5	30.1	22.3	33.6	40.1	24.8	34.8	1.1	1.3
10歳代	2	2	－	1	－	1	－	－	－	－
	100.0	100.0	－	50.0	－	50.0	－	－	－	－
20歳代	45	9	18	11	15	17	20	8	1	－
	100.0	20.0	40.0	24.4	33.3	37.8	44.4	17.8	2.2	－
30歳代	77	18	40	18	29	30	24	23	4	－
	100.0	23.4	51.9	23.4	37.7	39.0	31.2	29.9	5.2	－
40歳代	180	48	107	37	53	67	47	42	2	1
	100.0	26.7	59.4	20.6	29.4	37.2	26.1	23.3	1.1	0.6
50歳代	175	36	48	33	56	77	51	63	2	3
	100.0	20.6	27.4	18.9	32.0	44.0	29.1	36.0	1.1	1.7
60歳代	276	65	51	72	85	123	52	110	－	4
	100.0	23.6	18.5	26.1	30.8	44.6	18.8	39.9	－	1.4
70歳以上	197	37	23	40	82	68	44	86	2	1
	100.0	18.8	11.7	20.3	41.6	34.5	22.3	43.7	1.0	0.5
無回答	7	1	2	2	2	2	－	2	－	3
	100.0	14.3	28.6	28.6	28.6	28.6	－	28.6	－	42.9

○20～40歳代で地域活動・学校行事、50～60歳代で日常生活の中で環境保全、70歳以上で身近な緑化と花づくり

年代により回答は多様に分かれています。20歳代では「スポーツや文化など、生涯学習活動に進んで参加すること」が最も高く、20歳代～40歳代では「地域活動や学校行事に参加、協力すること」、また、30歳代～60歳代で「日常生活の中で環境保全について努力すること」、さらに50歳代～70歳代以上では「身近な場所の緑化や花づくりに努めること」の割合が高くなっています。

問14　これから住民参加によるむらづくりの推進のために必要なことは何ですか？（該当するもの2つまで）

	回答数	割合（%）
むらづくりに関する情報を住民にさまざまな方法で提供すること	378	39.4
各種委員会や審議会などへの住民参画を行うこと	78	8.1
住民のむらづくりへの関心を高める活動をすること	349	36.4
誰もが自由に意見を言える雰囲気づくりを行うこと	224	23.4
地域活動やむらづくり活動を支援する体制が確立されること	233	24.3
行政評価制度に基づき事業を行うこと	60	6.3
地域住民がふれあえる交流の場づくりを行うこと	169	17.6
その他	12	1.3
無回答	21	2.2
回答者総数（%ベース）	959	100



○村づくりに関する住民への情報提供が必要

「むらづくりに関する情報を住民にさまざまな方法で提供すること」が39.4%（378人）と最も多く、次いで「住民のむらづくりへの関心を高める活動をすること」36.4%（349人）、「地域活動やむらづくり活動を支援する体制が確立されること」24.3%（233人）、「誰もが自由に意見を言える雰囲気づくりを行うこと」23.4%（224人）などとなっています。逆に低いのが「行政評価制度に基づき事業を行うこと」6.3%（60人）、「各種委員会や審議会などへの住民参画を行うこと」8.1%（78人）などです。

男女別●住民参加の村づくりで必要なこと

上段:回答数 下段:　　%	合計	むらづくりに関する情報を住民にさまざまな方法で提供すること	各種委員会や審議会などへの住民参画を行うこと	住民のむらづくりへの関心を高める活動をすること	誰もが自由に意見を言える雰囲気づくりを行うこと	地域活動やむらづくり活動を支援する体制が確立されること	行政評価制度に基づき事業を行うこと	地域住民がふれあえる交流の場づくりを行うこと	その他	無回答
全体	959	378	78	349	224	233	60	169	12	21
	100.0	39.4	8.1	36.4	23.4	24.3	6.3	17.6	1.3	2.2
男	460	183	43	158	109	121	35	65	7	7
	100.0	39.8	9.3	34.3	23.7	26.3	7.6	14.1	1.5	1.5
女	495	193	34	190	114	112	25	104	5	13
	100.0	39.0	6.9	38.4	23.0	22.6	5.1	21.0	1.0	2.6
無回答	4	2	1	1	1	−	−	−	−	1
	100.0	50.0	25.0	25.0	25.0	−	−	−	−	25.0

○委員会や審議会への参画、行政評価で女性の回答割合が特に低い

「むらづくりに関する情報を住民にさまざまな方法で提供すること」「住民のむらづくりへの関心を高める活動をすること」など上位の回答に男女で差異はありませんが、「各種委員会や審議会などへの住民参画を行うこと」「行政評価制度に基づき事業を行うこと」などでは、特に女性の回答割合が低くなっています。

問15　今後の公共サービスのあり方に関する考え方について（該当するもの1つ）

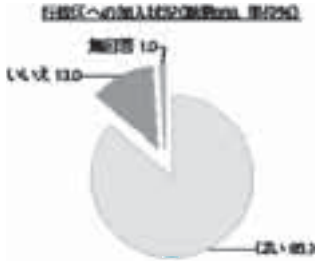
	回答数	割合（%）
負担が多くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい	157	16.4
住民自身のボランティア活動などにより経費の節減を図り、公共サービスを維持・向上してほしい	422	44.0
個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民負担を減らしてほしい	304	31.7
その他	35	3.6
無回答	41	4.3
回答者総数（%ベース）	959	100

○経費節減で公共サービスの維持・向上を

「住民自身のボランティア活動などにより経費の節減を図り、公共サービスを維持・向上してほしい」が44.0%（422人）と最も多く、次いで、「個人や地域でやるべきことは自分たちでやるため、公共サービスの向上よりも、住民負担を減らしてほしい」31.7%（304人）、「負担が多くなってもいいから、公共サービスを維持・向上してほしい」16.4%（157人）となっています。

問16　行政区に加入していますか？

	回答数	割合（%）
はい	824	85.9
いいえ	125	13.0
無回答	10	1.0
回答者総数（%ベース）	959	100

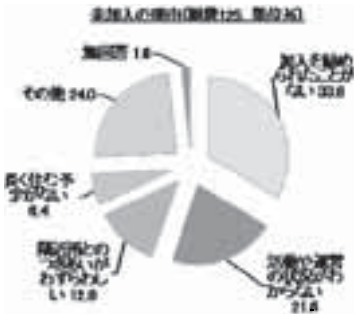


○約86%が行政区に加入

「はい」が85.9%（824人）、「いいえ」が13.0%（125人）となっています。

問17　前問で「いいえ」と回答した方に伺います。加入していない理由はなんですか？（該当するもの1つ）

	回答数	割合（%）
加入を勧められたことがない	42	33.6
活動や運営の状況がわからない	27	21.6
隣近所とのつきあいがわずらわしい	16	12.8
長く住む予定がない	8	6.4
その他	30	24.0
無回答	2	1.6
回答者総数（%ベース）	125	100

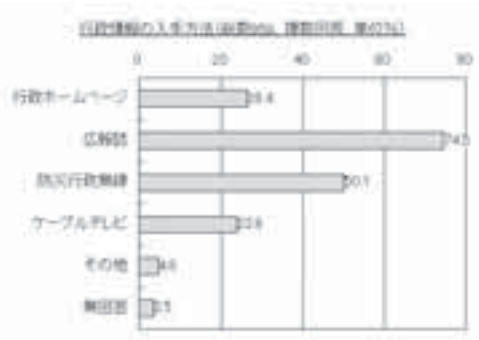


○3人に1人が加入を勧められたことがない

「加入を勧められたことがない」が33.6%（42人）と最も高くなっています。

問18　村からの行政情報は、普段どんな方法で入手していますか？（該当するもの全て）

	回答数	割合（%）
行政ホームページ	253	26.4
広報誌	714	74.5
防災行政無線	480	50.1
ケーブルテレビ	229	23.9
その他	44	4.6
無回答	34	3.5
回答者総数（%ベース）	959	100



○広報誌が約75%

「広報誌」が74.5%（714人）と最も多く、次いで「防災行政無線」50.1%（480人）、「行政ホームページ」26.4%（253人）などとなっています。

年代別●行政情報の入手方法

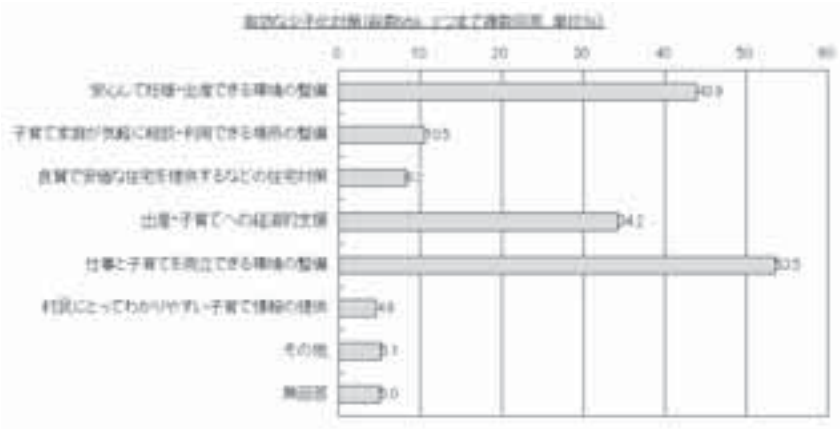
上段：回答数 下段：　%	合計	行政ホームページ	広報誌	防災行政無線	ケーブルテレビ	その他	無回答
全体	959 100.0	253 26.4	714 74.5	480 50.1	229 23.9	44 4.6	34 3.5
10歳代	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	－ －	－ －	－ －
20歳代	45 100.0	23 51.1	23 51.1	20 44.4	8 17.8	1 2.2	2 4.4
30歳代	77 100.0	37 48.1	51 66.2	31 40.3	20 26.0	1 1.3	3 3.9
40歳代	180 100.0	63 35.0	127 70.6	88 48.9	43 23.9	13 7.2	6 3.3
50歳代	175 100.0	46 26.3	143 81.7	83 47.4	37 21.1	6 3.4	4 2.3
60歳代	276 100.0	59 21.4	223 80.8	147 53.3	73 26.4	15 5.4	4 1.4
70歳以上	197 100.0	23 11.7	143 72.6	106 53.8	46 23.4	8 4.1	13 6.6
無回答	7 100.0	1 14.3	3 42.9	4 57.1	2 28.6	－ －	2 28.6

○10～30歳代では広報誌の割合が下がり、その分ホームページの割合が高くなる

いずれの年代も「広報誌」の割合が高くなっています。40歳代以上で特にその割合が高く、これに「防災行政無線」が次いでいます。10～30歳代では「広報誌」の割合がやや下がり、その分「行政ホームページ」が高くなっています。

問19　全国的に少子化が問題となっていますが、少子化対策として最も有効と思われるものは何ですか？（該当するもの2つまで）

	回答数	割合（%）
安心して妊娠・出産できる環境の整備	421	43.9
子育て家庭が気軽に相談・利用できる場所の整備	101	10.5
良質で安価な住宅を提供するなどの住宅対策	79	8.2
出産・子育てへの経済的支援	328	34.2
仕事と子育てを両立できる環境の整備	513	53.5
村民にとってわかりやすい子育て情報の提供	44	4.6
その他	49	5.1
無回答	48	5.0
回答者総数（%ベース）	959	100



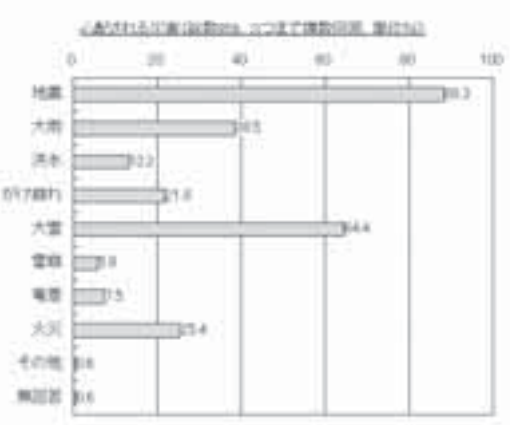
○仕事と子育ての両立が過半数

「仕事と子育てを両立できる環境の整備」が53.5%（513人）と最も多く、次いで、「安心して妊娠・出産できる環境の整備」43.9%（421人）、「出産・子育てへの経済的支援」34.2%（328人）などとなっています。

V　防災対策について

問20　どのような災害が心配だと思いますか？（該当するもの3つまで）

	回答数	割合（%）
地震	847	88.3
大雨	369	38.5
洪水	127	13.2
がけ崩れ	209	21.8
大雪	618	64.4
雪崩	57	5.9
竜巻	72	7.5
火災	244	25.4
その他	6	0.6
無回答	6	0.6
回答者総数（%ベース）	959	100

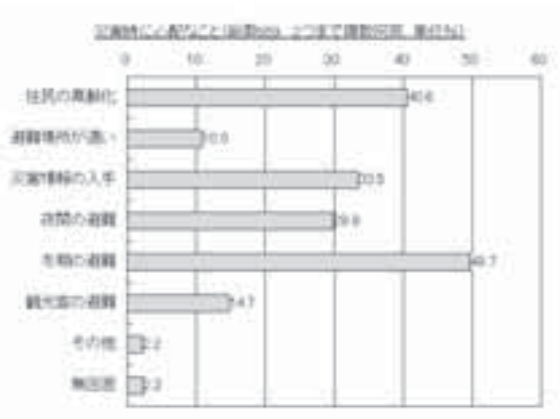


○9割近く、地震が心配

「地震」が88.3%（847人）と圧倒的に多く、次いで「大雪」64.4%（618人）、「大雨」38.5%（369人）などとなっています。

問21　災害時に心配なことは何ですか？（該当するもの2つまで）

	回答数	割合（%）
住民の高齢化	389	40.6
避難場所が遠い	104	10.8
災害情報の入手	321	33.5
夜間の避難	287	29.9
冬期の避難	477	49.7
観光客の避難	141	14.7
その他	21	2.2
無回答	22	2.3
回答者総数（%ベース）	959	100



○半数が冬期の避難を心配

「冬期の避難」が49.7%（477人）と最も多く、次いで、「住民の高齢化」40.6%（389人）、「災害情報の入手」33.5%（321人）などとなっています。

年代別●災害時に心配されること

上段：回答数 下段：　%	合計	住民の高齢化	避難場所が遠い	災害情報の入手	夜間の避難	冬期の避難	観光客の避難	その他	無回答
全体	959	389	104	321	287	477	141	21	22
	100.0	40.6	10.8	33.5	29.9	49.7	14.7	2.2	2.3
10歳代	2	1	－	1	1	－	－	－	－
	100.0	50.0	－	50.0	50.0	－	－	－	－
20歳代	45	15	4	21	12	19	9	－	－
	100.0	33.3	8.9	46.7	26.7	42.2	20.0	－	－
30歳代	77	24	7	28	26	41	6	4	2
	100.0	31.2	9.1	36.4	33.8	53.2	7.8	5.2	2.6
40歳代	180	51	16	67	44	108	35	5	5
	100.0	28.3	8.9	37.2	24.4	60.0	19.4	2.8	2.8
50歳代	175	60	16	69	57	91	34	4	5
	100.0	34.3	9.1	39.4	32.6	52.0	19.4	2.3	2.9
60歳代	276	127	31	90	92	132	31	6	5
	100.0	46.0	11.2	32.6	33.3	47.8	11.2	2.2	1.8
70歳以上	197	109	30	45	53	84	23	2	3
	100.0	55.3	15.2	22.8	26.9	42.6	11.7	1.0	1.5
無回答	7	2	－	－	2	2	3	－	2
	100.0	28.6	－	－	28.6	28.6	42.9	－	28.6

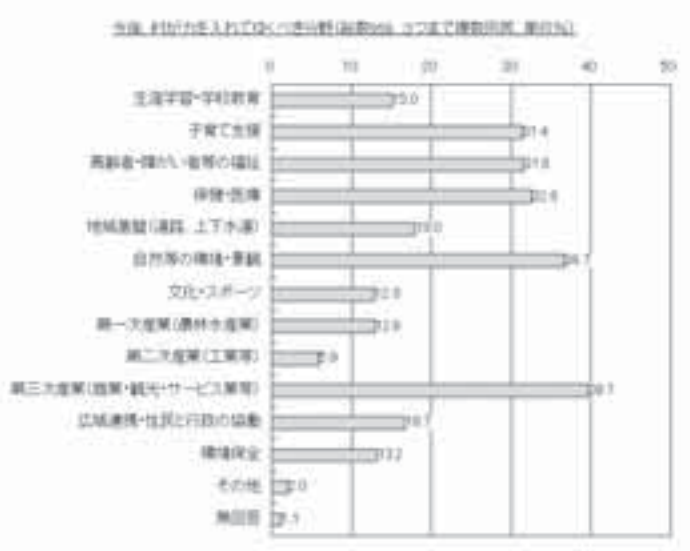
○60歳代以上で約半数が住民の高齢化を心配

「冬期の避難」と「災害情報の入手」を心配する割合がいずれの年代でも高くなっていますが、60歳代以上では「住民の高齢化」を心配する回答が多く、また、20歳代以下では「災害情報の入手」を心配する回答が多くなっています。

Ⅵ 戦略的なまちづくりについて

問22 これからの時代、地域自らが、地域の将来を考え、実行していくことの重要性が高まっています。まちづくりにはさまざまな分野がありますが、あなたは、白馬村が今後、より一層活性化したり、いきいきとしていくためには、どんな分野に力を入れていくことが必要だと思いますか？（該当するもの3つまで）

	回答数	割合（%）
生涯学習・学校教育	144	15.0
子育て支援	301	31.4
高齢者・障がい者等の福祉	303	31.6
保健・医療	313	32.6
地域基盤（道路、上下水道）	173	18.0
自然等の環境・景観	352	36.7
文化・スポーツ	123	12.8
第一次産業（農林水産業）	124	12.9
第二次産業（工業等）	57	5.9
第三次産業（商業・観光・サービス業等）	381	39.7
広域連携・住民と行政の協働	160	16.7
環境保全	127	13.2
その他	19	2.0
無回答	11	1.1
回答者総数（%ベース）	959	100



年代別●これから力を入れてゆくべき分野

上段：回答数 下段：　　%	合計	生涯学習・学校教育	子育て支援	高齢者・障がい者等の福祉	保健・医療	地域基盤（道路、上下水道）	自然等の環境・景観	文化・スポーツ
全体	959 100.0	144 15.0	301 31.4	303 31.6	313 32.6	173 18.0	352 36.7	123 12.8
10歳代	2 100.0	1 50.0	1 50.0	－ －	－ －	－ －	－ －	1 50.0
20歳代	45 100.0	5 11.1	17 37.8	6 13.3	13 28.9	14 31.1	18 40.0	8 17.8
30歳代	77 100.0	11 14.3	41 53.2	13 16.9	25 32.5	17 22.1	21 27.3	15 19.5
40歳代	180 100.0	43 23.9	72 40.0	37 20.6	56 31.1	27 15.0	74 41.1	35 19.4
50歳代	175 100.0	22 12.6	45 25.7	42 24.0	64 36.6	35 20.0	64 36.6	32 18.3
60歳代	276 100.0	31 11.2	77 27.9	126 45.7	95 34.4	45 16.3	107 38.8	23 8.3
70歳以上	197 100.0	31 15.7	47 23.9	77 39.1	59 29.9	34 17.3	67 34.0	9 4.6
無回答	7 100.0	－ －	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3	1 14.3	－ －

上段：回答数 下段：　　%	第一次産業（農林水産業）	第二次産業（工業等）	第三次産業（商業・観光・サービス業等）	広域連携・住民と行政の協働	環境保全	その他	無回答
全体	124 12.9	57 5.9	381 39.7	160 16.7	127 13.2	19 2.0	11 1.1
10歳代	－ －	－ －	1 50.0	－ －	－ －	－ －	－ －
20歳代	5 11.1	1 2.2	21 46.7	8 17.8	4 8.9	1 2.2	－ －
30歳代	11 14.3	2 2.6	38 49.4	6 7.8	10 13.0	2 2.6	－ －
40歳代	18 10.0	11 6.1	86 47.8	17 9.4	21 11.7	7 3.9	－ －
50歳代	27 15.4	9 5.1	79 45.1	26 14.9	29 16.6	3 1.7	3 1.7
60歳代	35 12.7	19 6.9	90 32.6	58 21.0	39 14.1	3 1.1	1 0.4
70歳以上	27 13.7	15 7.6	65 33.0	45 22.8	24 12.2	3 1.5	3 1.5
無回答	1 14.3	－ －	1 14.3	－ －	－ －	－ －	4 57.1

○第三次産業（商業・観光・サービス業等）の振興を（前前ページ）

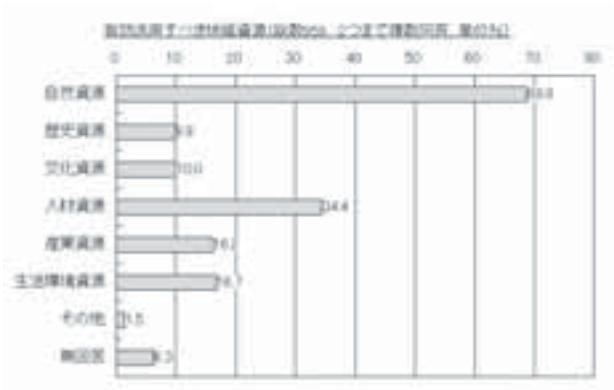
「第三次産業」が39.7%（381人）と最も多く、次いで、「自然等の環境・景観」36.7%（352人）、以下、僅差で「保健・医療」「高齢者・障がい者等の福祉」「子育て支援」が続いています。

○30歳代では「子育て支援」、60歳代～70歳以上では「高齢者・障がい者等の福祉」（前ページ）

年代別に見ると、「第三次産業」は20歳代～50歳代で高くなっています。これに対し、30歳代では「子育て支援」、60歳代～70歳以上では「高齢者・障がい者等の福祉」がそれぞれ高く、また、「自然等の環境・景観」はほぼ全年代を通じて高くなっています。

問23　白馬村ならではの地域づくりを進めていくため、有効活用すべき地域資源、埋もれている要素などはありますか？（該当するもの2つまで）

	回答数	割合（%）
自然資源	660	68.8
歴史資源	95	9.9
文化資源	96	10.0
人材資源	330	34.4
産業資源	155	16.2
生活環境資源	160	16.7
その他	14	1.5
無回答	60	6.3
回答者総数（%ベース）	959	100



○圧倒的に自然資源

「自然資源」が68.8%（660人）と圧倒的に高く、次いで「人材資源」34.4%（330人）などとなっています。

問24　あなたは、白馬村の人口規模が将来、どのようになるのが望ましいと思いますか？（該当するもの1つ）

	回答数	割合（%）
減少していってもやむを得ない	86	9.0
現状程度の維持をめざすべき	473	49.3
増加させる方向をめざすべき	363	37.9
無回答	37	3.9
回答者総数（%ベース）	959	100

○約半数が現状維持

「現状程度の維持をめざすべき」が49.3%（473人）と約半数、次いで、「増加させる方向をめざすべき」37.9%（363人）となっています。

年代別●望ましい将来人口

上段：回答数 下段：　%	合計	減少していってもやむを得ない	現状程度の維持をめざすべき	増加させる方向をめざすべき	無回答
全体	959 100.0	86 9.0	473 49.3	363 37.9	37 3.9
10歳代	2 100.0	2 100.0	－ －	－ －	－ －
20歳代	45 100.0	6 13.3	23 51.1	15 33.3	1 2.2
30歳代	77 100.0	14 18.2	37 48.1	24 31.2	2 2.6
40歳代	180 100.0	11 6.1	106 58.9	57 31.7	6 3.3
50歳代	175 100.0	17 9.7	92 52.6	60 34.3	6 3.4
60歳代	276 100.0	18 6.5	136 49.3	115 41.7	7 2.5
70歳以上	197 100.0	17 8.6	78 39.6	90 45.7	12 6.1
無回答	7 100.0	1 14.3	1 14.3	2 28.6	3 42.9

○70歳以上は増加、10歳代は減少やむなし

20歳代～60歳代まで「現状程度の維持をめざすべき」がほぼ半数を占めているが、70歳以上では「増加させる方向をめざすべき」、逆に10歳代では「減少していってもやむを得ない」が多数を占めています。

計画策定の経過

H27

3月～4月

村民アンケート（959名）

施策に対する満足度や村の課題と将来像、開発規制や地域活動、協働、防災対策等について無作為抽出で郵送により調査しました。

10月

ミニキャンプ［集団インタビュー］（22名）

村づくりに対する住民の考えを把握することを目的に、ウイング21と白馬村役場にて2回に分けて村政に対する意見や要望・提言等をお聞きしました。

12月～2月

住民インタビュー（45名）

学生から高齢者、移住者や外国人も含めて幅広い住民を対象に白馬村の課題や将来像を聞取りました。

H28

2月

アイデアキャンプ＆カフェ（約75名）

昼はカフェ、夜はキャンプと題して、3日間にわたり「現在の困りごと」や「10年後の将来像」について意見交換しました。

5月

アイデアキャラバンキックオフワークショップ（約60名）

これからの人口減少社会における地域のあり方について講演を聴いたうえで、「自分ができること」、「村に足りないスキル」等を話し合いました。

6月

エリアキャラバン（約50名）

3日間にわたり村内3会場で、各地域特有の課題について意見交換しました。

Hakuba IdeaCaravan

7月

東京ワークショップ（約70名）

ヤフー株式会社代表取締役社長の宮坂学さん、studio-L 代表の山崎亮さん、村長の鼎談の後、村外の白馬出身者や白馬ファンに「白馬でできる豊かな生活」について意見をいただきました。

8月

白馬ワークショップ（約20名）

それまでの村内外のワークショップに参加した方が集まり、2日間かけて「豊かな生活」の実現のためにできる具体的な活動内容を議論しました。

8月～9月

パブリックコメント（5名14件）

計画審議会の開催状況

平成27年	8月24日	第1回計画審議会
	10月23日	第2回計画審議会
	11月17日	第3回計画審議会
	12月1日	第4回計画審議会
	12月18日	第5回計画審議会
平成28年	1月20日	第6回計画審議会
	2月18日	第7回計画審議会
	2月25日	第8回計画審議会
	3月15日	第9回計画審議会
	5月24日	第10回計画審議会
	8月10日	第11回計画審議会

計画審議会の様子

計画審議会から村長への答申

計画策定にあたり、多くの方にご協力いただきました。
この場を借りて御礼申し上げます。

白馬村総合計画 平成27年度のまとめ

目的・概要

白馬村の今後10年の将来像や目標を定め、各種計画の指針となるのが総合計画です。白馬村でもこれまで計4回の計画がつくられており、平成27年度から平成28年度にかけて新しい計画をつくり直す機会でした。この期間に、村と村民の協働による計画策定を進め、計画に基づいて村民の主体的な活動が進んでいくことを目的としています。

平成27年度の進め方

平成27年度の進め方として、まず、白馬村で活動されている商業者、NPO、社会福祉協議などの各種団体、個人（計45名）にインタビューを実施し、「白馬村の魅力」、「白馬村の課題」を把握しました。同時にその後行われるワークショップに向けて、直接的対話による団体・個人の皆さんとの信頼関係の構築に努めました。

次に、インタビューの結果をふまえて、「白馬村の将来」について意見交換するワークショップを開催しました。ワークショップ形式にすることで、行政と住民が一緒になって行政計画を考える仕組みを体験してもらいました。また、白馬村では観光業に従事する方が多いことから、日中帯に意見を書き込む機会（カフェ形式）と住民同士が意見交換する機会（キャンプ形式）を1日間実施するプログラム構成としました。

最終的には、インタビュー、ワークショップで抽出された意見を整理し、総合計画の基本構想部分を作成しました。

平成27年度インタビューのまとめ

インタビュー結果の要約

農業　気候が良く、美味しい農産物が出来るという意見がありました。一方で、耕作放棄地の集約化は進んでおり、生産者の意識変革や運営など気候にあった生産物の増加の課題も挙げられていました。

観光　景観の豊かさについて、満足しているという意見が多かった。一方で、海外からの旅行者は増えているが、宿泊業の後継者やグリーンシーズンの若い従業員の確保が難しいという課題も挙げられていました。

教育・子育て　子どもを地域の皆さんが一緒になって育て、地域資源を有効に活用して学習できるという意見が多かった。一方で、移住してきた若い共働きの夫婦向けの育児をサポートする施設、制度の充実も課題として挙げられていました。

福祉・医療　福祉施設の人材確保や高齢者の除雪、買い物補助、医療機関へのアクセスなどの支援が必要という意見が多かった。一方で、障がい者の村内での活動や雇用の確保についても意見が挙がっていました。

コミュニティ・防災　集落内で住民同士が支えあって暮らすのが良いという意見が多かった。特に、住民と移住者と交流する場が必要という意見もありました。一方で、既存集落のコミュニティ維持や防災体制の課題も挙がっていました。

インタビュー結果から見えてきたこと

村民に対するインタビューで得られた白馬村の魅力や課題の内容を整理すると、**「農業」**、**「観光」**、**「教育・子育て」**、**「福祉・医療」**、**「コミュニティ・防災」**というキーワードが見えてきました。

また、今後の白馬村の将来像、自分たちがやっていきたいこと、全体の意見に共通する視点として、**「多様性」**、**「学び」**といったキーワードも見られました。ワークショップでは、これらのキーワードを参考にして、さらに突っ込んで話し合うためのテーマとして設定することにしました。

平成27年度ワークショップのまとめ

ワークショップ結果の要約

農業　耕作放棄地の増加や田園風景を維持するためにも、田んぼや野菜の生産が維持できる新しい仕組みが必要という意見が多かった。特に、観光業と連携して進めて農業で生活が成り立つようにしていくことが挙げられていました。

観光　国際的なリゾートになるために、近隣のスキー施設、グリーンシーズンのプログラム、屋内施設、地元の食材、歴史文化などを連携させた方が良いという意見が多かった。一方で、施設の老朽化、イベント情報の共有不足、若者の雇用先不足などに対する懸念もありました。

教育・子育て　多様多様な人々が住んでいる地域の利点を生かして、多世代で交流しながら外国語の習得や村の歴史文化を学ぶ仕組みが必要という意見が多かった。一方で、未就児、病児保育の制度の充実、進学に関する選択肢が不足、公園や図書館などの整備に関する意見もありました。

福祉・医療　福祉・医療施設と地域が交流して、支えあいながら楽しく暮らしていきたいという意見が多かった。一方で、高齢者の移動手段の確保と除雪に対して不安に思っている意見も挙がっていました。また、外国からの定住者向けの医療・福祉に関する意見もありました。

コミュニティ・防災　昔から住んでいる住民、国内外で移住してきた住民などで構成しているコミュニティで、いかにつながり・交流を持っていくかという意見が多かった。一方で、多様化する暮らしの中で、どのようにして防災に備えるかについても意見が出ました。

ワークショップの結果から見えてきたこと

インタビュー内容を加味して設定したテーマ**「農業」**、**「観光」**、**「教育・子育て」**、**「福祉・医療」**、**「コミュニティ・防災」**を基に意見交換しました。その結果、白馬村で暮らしていることで無意識に「多様性」、「学び」がキーワードになっていることが再認識できました。この2つの言葉を土台に、基本構想部分のキャッチフレーズ「白馬の豊かさとは何か－多様であることから交流し学びあい成長する村－」を組み立てました。また、ワークショップで意見交換する中で、**「農業」**、**「観光」**、**「教育・子育て」**、**「福祉・医療」**、**「コミュニティ・防災」**の各テーマに変わる軸が見えてきました。例えば、**「農業」**、**「観光」**については、仕事創出という観点から**「産業」**という軸、**「教育・子育て」**、**「コミュニティ・防災」**については、多様な人と交流し、そこでの暮らしを支えあっていく観点で**「ひと」**、**「暮らし」**という軸。そして、5つのテーマにそれぞれ共通している観点として、白馬の豊かな景観から**「自然」**という軸。これら4つの軸を基本目標に設定しました。

基本構想のキャッチフレーズ（案）

白馬の豊かさとは何か －多様であることから交流し学びあい成長する村－

白馬村には、世界中の人を惹きつける多様な価値を持つ自然環境があります。その土地の暮らしに根付いた多様な歴史や文化も各地区に残っています。そして、移住者や来訪者も含めた白馬を愛する多様な立場の人たちがいます。社会変化の影響を受けやすく、これまでも多くの変化に対応してきた白馬村だからこそ、村内外からの「多様性」から「学びあう」ことを実践し、様々な分野で「白馬の豊かさ」を発見しながら成長していく必要があります。これからの10年間、白馬に集うみなさんが「白馬の豊かさとは何か」を問いつづけることによって、激しい社会変化にもお互いに知恵を出し合い、手を携えながら乗り越える、そして、一人ひとりが「豊かさ」を感じながら成長することができる白馬村を目指していきます。

基本構想目標の構成（案）

白馬アイデアキャンプ便り

HAKUBA IDEA CAMP LETTER

総合計画について

白馬村の今後10年の方向性や目標を定め、その他、各種計画の指針となるのが総合計画です。白馬村でもこれまで計4回の計画がつくられており、今回新しい計画をつくり直す機会にきています。

第5次総合計画策定までの流れ

今回策定を予定している第5次総合計画では、10年先の村の将来像を見越し、これまでにない村民が主体的に計画づくりに関わり、意見を取り入れられるように様々な形でアイデア交換ができる場を設けました。

住民ヒアリング → **関係者ヒアリング** → **アイデアキャンプ** → **総合計画策定**

有志の方にお集まりいただき、白馬村の現状や課題、将来像についての意見交換をしました。

村内で動められている方や、新しい取り組みをされている方を中心に意見交換をしました。

有志の方にお集まりいただき、みんなで村の課題解決や活動アイデアを考えました。

全ての意見交換から提案されたことをベースに、2016年9月総合計画を策定します。

studio-L studio-L（スタジオエル）は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合振興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。

白馬アイデアキャンプについて

現在、白馬村では今後10年間の村づくりの指針となる「白馬村第5次総合計画」の策定を進めています。「白馬アイデアキャンプ」と題し、2月5日から11日の3日間に渡り、将来の村づくりにかかわる様々な分野について、皆さんに意見交換していただける場を企画しました。カフェタイムとキャンプタイムの2部制で開催し、市民のみなさんの好きな時間に来てもらい（計58名の参加）、いまの困り事や10年後の将来像を考えました。

カフェタイム

（3日間のうち2日目は10時～12時）

キャンプタイムの時間帯に出にくい人向けに、温かい飲み物やお菓子を食べながら、ゆったりとアイデアを話してもらいました。お子さん連れや冬季産業をされている方の来場が多くみられました。

キャンプタイム

（19:00-21:00（3日目は13時～15時））

カフェタイムが終わり、夜はたくさんの村民にお集まりいただき、6つのテーマ（観光、農業、教育・子育て、コミュニティ・防災、福祉・医療）について、課題や将来像の意見交換をしました。

今後の展開について

今回の意見交換で提案されたことの中には、村の課題を解決できるような実践的な取り組み案があがりました。総合計画は計画を書いて終わりではなく、その内容を踏まえていかに、個人や企業、集まりとして取り組みに変えていけるかが鍵になります。今後（2016年4月以降）、具体的な活動プランを考える場を設けたいと思っているので、その際はぜひおこしください。

実施・運営　㈱studio-L
URL www.studio-l.org/

問合わせ先　白馬村役場教育委員会事務
〒 白馬村大字北城7025番地
TEL 0261-72-5000　FAX 0261-72-7261　E-mail kobetsu@vill.hakuba.lg.jp

アイデアキャンプであがった白馬村の困りごとや将来像

アイデアキャンプでは、個別インタビューの内容を加味して①農業②観光③教育・子育て④福祉・医療⑤コミュニティ・防災の5つテーマで意見交換をしました。その結果、各テーマに共通する軸が見えてきました。農業と観光については、通年でできる仕事や6次産業といった、新しい仕事をつくるという観点から「産業」という軸。教育・子育てとコミュニティ・防災については、様々な人が住んでいる中で交流し、そこでの暮らしを支えあっていくということで「ひとや」「暮らし」という軸。そして、5つのテーマに共通しているものとして、白馬の豊かな景観が出てくることから「自然」という軸が見えてきました。この4つの軸を推進していく根源的な力になる、もしくは暮らしていることで無意識的に認識されている「多様性」や「学び」がキーワードになっていることも見えてきました。総合計画の基本構想部分では、これら4つの軸と2つのキーワードを土台に、キャッチフレーズや基本目標を設定することにしました。以下では、アイデアキャンプであがった意見の一部を紹介します。

観光について

困りごと・課題

- 通年では動ける仕事が限られている
- 外国人が多い割には、多言語対応が進んでいない
- 雨天時の遊び場所の不足
- パッと食べれる食事源が少ない。そばガレット・クレープは始めているが数が少ない

将来像

- インバウンドもよいが日本人が訪山訪れる村にしたい
- 山岳観光の聖地(ブランド)化
- 村民も安価にレジャーを楽しめる村になってほしい
- 見る観光(絵を描く、写真を撮る)の充実を図る
  →村民が知っているポイントの紹介をする

農業について

困りごと・課題

- 美しい風景が荒れ地になってしまっている
- 儲かる農業がないため離農者が多い
- 体育館を借りるような感覚で畑を借りることはできないか
- 観光と農業の結びつき(6次産業化)

将来像

- 農業をしている高齢者の野菜を、売れる場や手伝える支援があるとよい
- 農家の人から子供たちに野菜の美味しさを伝える場が欲しい
- 遊休農地や原野で、白馬に適した果樹(栗、梅)等の栽培促進をする
- 蚕のように皆で協力して農業に取り組む村

教育・子育てについて

困りごと・課題

- 働きながら子育てができるのか不安
- 子供が体育館等のように気軽に遊べ場がない
- 場をつくっても続からないので続ける人がほしい
- 図書館が不十分、文化財が保護されない

将来像

- 将来的には、白馬高校の公営塾に小・中学生も通えたらよい
- 発達障害に対する理解、支え合える地域に！
- 「教育立村」と胸を張っていえるようになる
- 大人も子供も学び続け豊かな観光や福祉ができる村にする

コミュニティ・防災について

困りごと・課題

- Iターン者と地元住民とが気軽に交流できる場がない
- 空き家の情報が少ない→新しいことをしたい若者が動きづらい
- 地元の人が伝統文化を知らない

将来像

- 山や雪のことがわかる「白馬らしい」図書館があるとよい
- 若い世代の「やりたい！」を温かく支援する(前例がないと大人世代に阻まれていると聞く)
- 「お誘い隊」をまねしたい(コーディネート役や集落支援員)
- 消防団でつながりをつくる

福祉・医療について

困りごと・課題

- 緊急時の夜間病院が充実していない
- 精神障害のある方が働く場所や、楽しく過ごす場所がほとんどない
- 買い物難民が出てきそう
- グローバルな考え方を福祉政策にも取り入れていってほしい

将来像

- 赤松がペレットの材料として最適で、障がいをもたれている人でも製造できる→地産地消で雇用促進
- スキー選手が多く、スポーツ医療に強いのではないか
- 専門家+helpシェアリング。災害時のお助け隊を日常活動につなげる
- 森林セラピーで福祉と観光を結びつける

白馬村総合計画 平成28年度まとめ

目的・概要

白馬村の今後10年の将来像や目標を定め、各種計画の指針となるのが総合計画です。白馬村でもこれまで計4回の計画がつくられており、平成27年度から平成28年度にかけて新しい計画をつくり直す機会でした。この期間に、村と村民の協働による計画策定を進め、計画に基づいて村民の主体的な活動が進んでいくことを目的としています。

平成28年度の進め方

平成27年度に、住民の皆さんとワークショップ（プログラム名：アイデアキャンプ）を通じて基本構想部分を整理し、**「白馬の豊かさとは何か-多様であることから交流し学びあい成長する村-」**というメッセージを掲げました。その内容を基に、平成28年度は、基本計画の策定に向け、【多様性】、【学び】というキーワードを実践する意味も込めて、住民と村外の白馬ファンが一緒になって、10年後の白馬でより良くしていくための活動をワークショップ（プログラム名：アイデアキャラバン）形式で考えました。

平成28年度の進め方として、まず、村民向けのキックオフを白馬村で開催し、基本構想の内容や今後の進め方を説明しました。同時に、エリアごとに意見交換の場を作りその地域ごとの資源や課題の把握も行っています。次に、東京でワークショップを行い、白馬ファンやU・Iターンに興味を持つ参加者に、白馬村の状況の共有と「豊かな生活」について意見出しを行いました。最後に、白馬村で村外の参加者・白馬村住民を集めたワークショップ行い、参加者自身が実現できるアイデアや活動をつくり出すチームづくりを行いました。

平成28年度ワークショップのまとめ

アイデアキャラバンの結果の要約

白馬キックオフ

基本構想4つの柱である①産業②自然③ひと④暮らしについて、現状の課題と村民が活動する上で求められる人やスキルについての意見交換をしました。全体を通じて、白馬村にはそれだけ優秀な人材が揃っていることがわかり、自分たちができることや逆に足りないスキル・人が現実的な内容として挙がっていました。

東京ワークショップ

東京近郊の白馬ファンを中心に2つのテーマ「豊かな生活」、「東京でできない白馬村でできる豊かな生活」について意見交換を行ないました。その中で見てきたのは、都心部での多様な働き方がある中で、白馬の大自然の中で暮らしてみたい（2拠点居住を含む）と思っている人が多かったということ。また、観光客、外国人など色々な人々が訪れる白馬村だからこそ、村民も含めて交流する機会をもっと作り、楽しく暮らしていくことが重要という意見も挙がっていました。

白馬ワークショップ

1泊2日形式で、自分たちが考える「豊かな生活」を実現するために具体的に何ができるか、何を実行していくのかを住民と白馬ファンが一緒になって考え抜きました。1日目は住民と村外の白馬ファンと一緒のチームになって、村内フィールドワークをしながら、現場の雰囲気やそこから見えてくる課題などの再把握を行いました。その中で、基本構想で掲げた白馬の「多様性」や「学びあい」の視点も改めて認識できました。2日目は、1日目で見えてきた課題に対して、自分たちは何を実行していくのか、各チームで活動内容の具体化を行いました。その意見交換の中で、移住を考えている人と住んでいる人とで考慮しなければならない視点がそれぞれ見えてきました。例えば、受け入れる地元側が多様性を模索しつつも、どんな人に入ってきてほしいかを考えないといけません。一方で、移住を考えている人たちは、ずっとこの村に暮らし仕事をしている先輩たちの知恵を借りながら、自分たちが暮らしやすい仕組みを考える必要があります。このような点に注意しながら、今からできる活動内容が各チームから出てきました。

ワークショップの結果から見えてきたこと

平成27年度から平成28年度にかけて、白馬村の住民を中心としたワークショップで村の将来や取り組みについて意見交換を行ってきました。今後は、ワークショップで出た取り組みが実行されていくように、継続的な意見交換や情報発信をするための土台（プラットフォーム）を作っていくことが必要となってきます。

プラットフォームの役割

ワークショップで出てきた結果の内容を前提として、プラットフォームの役割は、大きく以下の3点が考えられます。

- ○ 取り組み内容を検討、実行する機会と場所を提供する
- ○ 取り組みの状況を共有、相談、発信する機会と場所を提供する
- ○ 新しい仲間や支援をお願いしたい人を募る機会と場所を提供する

これらの役割を果たしながら、基本構想に掲げたメッセージ**「白馬の豊かさとは何か-多様であることから交流し学びあい成長する村-」**を一緒に考え、取り組みを実施していくために、仲間同士が交流できることが求められます。特に、個人（村民、外国人、村出身者、村外の白馬ファン）、行政、企業が共同して課題を解決していける場に数年間かけてなっていくことが重要です。また、このプラットフォームで抽出された意見で、公的なものにシフトしていく、もしくは私的なものにシフトしていくものも出てくるかもしれませんし、逆のパターンの可能性も考えられます。

プラットフォームの仕様・条件

村内外の人たちが交流し、活動していくにあたって、プラットフォームの仕様・条件を整理します。まず、住んでいる場所に依存しない、ネット空間でのやり取りが想定されます。特に、都心部に住む参加者（白馬ファン）は、現在の仕事（都内）は継続しつつも白馬との接点をつくりながら、より豊かな暮らしをしたいという想いを持つ人が多く、ネットでの利用ニーズがあります。次に、参加者が交流するだけでなく、実際に動き出すための仕掛けも必要になってきます。そして、共通した想いを持っている者同士がつながれるような持続性も考慮することが求められます。そうすることで、一つの活動が終わった後のワクワク感（自分なりのバックボーンを持って、同じ興味を持った人に出会える等）を醸成できます。このような仕様・条件に基づいて、住民や白馬ファンの皆さんと一緒になって使いやすいプラットフォームづくりをしていくことが重要です。最終的には、基本構想のキーワードにあった【多様性】、【学び】の視点を考慮しつつ、白馬村での豊かな生活を実現することが目標となります。

<主な仕様・条件>

- ○ 村民、村外の白馬ファンが距離を意識せずに交流できる仕組み
- ○ 新しい出会いをつくりながら、地域の課題解決に取り組む住民を増やす

白馬アイデアキャラバン便り

HAKUBA IDEA CARAVAN LETTER

白馬アイデアキャラバンについて

白馬村キックオフワークショップ

[日時] 2016.5.24 (火)
[場所] 白馬村農業体験交流館
[スケジュール]
- 白馬村副村長よりご挨拶
- 白馬村総合計画策定について
- 総合計画基本構想の内容について
- [講　演] 多様な人たちと作り上げるまちづくりについて
- [ワーク] 村民ができることと村外の人に求めること
- 質疑のご検討

白馬村では現在、今後10年間の村づくりの指針となる「白馬村第5次総合計画」のうち、前期5年間の基本計画の策定を進めています。2015年度は「白馬アイデアキャンプ」と題し、将来の村づくりにかかわる観光や農業や教育など分野について意見交換をしました。みなさんより提案されたアイデアをもとに、「白馬村アイデアキャラバン」では、アイデアを実現する住民アクションを考えていきます。

白馬村副村長より

今回の総合計画では、村民に主眼をおき計画策定を進めています。お集まりいただいたみなさまは、地域の中で様々な取組みをされているかと思います。考えていることやできることが同じ人もいれば違う人もいます。それぞれの立場をもって意見を出しあい、より実現性の高いものを検討できればと思います。

策定状況について

総合計画は、今後10年間の村の基本方針となる「基本構想（2015年3月議会承認済み）」と具体的な動きを示す「基本計画」から成ります。今年度はアイデアキャラバン等を通じて、基本計画を検討します。7月には東京にて、白馬ファンを集めたワークショップを、8月には白馬村にて村民と都市部の人が一緒に意見交換ができる場を設ける予定です。

7/12　東京キャラバン
8/6・7(予定)　白馬キャラバン
2016年9月頃　総合計画策定

基本構想について

昨年度実施したヒアリングやアイデアキャンプを通じて、4つの柱（①産業②自然③ひと④暮らし）が見えてきました。そして、その中でも大事なキーワードとして「多様性」と「学び」があります。観光地として多様な人を受け入れる自然環境がある中で、伝統的な暮らしが残る地域でもあります。観光地として成長し、社会変化の影響を受けやすい白馬村だからこそ、将来の村のあり方を考えるにあたり、受け入れた多様な人たちが、互いに学び合えるまちにすることを基本構想として掲げました。

基本構想の構成図

白馬の豊かさとは何か～多様であることから交流し学びあい成長する村～

白馬村には、世界中の人を惹きつける多様な価値を持つ自然環境があります。その土地の暮らしに根付いた多様な歴史や文化も各地区に残っています。そして、移住者や来訪者も含めた白馬を愛する多様な立場の人たちがいます。社会変化の影響を受けやすく、これまでも多くの変化に対応してきた白馬村だからこそ、村内外からの「多様性」から「学びあう」ことを意識し、様々な分野で「白馬の豊かさ」を発見しながら成長していく必要があります。これからの10年間、白馬に集うみなさんが「白馬の豊かさとは何か」を問いつづけることによって、新しい社会変化にもお互いに知恵を出し合い、手を携えながら乗り越える、そして、一人ひとりが「豊かさ」を感じながら成長することができる白馬村を目指していきます。

講　演

人口減少時代を迎えるにあたり、定住人口増ばかりを考えていると限界が待っているかもしれません。地域づくりを生み出し、そこに関わる「活動人口」を増やすことが重要なテーマになってきます。将来、定住人口は減っても活動人口は増えているまちであれば、何か新しいことができたり、住みよい暮らしが待っている期待が生まれます。そこで弊社が関わる2つの事例を紹介します。

大山町未来づくり10年プラン

住民を主体とした総合計画策定の事例です。計画のテーマは「楽しき自給率の高いまち」。お金を払って誰かに楽しませて貰っているのでは自給しているとはいえません。町外で遊んでいれば地域経済にも繋がりません。食料自給率やエネルギー自給率も大事ですが、自分の人生は自分の手の届くにあるもので楽しむことが活動人口を増やすことになるという計画と活動になります。

富岡市世界遺産まちづくり

富岡駅の向上を世界遺産にするために、市民の機運を高め地域活動へとしていった事例です。世界遺産になることでメリットもありますが、人が押し寄せるデメリットも考えられます。そこで例えば300万人が一度に来るのではなく、長い時間をかけて300万人に来てもらい、さらに来てもらった人が地元の人と友だちになり、何度でも来てもらえる関係性を築けるような市民活動を目指しました。

アイデアキャラバンであがった自分にできることと必要な人やスキル

基本構想4つの柱である①産業②自然③ひと④暮らしについて、現状の課題に対して、村民それぞれができることと、これからの計画や活動を実現していくうえで求める人やスキルについての意見交換をしました。「自然」では、里山や休耕地を有効活用できる人、またそれらの人材を育成できる人がいることが分かりました。「産業」では、インバウンドを受け入れるために多言語による情報発信ができる人や、特産品のブランディングができる人の存在があげられました。「ひと」では、スポーツの指導ができることや、スポーツを楽しんだ後に文化や芸術を楽しめる仕組みがあるといったことが話されました。「暮らし」では、観光に関わるテント等の道具や交流スペースを貸すことができる人材がいることが分かりました。また、高齢化に対応する福祉スキルを持つ人が必要なことがあがりました。ワークを通じて、自分ができることが沢山あげられたということは、白馬村にはそれだけ優秀な人材が眠っているとも捉えます。自分たちができることが明確に眠っているからこそ、これから白馬に関わろうとしている村外の人でも入りやすい環境があるといえます。以下はテーマごとにあげられた意見の説明です。

説明意見の見方

左 2015年度アイデアキャンプから見えた課題 …… **右** 今回のアイデアキャラバンで提案されたこと

自然について

自分にできること

- 里山の維持 …… マウンテンバイクやウォークランに使えるトレイルの整備
- 休耕地の有効活用 …… グループでの米作り
- 中心部の景観改善 …… 景観デザインが多少できる
- 除雪体制の維持 …… 除雪機械の運転ができる
- その他 …… 白馬の自然を守る人材の育成

実現するために必要な人やスキル

- 休耕地の有効活用 …… エコロジーなイベントを催せる人
- 中心部の景観改善 …… 補助金を持ってこれる人

産業について

自分にできること

- 雇用先の確保 …… 企業に雇用関係助成金の提案ができる
- 後継者の確保 …… そば打ちの若い後継者を探している職人の紹介と場所の提供
- 観光産業の推進 …… 高校生がプロデュースして企画運営をする
- 外国人への情報発信 …… インターナショナル人材を活かしてキャンプができる
- 観光生産物のブランド化 …… 農産物のブランド化への支援

実現するために必要な人やスキル

- 観光産業の推進 …… 「山」にもっと深く関われる観光資源づくり
- 観光産業の推進 …… 着付け・マッサージなどをやってくれる人
- 観光生産物のブランド化 …… インタビューや体験を受け入れてくださる方

ひとについて

自分にできること

- 保育環境の充実 …… 子ども達をあずかれる
- 教育活動の推進 …… 絵本がたくさんあるので子どもたちの図書館ができる
- 文化芸術活動の推進 …… 文化財の情報発信
- スポーツ施設の有効活用 …… 自転車ルートの発信
- スポーツ指導者の確保 …… スポーツ大会・マラソン大会への宣伝活動ができる

実現するために必要な人やスキル

- 教育活動の推進 …… 古民家や民家を安く貸してくれる人
- スポーツ指導者の確保 …… シニアスキーヤーの指導システム
- スポーツ指導者の確保 …… シニアフィットネス出張指導

暮らしについて

自分にできること

- 交通の確保 …… 大型自動車を運転できる
- 医療体制の拡充 …… ボランティア電話通訳
- 介護人材の確保 …… 高齢者福祉の勉強会
- 移住者向けの情報発信 …… 不動産情報を発信できる
- 住民交流の促進 …… 地下室をバンドの練習に貸せる

実現するために必要な人やスキル

- 交通の確保 …… 全スキー場を結ぶ交通手段が欲しい
- 介護人材の確保 …… 介護施設へのレクリエーションセラピー
- 住民交流の促進 …… 若い人が意見を言える場といえる人

実施・運営 （株）studio-L www.studio-l.org/

問合わせ先 白馬村役場総務課企画係 〒399-9301 白馬村大字北城7015番地
TEL 0261-72-5000 FAX 0261-72-7001 E-mail hakuba@vill.hakuba.lg.jp

studio-L

studio-L（スタジオエル）は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合振興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。

写真：1日目ブレインストーミングの様子

白馬アイデアキャラバン便り

HAKUBA IDEA CARAVAN LETTER

アイデアキャラバンについて

白馬村では現在、今後10年間の村づくりの指針となる「白馬村第5次総合計画」のうち、前期5年間の基本計画の策定を進めています。2015年度から将来の村づくりについて意見交換をしてきました。今年度は「アイデアキャラバン」というかたちで、白馬村や東京にて、多様なアイデアを村内外の人たちと意見交換してきました。最終となる今回は、白馬村にて1泊2日形式で、具体的な将来像とそこに向かって自分たちには何ができるかを考えました。村外からのご参加も多数あり、基本構想で掲げた白馬の「多様性」や「学びあい」が現れる2日間となりました。

1日目午後 **プチツアー** 白馬村現状の把握 → 1日目・夜 **よなよな会議** 村内各地区の交流 → 1日目 **ブレインストーミング** 将来像と具体的な動きの検討

策定状況について

総合計画は、今後10年間の村の基本方針となる「基本構想（2015年3月議会承認済み）」と具体的な動きを示す「基本計画」から成ります。基本構想のテーマを「白馬の豊かさとは何か ～多様であることから交流し学びあい成長する村～」としました。白馬には、四季折々の自然の美しさ、伝統保存地区、観光地としての資源など多様な豊かな環境があります。これからも白馬の豊かさを問い続け、多様性を活かしながらも、変化の激しい社会状況をみんなで考えて、学びあいながら生きていくという想いが込められています。初日には、現状の計画書案を配布し、参加者の皆さんに確認をお願いしました。

基本構想の概念図

1日目 フィールドワークを通じて具体的な取組みの芽を探りました

1日目は、参加者同士で白馬のイメージを共有することを主目的に、各チームで決めたテーマ（地域自治・教育・交流）に沿って、チームにわかれてプチツアー（フィールドワーク）と称して村内を見てまわりました。ツアーでは、白馬村民が中心となり村の魅力や課題、各地区の取組みについて説明し、白馬村独自の特徴を体感しました。

白馬をめぐるプチツアー

白地図に発見したことをまとめました

ツアー終了後、会場にもどってきて白地図に各地で気づいた魅力や課題を議論しながら記入していきました。村民として改めて感じたことや、村民でもいったことがなかった場所での気づき、村外からきた人の視点など様々な角度から白馬のいまを見直しました。

各チームからの発表

地域住民の自治によって保たれている自然景観【地域自治チーム】

大出の清水や、野平を見てきました。外から来た人にとっては、美しい自然も、実際には地域の人たちの努力あってこその景観なのだということを知りました。昔は、子どもたちの仕事として保っていたそうですが、年々子どもが減り、いまでは大人の役割になっているそうです。また、観光客が増えることで、地域住民が自治してきたものも崩される懸念もあるため、ルールづくりの必要性を感じました。

豊かな環境を活かした教育と情報発信【教育チーム】

しろうま学舎や北尾根高原、姫川源流などを見てまわり、山や川、公営塾など、改めてよい生活ができる村だと認識しました。都会と違って、当たり前のようにある自然は、子どもたちの豊かな心を育てられる場だと思いました。一方で、教育に対する情報発信は不足しているように感じます。いま9,000人いる人口を維持するには、地域住民が楽しんでいる様子を、面として発信していく必要があるといったことを話しました。

交流の場となるリアルプラットホーム【交流チーム】

白馬村には多くの面白い人がいます。しかし、こういった人たちが交流できる場が中々ありません。ツアー中に「いまは閉鎖されているスキー場も上まで登れば絶景が見れる」といったことを聞いたが、交流の場ができれば、こういった場も再度注目をあびるようになるのではないかと思います。健康やおいしい食べ物、価値の共有などテーマを設けて話し合えるような場になればといったことを意見交換しました。

1日目の講評

studio-L 腰越氏より

地域自治チームの発表であったように、人の手が入っているところにはどこにでも価値があって、自然や文化をどう守っていくかという「ルールづくり」に課題があります。この場のようにみんなでつくっていくやり方もあると思います。教育チームの、豊かな心を育てるというのは重要ですし、交流チームの出会いにも繋がる要素だと思います。白馬に限らずこれからの時代、居住人口を増やすのは難しいです。基本構想でも謳ったように、「学びあう」というのがキーワードとして現れましたね。

よなよな会議を開催し、村内外の交流を深めました。

アイデアキャラバンの夜は長い！ということで、会の終了後は、白馬のおいしい食事を食べながら、集まった人同士で、これからの白馬についてざっくばらんに話しました。

未来の白馬村に必要な具体的な取組みを考えました

2日目は、初日で見えてきた課題をもとに、これからの白馬村に必要だと思う具体的な取組みについてのワークを行ないました。また、晴天に恵まれたのでジャンプ台前の広場に出て、チームビルディングを兼ねた簡単な演劇を行ないました。

チーム分け

1日目に気づいたことをもとに、これから自分がやってみたいと思うことを一人ひとり発表しました。その結果、同じ興味関心をもった3つのチーム（暮らし・食・交流）ができました。

チームビルディング

最終日に楽しく意見交換ができるように、ジャンプ台前にて各チーム、お題に沿った演劇をし、何をしているかを当て合いました。白馬村一暑い日になりましたが、暑さに負けず盛り上がりを見せました。

ブレインストーミング

①自分が考える「豊かな生活」②そのためにできる具体的な取組み③自分にできることを各チームでブレインストーミングしました。

【進め方】

太字＝自分が考える「豊かな生活」	
他＝具体的な取組み	自＝自分ができること
アイデア	アイデア

●もっと交流・出会いの場を生み出したい

具体的な取組み	自分ができること
マルシェ・イベントの定期開催	・売り子やります
交流会の定期開催	・東京から見た魅力を話せます ・告知宣伝します

●自分らしく白馬で暮らせる（＝楽しめる）

具体的な取組み	自分ができること
先進的な場所作り	・若者が集う場所作ります
リブランディングが必要	・訪日外客対応に翻訳アプリ活用ができます ・コンセプト、リブランディングできます

●デュアルライフなまちにしたい！

具体的な取組み	自分ができること
ちょっと○○したい！ （農業・DIY・田舎暮らし）	・田舎暮らしファシリテーターやります ・SNSで拡散の手伝いします
デュアルライフ者の把握 →知る交流→次のステージへ	・デュアルライフ会議を開催します

●子育て世代が住みやすい村にしたい

具体的な取組み	自分ができること
プレ移住体験	・職場でプレ移住企画を相談してみます
田舎の子育ての良さを伝える	・子供がスキーをする良さを伝えます

●白馬暮らしを知ってもらえるようにしたい

具体的な取組み	自分ができること
白馬マッチングアプリ 先輩住民の話を聞ける	・白馬暮らしについて話せます ・人集めできます
移住希望も短期滞在も 体験談が聞ける	・我が家welcomeです ・地元のこと話せます

●「食」を通して白馬の生産者と都会の消費者をつなげたい

具体的な取組み	自分ができること
農家協力のもとの農業体験 田植え、稲刈り、野菜作り	・農家としてやります
地元の人もいっしょにBBQ 旅行者×地元民大交流会	・旅行者×地元がつながるハイブリッド ・観光ツアー企画やります

2日目の講評

白馬村役場 田中企画係長より

マルシェという話がありましたが、いまの道の駅は購買層を研究する等の工夫が必要です。白馬で買ったというのがひとつのステータスになるので、野菜などの季節もの は「地産地消」として売り出すのは難しい部分もありますが、白馬ブランドとしてやっていく必要があります。教育という面では、いま海外の方が大勢いて、生きた英語を習得できる環境があります。食のアピール同様、教育に関しても、その豊かな環境を発信していかないといけませんね。

studio-L 腰越氏より

移住を考えている人と住んでいる人の考えが二極化している課題が見えてきましたね。受け入れる地元側が多様性を模索しつつも、どんな人に入ってきてほしいかを考えないといけません。一方で、ずっとこの村に暮らし仕事をしている先輩たちの知恵を借りながら、誰がどう仕組みをつくっていくかを考える必要があると思います。また、食という話もありました。食は求心力があってよいコンテンツだと思います。食などのテーマを設定し、個人の繋がりを広げていけば、それが地域の繋がりへと発展していくはずです。

交流し続けるためのプラットフォーム

基本理念に基づき「白馬の豊かさを追求し、皆で一緒に考え、取組みを進めていくために、時期問わずで交流することが求められています。その際に、個人対応、外国人、外出禁止、村外の白馬ファン、行政、企業が対応して課題を解決していける場が必要です。今回の総合計画策定にあわせてプラットフォームをつくっていくことを予定しています。また会合終了後に、電話帳に事務局用とか交流するための「facebookグループ」や「白馬アイデアキャラバンメンバー」を立ち上げました。

自村 行政
↓
共村 プラットフォーム 行政・個人・企業
↓
私村 個人・企業

実施・運営 株式会社studio-L www.studio-l.org/ 問合わせ先 白馬村役場総務課企画係 〒399-9301 長野県北安曇郡白馬村大字北城7010番地 TEL 0261-72-5000 FAX 0261-72-7001 E-mail kekaku@vill.hakuba.lg.jp

白馬アイデアキャラバン便り

HAKUBA IDEA CARAVAN LETTER

東京アイデアキャラバンについて

東京アイデアキャラバン
[日時] 2016.7.12.(Tu)
[場所] Yahoo!Japan社食堂室MOON
[スケジュール]
- 白馬村長よりご挨拶
- 総合計画の策定状況について
- 講演「これからのむらづくり」
- 意見交換「豊かな生活とは」
- 発表・講評
- 今後の流れについて

白馬村では現在、今後10年間の村づくりの指針となる「白馬村第5次総合計画」のうち、前期5年間の基本計画の策定を進めています。2015年度から村内にて、将来の村づくりについて意見交換をしてきました。東京キャラバンでは、白馬出身者や白馬ファンを中心に、都市部と白馬村を比べた豊かな生活について意見交換を行ないました。

白馬村長より

白馬で生まれ育った人や白馬が好きな人に沢山お集まりいただき嬉しく思います。近年では、長野オリンピックやインバウンドの影響もあり国内外から注目される「世界の白馬」と呼ばれるようになりました。本日は、村外からの目線として忌憚のないご意見をいただければと思います。

策定状況について

総合計画は、今後10年間の村の基本方針となる「基本構想（2015年3月議会承認済み）」と具体的な動きを示す「基本計画」から成ります。基本構想のテーマを「白馬の豊かさとは何か－多様であることから交流し学びあい成長する村－」としました。四季折々の自然の美しさ、青鬼集落の伝統保存地区、観光地としての発展、最近では国際観光村もでき、多様な環境があります。これからの白馬の豊かさを問い続け、多様性を活かしながらも、観光産業による変化の激しい環境をみんなで考えていくという想いが込められています。

7/12
東京キャラバン
6/9-7
白馬キャラバン
2016年9月頃
総合計画策定

基本構想の概念図

東京と白馬村をウェブカメラでつなぎました！

白馬キャラバンでの様子が共有され「住民ひとりひとり多様な考え方を持っていて、これからはみんなで協力しあって白馬村を盛り上げたい」といった意気込みが話されました。

講 演

「これからのむらづくり」をテーマに、白馬村長の下川氏、白馬村と連携協定を締結したYahoo株式会社代表取締役社長の宮坂氏、白馬村の総合計画策定支援を行っているstudio-L株式会社代表取締役社長の山崎氏による講演を開催しました。

白馬の魅力や豊かさとは？

さっきネット越しに繋いだ白馬のみんなはおしゃれでニューヨークと繋いでいるといってもおかしくありませんでしたね。村だからどうというのはなくて、東京も白馬も同じような環境がある時代だからこそ、これからどんな可能性があるのかを話してみたいと思います。

白馬はいま、国内外から注目をされ、多くの人に来ていただいています。これは人の豊かさのひとつと言えます。白馬は、観光地であるからこそ、様々なスキルを持った人材と共に築いていくことが大事です。一方で、グリーンシーズンの集客の課題があります。日本広しといえど高山植物が350種類もあるのは白馬でらいです。数多くの財産を活かし、素晴らしい白馬になっていくにはみなさんのお力が必要です。

白馬の人たちが外から「いいね！」といわれていることを自覚し、そこを伸ばすことで、外からの共感を得られ、村にある資源をきっちりと使いこなせていくんだと思います。村長から山岳景観の美しさ、そして多様な高山植物の存在や冬のスキーなどの話を伺いました。いまはそれを目指して世界中から人が来て、そういった多様な人たちと交流し学べるのが白馬の魅力ですよね。

僕はまちづくりの専門家ではないので企業の経営者という立場から話します。ビジネスではよくライバルとの差別化を考えますが、一方で差異化も大事です。例えば、あるスキー場にリフトが5本あればこっちは7本つくる。これは差別化です。差別化はきりがありません。差異化は真似をするのではなく独自なことを磨きまくることです。白馬には、絶対に真似できない山岳景観、人と山の距離感、生物多様性、気候があります。この4つを崩さない取組みを進めるのが大事になるはずです。

―白馬高校国際観光科のねらいとは？

白馬高校に新しく国際観光科ができましたが、あれは高校生の時から自分にしかできないことを学ぶといったねらいがあるのですか？

国際観光科ができるまで、2年連続で定数を割る危機に陥っていました。オリンピック選手を数多く輩出した白馬高校がなくなることは大変だということで、全国から生徒を募集し、英語と観光を学べる科を設立しました。大学は村外へ出て、卒業後は白馬に帰ってきて働いてもらえれば地域の活性化になると考えています。

3年間全国の人たちと学び合って、白馬の唯一無二な差異化を図れるようなネタをみつけて、大学は外で学んで、帰ってくると事業を起こせる、そんなレベルの高い取組みができそうですね。

―Yahooの地域での取組みとは？

Yahooは様々な地域で取組みをされ、さらにそれを加速させると聞いたのですが、具体的にはどんなことをされているのですか？

白馬をはじめ、被災地の復興支援などをしています。eコマースのクライアントが100万人いるとすればその内90%が地方になります。グローバルビジネスと小さなローカルビジネスがあり、ローカルの要素が強いと、海外の影響を受けにくい強みがあります。白馬村はグローバルな要素を持ちながらもローカルの要素を大事にしてほしい。

白馬村はすでにグローバルな要素とローカルな要素を持っていますよね。ヨーロッパやアメリカで何かが起きようとローカルの部分はそんなに影響を受けませんね。Yahooがやっているようにグローバルとローカルな要素をどう融合させるかが大事なんでしょうね。

―もっとこうしたらよいと思うこと

たまには射程距離を100年にするようなことをやってもよいのではないか。企業でやるような3年や5年計画というのはどうしても当事者意識がでてしまうが、30年も経てばほとんどが辞めていますよね。最近のビジネスは変化が激しく、白馬村も100年後に観光業がうまくいっているかは分かりません。もちろん、観光業はいまはやるべき事業だし、村は永遠に続かないといけないものだからこそ、孫や曾孫の世代がどんなイメージの村だとよいかを考える必要があります。

総合計画は10年の計画だが、一度100年後の観光の形態などバックキャスティングを考えてから、手前に引いてくるということを、この10年の計画に組み込めれば視点が広がるかもしれませんね。

未来の予測は、短期ほど難しく、長期ほど簡単です。未来の出生率は分かりませんが、100年後に人口が減少していることはほぼ確定していますよね。どうしてもいろんな情報が入ってきてきりがないですが、まずは何をやるべきなのかを考えないといけません。山岳景観を改善するなら白馬にしかないものを見定めて、よく考えてやっていく必要があるのではないでしょうか。

冒頭で宮坂さんがおっしゃったように、差別化しようとリフトを5本6本としていくと山岳景観が崩れ何をしていたのかとなりかねませんね。白馬住民はもちろん、白馬を応援する方も、未来を見据えて、白馬の魅力を長いスパンをかけて考えていかなければいけませんね。

ワークで

自己紹介を交えながら、ワーク①では「豊かな生活」について、ワーク②では東京ではできないが「白馬村でできる豊かな生活」についての意見交換を行ないました。

ワークであがった主なキーワード

ワークであがった意見を、「基本目標の4つの軸」と、講演であげられた「ローカル・グローバル」という視点から整理しました。

	ローカル	グローバル
暮らし	不便こそ豊か／何もないけどこころが満たされる／人間らしい生活／デュアルライフ／時間に追われない生活	白馬に住むと海外が身近／選択肢が多い／日馬で留学／外国人を受け入れる気質が比較的高い
仕事	自然と情報社会／やりたいことができる／通年できる仕事をつくる／観光業と農業／サテライトオフィス	白馬でも最先端の先進的な仕事はできる／外からの人もお店を出しやすい／人材豊富
ひと	暮らしに必要とされる／受け入れる心を育てる／子育てにベストな環境／みんな親戚みたいな雰囲気	外国人など違うことを知れるのが楽しい／交流拠点の場／コアなファンが存在する／インターナショナルスクール
自然	自然をコンパクトに体験できる／都会と自然のバランスがある／ストレス解消／季節感がある	世界にここだけしかない自然がある／パウダースノー／生きる体験ができる

講　演（一部の講演要旨を抜粋して掲載）

観光客の増加は、村の魅力を伝えているだけで地力の向上にはなっていません。住む人が増え、エネルギッシュに暮らせているかが大事です。また、高校生は学校という限られたコミュニティにいるため、外国人との交流の機会はありません。村民が気軽に交流できればと思います。

豊かな生活＝ストレスフリーという言葉に集約されました。東京と比較すると不便なことは多々あるが、山の景観がそれをカバーするほど素晴らしいです。平日は東京で稼ぎ、週末は白馬でストレスを解消できるような、デュアルライフの場が求められていることが分かりました。

白馬の豊かさを盛り上げる株式会社白馬があればよいのではといったことがあげられました。白馬もディズニーランドのようにいけば楽しいと思ってもらうには、住んでいて不便なことは村の中だけに留めて、観光に来てくれるお客さんにはみんなが口を揃えて「白馬はいいよ」といえばさらに盛り上がるのではないかと思います。

講　評

白馬は、豊かさを量的に増やさなくても享受できるポジションにいることが面白いですね。日本のGDPは中国に負けているが、ひとりあたりの豊かさは圧倒的に勝っています。村全体の人口総量よりも、ひとりあたりがどうなのかが重要です。インバウンドが加速し、人が5倍に増えたら村はどうなるのかといったリスクも村だからこそ潜んでいます。

かつては、冬に働けば1年中遊んで暮らせる時代もありました。産業を活性化するには河山の人に来てもらう必要もありますが、白馬に来てよかった、そして都会へ帰って気持ちよく仕事をしてもらえるかがこれからのキーポイントになることを感じました。

次の時代に向けてビジョンを描く必要があります。多様な働き方ができる時代だからこそ、強いビジョンの中でどんな働き方や暮らし方ができるのかを考えないといけません。一方で1945年、農村人口が8割、都市人口が2割だったのがこの70年で逆転しました。いま都市にいる8割は地方にいた人の子孫であり、この親たちは地方のコミュニティの中で育ってきました。その子孫たちは、都市の生活の中で親の教育と社会とのずれを感じているはずです。田園回帰といわれるいま、このチャンスを逃さないようにすることが白馬に求められることなのではないでしょうか。

ポイント　白馬の食材をつかったメニューを楽しみました

おやき、蕎麦、村民は芋バーガー、はくばの豚、はおずきジュース、ブルーベリージュースを食べながら、講演やワークショップをしました。おいしいメニューがあることで会話がはずみました。

次回『白馬アイデアキャラバン』のご案内

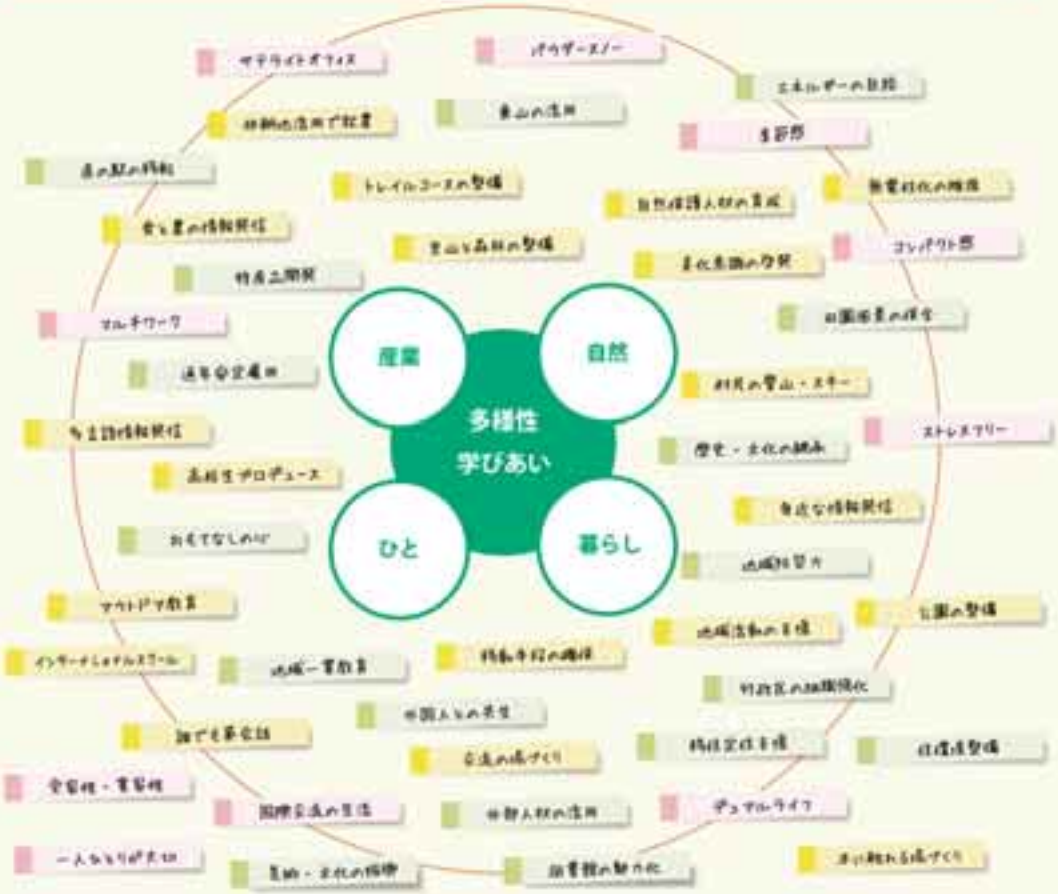
1日間をかけて合宿形式で、村民や村外の白馬ファンが集まり、今後白馬でやってみたいと思う活動を考えます。

【日時】08月6日（土）10時～18時08月7日（日）9時～13時【会場】白馬村保健福祉ふれあいセンター【申込方法】申込フォーム（http://jpn.jp/69web）または古本（ふりがな）、住所、電話番号をwakuku@vill.hakuba.lg.jpまでお送りください。

詳しくは、白馬村役場ホームページ（http://www.vill.hakuba.lg.jp/）をご覧ください。

実施・運営　㈱studio-L　URL www.studio-l.org/　問合わせ先　白馬村保健福祉課企画係　〒399-9301 白馬村大字北城7010番地　TEL 0261-72-5000　FAX 0261-72-7001　E-mail wakuku@vill.hakuba.lg.jp

白馬アイデアキャラバンで寄せられた意見（集約）

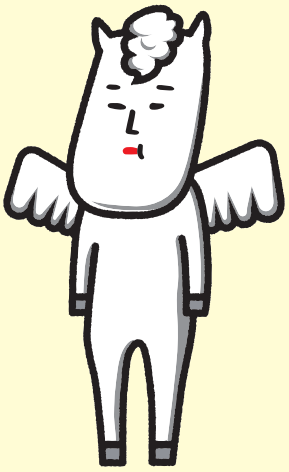


白馬村第５次総合計画

平成28年12月発行

発　行：白　馬　村　役　場

印　刷：有限会社北辰印刷



白馬村キャラクター

ヴィクトワール・シュヴァルブラン・村男Ⅲ世